User Guide

For your safety and comfort

RZ550e / RZ500e / RZ350e

笑顔になれるような移動の体験を、このお車とともに。
私たち一人一人のこの想いは、いつの時代も変わることはありません。

「人々を安全・安心に運び、心までも動かす」

お客様の安全・安心が私たちの最優先事項です。
ドライバーであるお客様のご理解と行動に、本書がお役に立つことができれば幸いです。

User Guide について

この User Guide には、基本的な操作、万一の場合に必要な情報、安全に関する情報などを抜粋して記載しています。

安全・安心に運転いただくために、乗車前に必ずお読みください。
また、運転時はいつでも確認できるよう、車内に保管しておくことをおすすめします。

詳しい取扱情報については、デジタル取扱説明書をご覧ください。
デジタル取扱説明書には最新の情報を掲載しています。
https://manual.lexus.jp/rz/3109/bev/ja_JP/contents/home.php

User Guide は従来の取扱説明書に比べ大幅にページ数を削減しているため、
印刷や輸送に伴う CO2 排出量の低減が見込まれます。
持続可能な社会を構築するために
レクサスはこれからも取扱説明書のあり方を見直してまいります。

QR コードは（株）デンソーウェーブの登録商標です。
フリー／オープンソースソフトウェア情報については、デジタル取扱説明書をご覧ください。

第 1 章 Starter Guide
スターターガイド

出発前に準備すること

ドアをロック／ロック解除する P. 11
ドアを開ける P. 12
パワーバックドアを開閉する P. 13
正しい運転姿勢をとる ※
フロントシートを調整する P. 14
フロント席ヘッドレストを上下調整する P. 14
ハンドルの上下／前後位置を調整する P. 15
インナーミラーの位置を調整する P. 15
ドアミラーの角度を調整する P. 16
ドアミラーを格納する／もどす P. 17
ドアガラスを開ける／閉める P. 18
EV システムを始動する P. 19
車内の温度を調整する ※
オーディオのソースを変更する P. 20
Bluetooth® 機器をマルチメディアシステムから登録する P. 20
目的地検索について P. 21
住所で目的地を検索する P. 21

走行中の操作

シフトポジションを切りかえる P. 22
パーキングブレーキを手動でかける／解除する P. 24
パーキングブレーキを自動でかける／解除する P. 24
右左折や車線変更するときの操作 P. 25
点灯のしかた P. 27
ハイビームに切りかえる P. 29
フロントワイパーを使う P. 30



充電のしかた

普通充電するときは P. 34
急速充電・
V2H 充電／ V2H 給電するときは P. 35

トラブルに対応する

警告灯がついたときは P. 10
タイヤパンク応急修理キット／
工具の搭載位置 P. 36
補機バッテリーがあがったときに
EV システムを再始動する P. 37
電子キーが正常に働かない状態で
EV システムを始動する P. 38
ドア開スイッチでドアを開ける
ことができない P. 39

高速道路を走行するとき

車線内中央の走行維持や車線変更のハンドル操作を支援する ※
車線からのはみ出しを警告で防ぐ ※
最適な車間距離を保って追従走行する ※

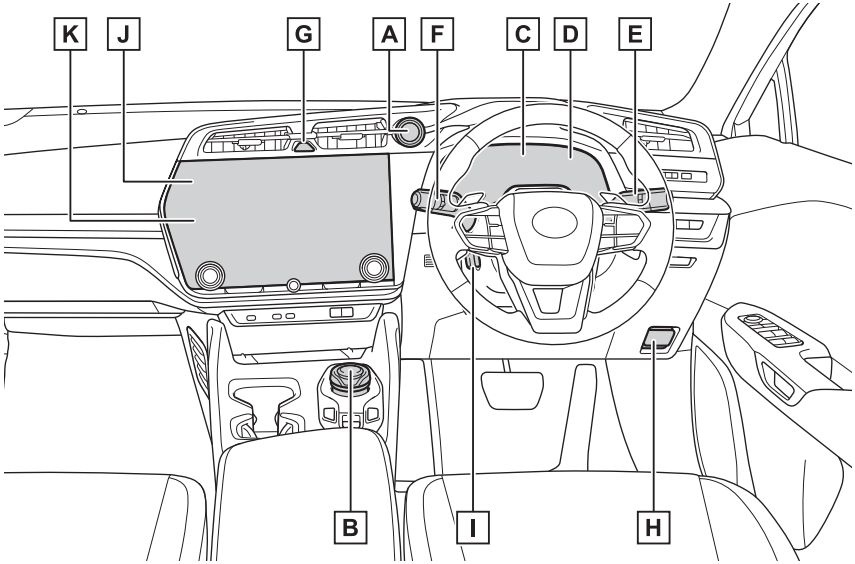
目的地に到着したら

低速時に障害物との接近を検知して音と画面で知らせる ※
Advanced Park メインスイッチを押して駐車操作を支援する ※
パーキングブレーキを手動でかける／
解除する P. 24
パーキングブレーキを自動でかける／
解除する P. 24
EV システムを停める P. 19
ドアを開ける P. 12
ドアをロック／ロック解除する P. 11



※：WEB 掲載のデジタル取扱説明書をご覧ください。

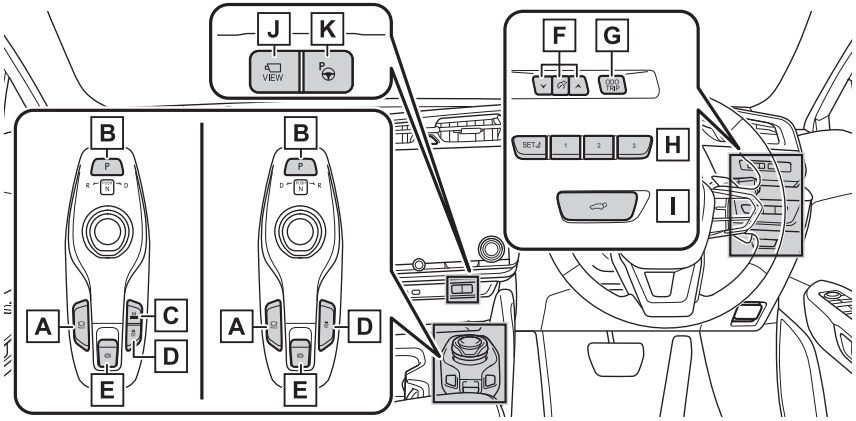
インストルメントパネル



A パワースイッチ
B ダイアル式シフト
C メーター
D マルチインフォメーションディスプレイ
E 方向指示レバー／ランプスイッチ
F ワイパー＆ウォッシャースイッチ
G 非常点滅灯スイッチ※
H ボンネット解除レバー※
I ハンドル位置調整スイッチ
J オートエアコン※
K オーディオ※

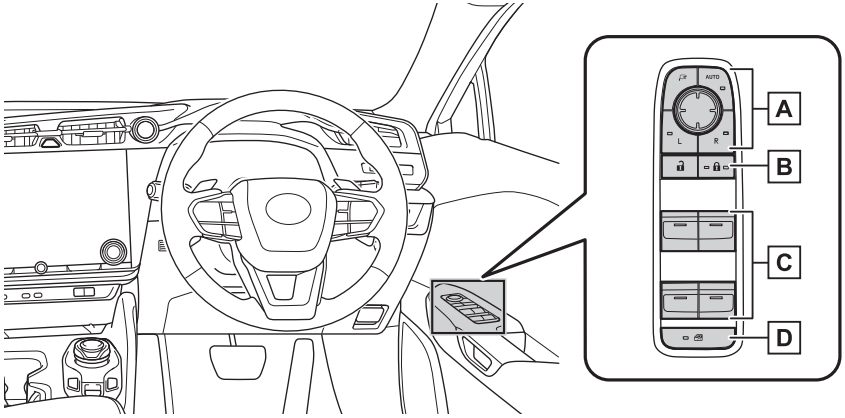
※：WEB 掲載のデジタル取扱説明書をご覧ください。

スイッチ類



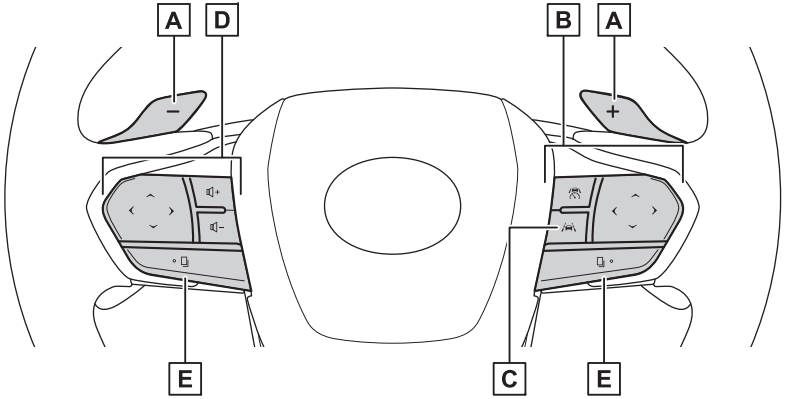
A ブレーキホールドスイッチ※
B P ポジションスイッチ
C M モードスイッチ★※
D VSC（ビークルスタビリティコントロール）OFF スイッチ※
E パーキングブレーキスイッチ
F インストルメントパネル照度調整スイッチ※
G ODO ／ TRIP スイッチ※
H ポジションメモリースイッチ※
I パワーバックドアスイッチ
J カメラスイッチ※
K Advanced Park（駐車支援システム）メインスイッチ※

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。
※：WEB 掲載のデジタル取扱説明書をご覧ください。



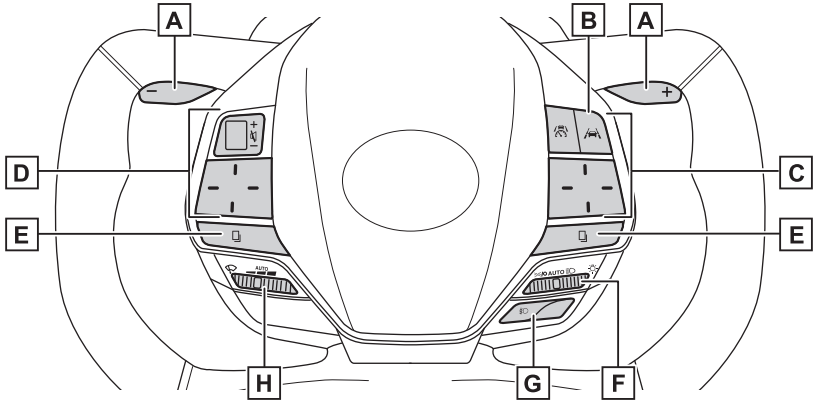
A ドアミラースイッチ
B ドアロックスイッチ※
C パワーウインドウスイッチ
D ウインドウロックスイッチ※

※：WEB 掲載のデジタル取扱説明書をご覧ください。



A パドルシフトスイッチ ※
B クルーズコントロールスイッチ ※
C LTA（レーントレーシングアシスト）スイッチ ※
D オーディオ操作スイッチ／電話スイッチ／トークスイッチ ※
E 機能切りかえスイッチ ※

※：WEB 掲載のデジタル取扱説明書をご覧ください。



A パドルシフトスイッチ※

B LTA（レーントレーシングアシスト）スイッチ※

C クルーズコントロールスイッチ※

D オーディオ操作スイッチ／電話スイッチ／トークスイッチ※

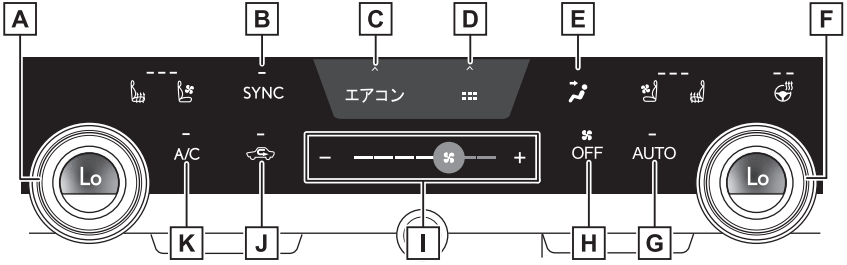
E 機能切りかえスイッチ※

F ヘッドランプスイッチ

G マルチウェザーライトスイッチ／リヤフォグランプスイッチ※

H ワイパー速度切りかえスイッチ

※：WEB 掲載のデジタル取扱説明書をご覧ください。



A 助手席側温度調整スイッチ※
B “SYNC” スイッチ（各席連動モード）※
C エアコンオプション画面表示スイッチ※
D ショートカット画面表示スイッチ※
いくつかの機能へのショートカットアイコンが表示されます。
E 吹き出し口切りかえスイッチ※
F 運転席側温度調整スイッチ※
G “AUTO” スイッチ※
H “OFF” スイッチ※
I 風量調整スイッチ※
J 内外気切りかえスイッチ※
K “A/C” スイッチ※

※：WEB 掲載のデジタル取扱説明書をご覧ください。

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。

■ ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。



（赤色）　（黄色）　（点滅）　（黄色）　（黄色）　（黄色）



（黄色）　（黄色）　（赤色）　（黄色）　（点灯）　（点滅）

■ シートベルトを着用してください。

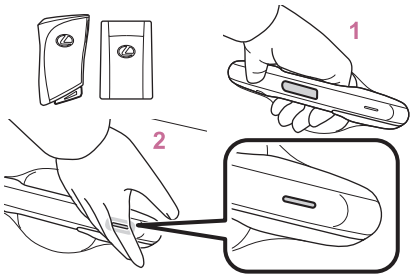


■ 駆動用電池を充電してください



ドアの開閉

ドアをロック／ロック解除する



必ず運転者が電子キー（カードキー含む）をポケットなどに携帯してください。

1 ハンドルを握ってロック解除します。

ハンドル裏面のセンサー部に確実にふれてください。

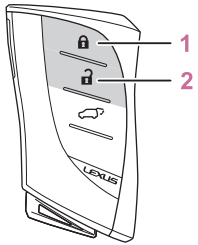
ロック操作後 3 秒間はロック解除できません。

2 ドアハンドル表面のロックセンサー部（ハンドルのくぼみ部）にふれロックしてください。

必ずロックされたことを確認してください。

ロックするとオートアラームが設定されます。

■ ワイヤレスリモコンでドアをロック／ロック解除する



1 全ドアをロックします。

必ずロックされたことを確認してください。

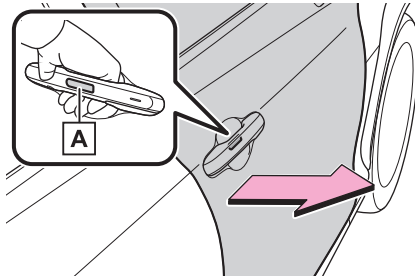
2 全ドアをロック解除します。





ドアを開ける

▶ 車外



ドアがロックされているとき：

電子キーを携帯して、ドアハンドルのドア開スイッチ[A]を押してドアを開きます。

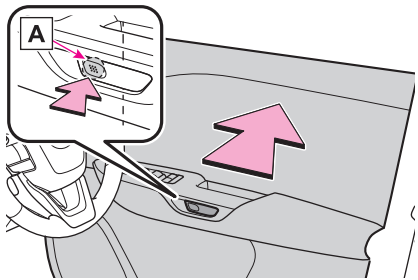
電子キーが検知エリア内にある状態で、ドアハンドル裏面のドア開スイッチ[A]を確実に押してください。

ドアがロック解除されているとき：

ドアハンドルのドア開スイッチ[A]を押してドアを開きます。

ドアハンドル裏面のドア開スイッチ[A]を確実に押してください。

▶ 車内



運転席ドア：

ドアがロックになっていても、ドア開スイッチ[A]の前側を押すとドアが開きます。

ドアがロック解除されると、ドアロックインジケーターが消灯します。

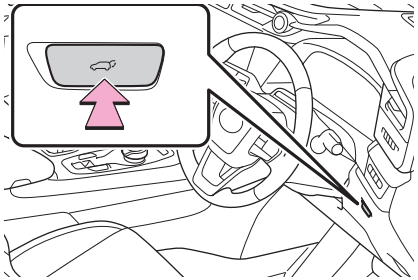
運転席以外のドア：

ドアロックスイッチを押してロック解除し、ドア開スイッチ[A]の前側を押すとドアが開きます。

ドアがロック解除されると、ドアロックインジケーターが消灯します。

パワーバックドアを開ける / 閉める

パワーバックドアを開閉する



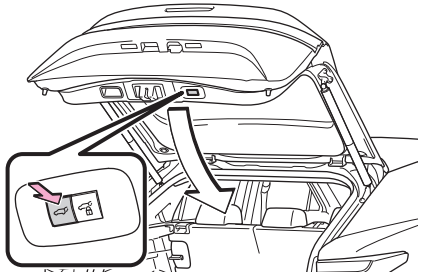
■ 車内のスイッチでパワーバックドアを開ける／閉める

を約 1 秒押し続けます。

ブザーが鳴りパワーバックドアが自動で開閉します。ただしパワーバックドアロック状態では、スイッチは作動しません。

開閉の作動中に を押すと、開閉の作動を停止します。

開閉の作動を停止した状態から再度、 を押すと、パワーバックドアは反転作動します。



■ スイッチでパワーバックドアを閉める

を押します。

ブザーが鳴り、パワーバックドアが自動で閉まります。

パワーバックドアが閉まる途中で を押すと、作動を停止します。

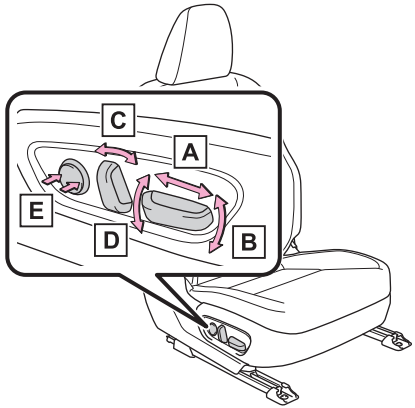
再度 を押すと、パワーバックドアは自動で開きます。



シートを調整する

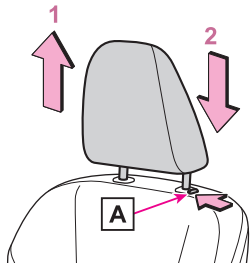


フロントシートを調整する



A 前後位置調整
B クッション前端の上下調整
C リクライニング調整
D シート全体の上下調整
E 腰部硬さ調整（運転席のみ）

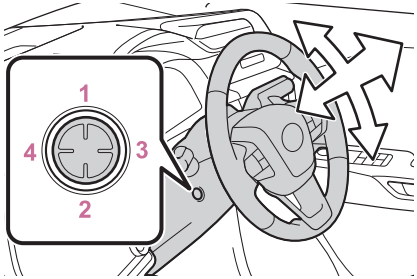
フロント席ヘッドレストを上下調整する



ヘッドレストはすべてのシートに装備されています。
1 上げる
2 下げる
下げるときは、解除ボタンAを押しながら操作します。

ハンドルとミラーの位置調整

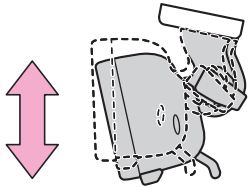
ハンドルの上下／前後位置を調整する



スイッチを押すと、ハンドルを次の方向に動かします。

1 上方へ
2 下方へ
3 手前へ
4 前方へ

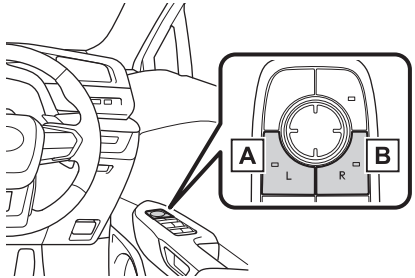
インナーミラーの位置を調整する



鏡面ミラーモードに切りかえて、インナーミラー本体を持って、上下方向に調整します。



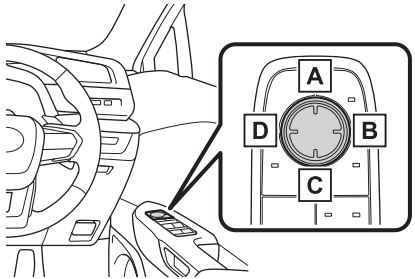
ドアミラーの角度を調整する



1 調整するミラーを選びます。

A 左側ミラー選択

B 右側ミラー選択



2 ミラーの鏡面を調整するにはスイッチを押します。

A 鏡面を上に調整

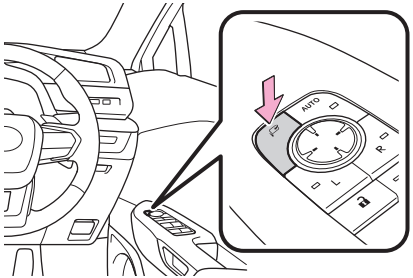
B 鏡面を右に調整

C 鏡面を下に調整

D 鏡面を左に調整



ドアミラーを格納する／もどす



■ マニュアル作動での格納／復帰

ボタンを押す

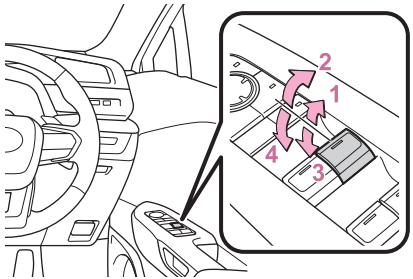
もう一度押すと、もとの位置にもどります。



ドアガラスを開ける／閉める



パワーウィンドウスイッチで窓を開ける／閉める



1 パワーウインドウスイッチを途中まで上げます。
スイッチを上げているあいだ、窓ガラスが閉まります。

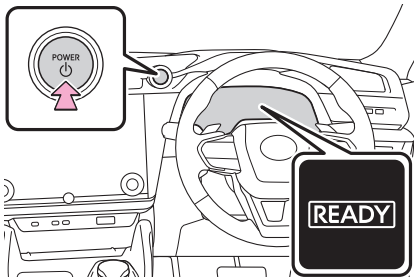
2 パワーウインドウスイッチを完全に上げます。
自動で窓ガラスが閉まります。
途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。

3 パワーウインドウスイッチを途中まで押します。
スイッチを押しているあいだ、窓ガラスが開きます。

4 パワーウインドウスイッチを完全に押します。
自動で窓ガラスが開きます。
途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。

EV システムの始動と停止

EV システムを始動する



1 充電ケーブルが車両に接続されていないことを確認する
2 パーキングブレーキがかかっていることを確認するため、パーキングブレーキスイッチを引く
3 ブレーキペダルをしっかり踏みます。
4 パワースイッチを短く確実に押します。
5 “READY” インジケーターが点灯したことを確認します。

EV システムを停める

1 車両を完全に停止させます。
2 パーキングブレーキをかけます。
3 P ポジションスイッチを押します。
4 パワースイッチを押します。
5 ブレーキペダルから足を離してメーターの “ アクセサリー ” や “ パワー ON” の表示が消灯していることを確認する



音楽を再生する



オーディオのソースを変更する



ラジオや USB などのソースを選択できます。

1 メインメニューの にタッチします。
2 [オーディオ選択] にタッチします。
3 希望のソースにタッチします。

Bluetooth® 機器をマルチメディアシステムから登録する

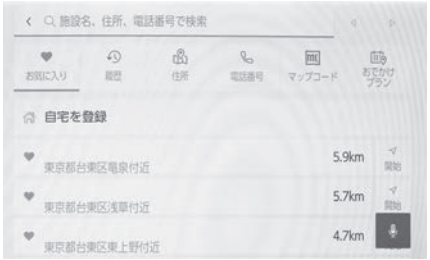
ハンズフリー電話や Bluetooth® オーディオを使用するためには、携帯電話／ポータブル機をマルチメディアシステムに登録する必要があります。登録完了後は、マルチメディアシステムを起動するたびに自動で Bluetooth® 接続されます。

Apple CarPlay/Android Auto を USB で接続したときは、自動的に機器登録されます。

Bluetooth® 機器が 1 台も接続されていない場合、ステアリングの スイッチを押し続けることでも登録画面を表示できます。

目的地を検索する

目的地検索について



目的地検索画面から目的地を検索し、設定できます。

1 地図画面上の🔍にタッチします。
2 目的地検索画面が表示されます。
目的地の検索方法にタッチします。
3 検索結果リスト画面が表示されます。
リストから目的地に設定したい項目にタッチします。

- すでに目的地が設定されているときは、[新規目的地]（新しく目的地を設定）、または [経由地追加] にタッチします。
- G-Link 契約時は、G-Link センター上のコンテンツを活用した目的地検索を行うこともできます。

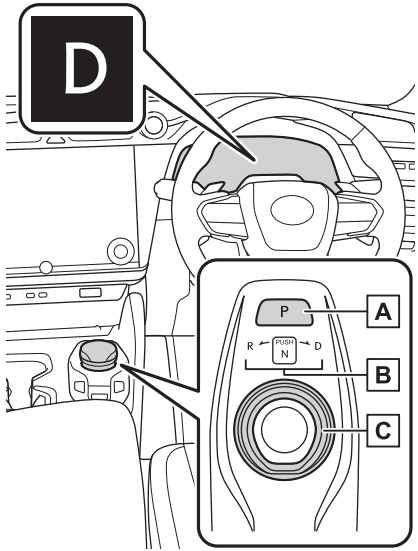
住所で目的地を検索する

1 地図画面上の🔍にタッチして、目的地検索画面を表示します。
2 [住所] にタッチします。
3 都道府県名・市区町村名・町名・丁目（字）の順にタッチします。
[○○主要部] にタッチすると、広域図が表示されます。
4 [番地指定] をタッチします。
5 [検索] にタッチします。



シフトポジションを切りかえる





A P ポジションスイッチ

P ポジションに切りかえるには、車を完全に停止させ、パーキングブレーキをかけ、P ポジションスイッチを押してください。

シフトポジションを P にすると、スイッチが点灯します。

シフトポジション表示灯が P であることを必ず確認してください。

B シフトポジション表示灯

C ダイヤル式シフト

ダイヤル式シフトは、ゆっくり確実に操作してください。

N に切りかえるときは、ダイヤル式シフトを押したまま、しばらく保持します。

R または D に切りかえるときは、ダイヤル式シフトを押したまま、シフトポジション表示灯の矢印に従って左または右に回してください。

ダイヤル式シフトを操作したあとは、ダイヤル式シフトから手を離してください。ダイヤル式シフトが定位置にもどります。

P から N・D・R、および N・D・R から P へ、または D から R、および R から D へ切りかえるときは、ブレーキペダルを踏み、車が完全に停止している状態で行ってください。

■ シフトポジションの使用目的

目的に応じたシフトポジションを選択してください。

シフトポジション	目的および状態
P	駐車または EV システムの始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行または M モード★での走行

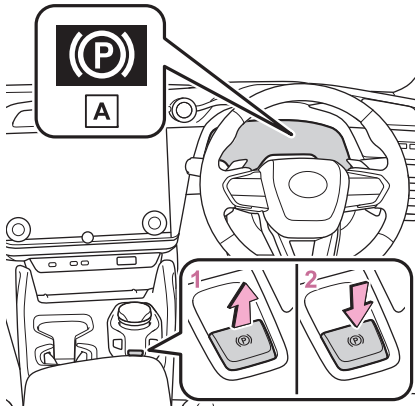
■ P から他のシフトポジションに切りかえる

- ブレーキペダルをしっかり踏みながら、ダイヤル式シフトを操作します。(ブレーキペダルを踏まずにダイヤル式シフトを操作すると、ブザーが鳴りシフトポジションの切りかえができません)
- 操作後は、シフトポジション表示灯で、目的のシフトポジションに切りかわったことを必ず確認してください。

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



パーキングブレーキを手動でかける／解除する（マニュアルモード）



A パーキングブレーキ表示灯

1 スイッチを引き、パーキングブレーキをかける

パーキングブレーキ表示灯が点灯します。

緊急時、走行中にパーキングブレーキをかける必要があるとき、スイッチを引き続けてください。

2 スイッチを押し、パーキングブレーキを解除する

- ブレーキペダルを踏みながら操作してください。
- パーキングブレーキ自動解除機能により、アクセルペダルを踏むことでパーキングブレーキを解除することができます。アクセルペダルを踏むときはゆっくり踏んでください。

解除後、パーキングブレーキ表示灯が消灯します。

パーキングブレーキ表示灯が点滅した場合は、再度スイッチを操作してください。

パーキングブレーキを自動でかける／解除する（オートモード）

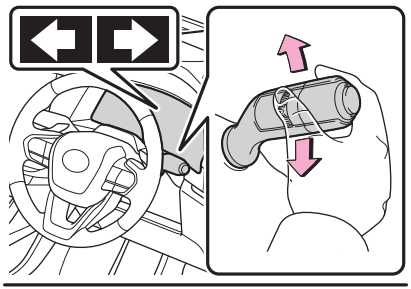
停車中に、ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが出るまでスイッチを引き続ける。

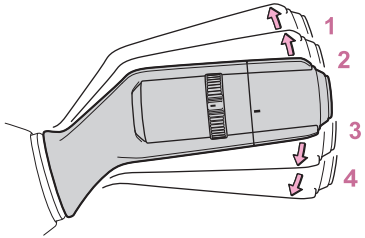
オートモードを ON にすると、パーキングブレーキが次のように作動します。

- シフトポジションを P から P 以外にすると、パーキングブレーキが解除され、パーキングブレーキ表示灯が消灯します。
- シフトポジションを P 以外から P にすると、パーキングブレーキがかかり、パーキングブレーキ表示灯が点灯します。

右左折や車線変更するときの操作

▶ 異形ステアリング非装着車



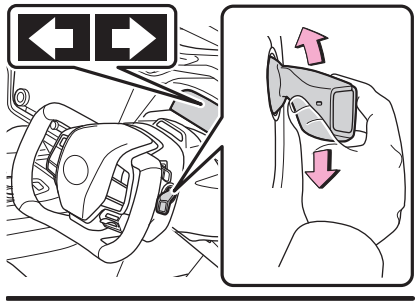


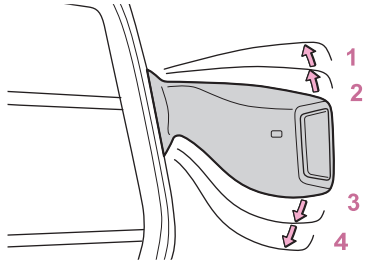
1　1 の位置までレバーを傾けます。
左側方向指示灯が点滅します。
2　2 の位置までレバーを傾け、離します。
左側方向指示灯が５回点滅します。
3　3 の位置までレバーを傾け、離します。
右側方向指示灯が５回点滅します。
4　4 の位置までレバーを傾けます。
右側方向指示灯が点滅します。



▶ 異形ステアリング装着車

レバーは操作したあと、すぐにもとの位置にもどります。





1　1 の位置までレバーを傾けます。

左側方向指示灯が点滅します。

2　2 の位置までレバーを傾け、離します。

左側方向指示灯が 5 回点滅します。

3　3 の位置までレバーを傾け、離します。

右側方向指示灯が 5 回点滅します。

4　4 の位置までレバーを傾けます。

右側方向指示灯が点滅します。

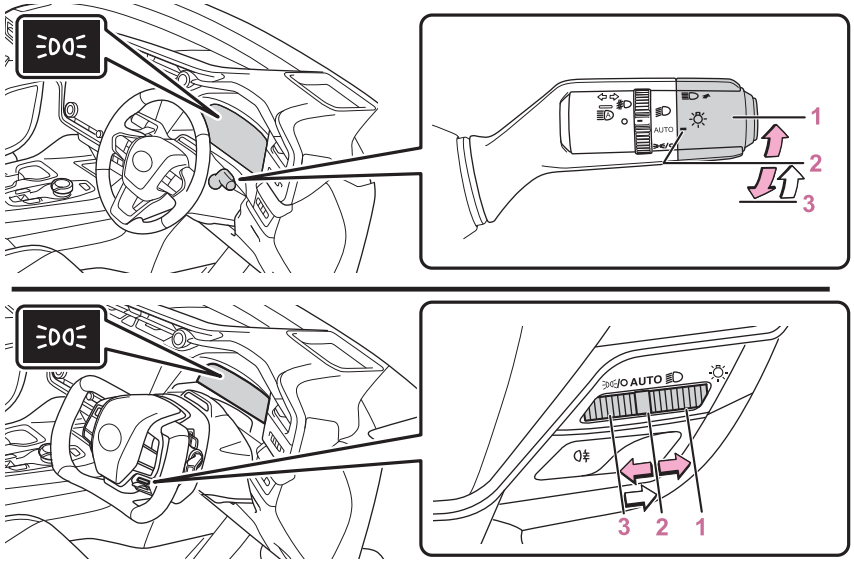
■ 右左折後に方向指示灯の点滅が停止しない場合や、点滅を中止させたいとき

レバーを逆方向の 2 または 3 の位置に操作してください。レバーを 1 または 4 の位置まで操作すると、選択した方向指示灯が点滅します。

ヘッドランプの使用

点灯のしかた

次のように　スイッチを操作すると、ランプが点灯します。



1　ヘッドランプ／スモールランプ※1 が点灯します。

2　AUTO※2

周囲が明るいとき：LED デイタイムランニングランプが点灯します。
周囲が暗いとき：ヘッドランプ／スモールランプ※1 が点灯します。





3 ※2

周囲が明るいとき：スモールランプ※1 が点灯します。
周囲が暗いとき：スモールランプ※1 ※3 が点灯します。

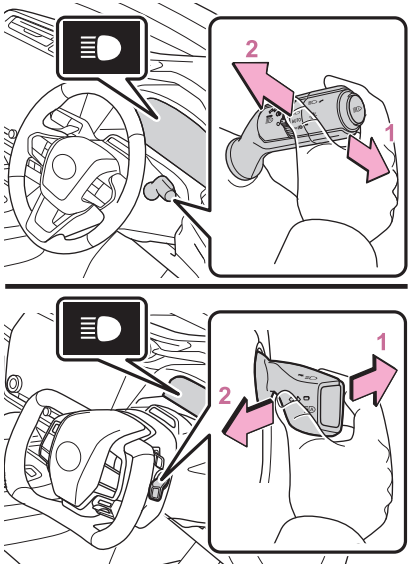
スイッチを 3 の位置へ操作し手を離すと、自動的に 2 AUTO の位置へ戻ります。

※1: スモールランプは、車幅灯・尾灯・インストルメントパネルランプを意味します。

※2: 3 の状態に切りかえるには スイッチを 3 の位置で約 1 秒保持してから、手を離します。
約 1 秒保持しないと、ランプ類の作動は 2 AUTO のまま変化しません。

※3: 停車中から低車速での走行中にのみ点灯します。ただし、一定の車速をこえるか、走行開始後しばらくすると自動で解除され、2 AUTO での点灯状態にもどります。

ハイビームに切りかえる



1 ランプが点灯した状態で、レバー前方に倒します。

ハイビームに切りかわります。

異形ステアリング非装着車：レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。

異形ステアリング装着車：レバーを手前に引くとロービームにもどります。

2 レバーを手前に引きます。

レバーを引いているあいだ、ハイビームが点灯します。

ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。

レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。

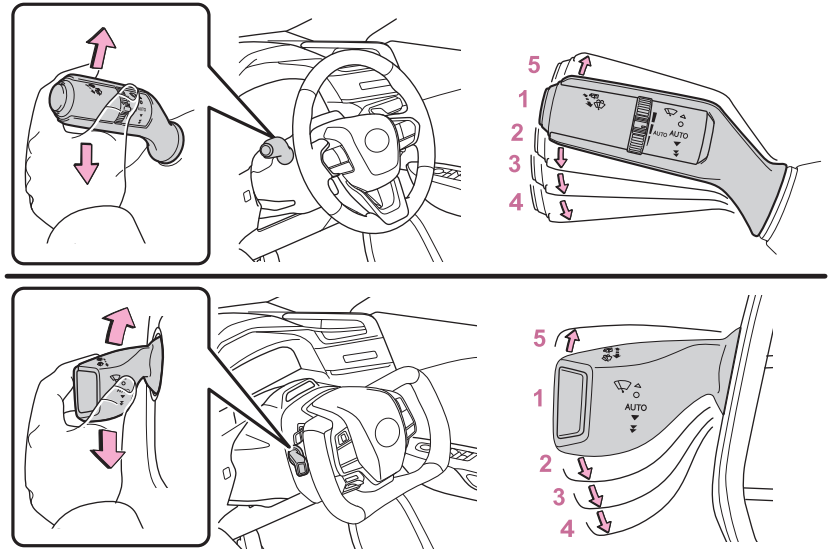


雨の日の視界を確保する



フロントワイパーを使う

次のよう にレバーを操作すると、ワイパーが作動します。



1 O 停止

2 AUTOAUTO モード

雨滴量と車速に応じてワイパーが作動します。

3 ▼ 低速作動

4 ▼▼ 高速作動

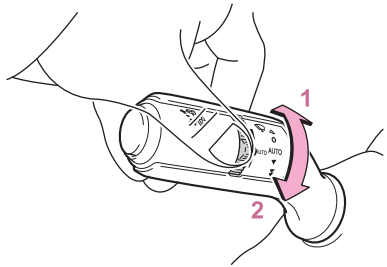
5 △ 一時作動



ワイパーの速度の切りかえ

AUTOが選択されているときは、雨滴センサーの感度を調整できます。

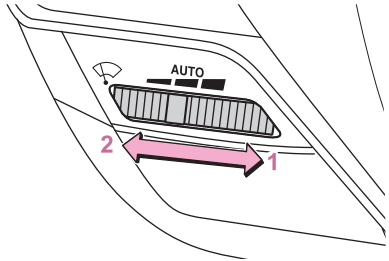
▶ 異形ステアリング非装着車



1 雨滴センサーの感度調整（高）

2 雨滴センサーの感度調整（低）

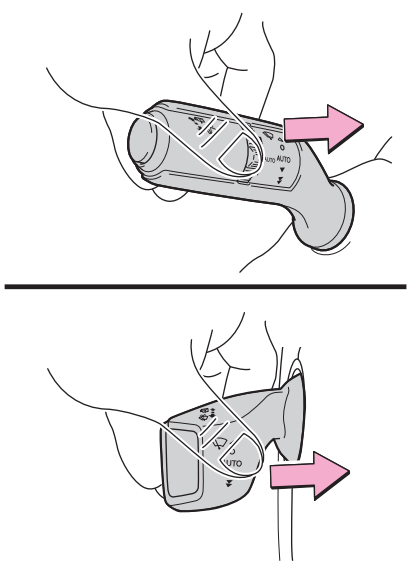
▶ 異形ステアリング装着車



1 雨滴センサーの感度調整（高）

2 雨滴センサーの感度調整（低）

フロントウォッシャーを使う



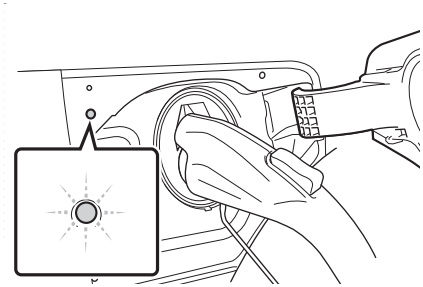
レバーを手前に引きます。

ワイパーと連動してウォッシャーが作動します。

ヘッドランプが点灯しているときに 5 回連続で手前に引くと
ヘッドランプクリーナーが作動します。



普通充電するときは



1 普通充電ケーブルを用意する
2 普通充電ケーブルの電源プラグを外部電源のコンセントに挿し込む
3 車両のドアを解錠して、普通充電リッドを開ける
4 普通充電コネクターの保護キャップをはずし、ケーブルにかけて固定する
5 普通充電コネクターを普通充電インレットに挿し込む
6 充電ポートの充電インジケーターが点灯していることを確認する

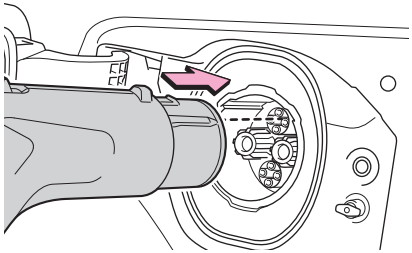
■ 普通充電コネクターの接続後に充電ポートの充電インジケーターが点滅したとき

充電スケジュールが登録されている状態になっており、充電を開始することができません。充電スケジュールをキャンセルして充電を開始したいときは、次のいずれかの操作を行ってください。

- “ 今すぐ充電 ” を ON にする
- 充電インジケーターが通常の速さで点滅しているあいだに、接続した普通充電コネクターを取りはずして、すぐに接続し直します。この操作をすると、充電電流と充電量上限の設定が一時的に初期設定になります。



急速充電・V2H 充電／ V2H 給電するときは



1 車両のドアを解錠して、急速充電リッドを開ける

2 急速充電リッド（車両の左側）を開けると、急速充電インレット照明が点灯します。

3 急速充電コネクターを急速充電インレットに挿し込む

“ カチッ ” という音がして、急速充電コネクターが確実に接続されたことを確認してください。

急速充電コネクターの形状や取り扱い方法などは、急速充電器（スタンド）・V2H 機器のタイプにより異なります。

急速充電器（スタンド）・V2H 機器の取り扱い方法に従って、作業を行ってください。

4 急速充電器（スタンド）・V2H 機器を操作して急速充電・V2H 充電／ V2H 給電を開始する

具体的な開始方法については、急速充電器（スタンド）・V2H 機器の取り扱い方法に従ってください。

システムチェックが実施されたあと、急速充電・V2H 充電／ V2H 給電が開始されます。

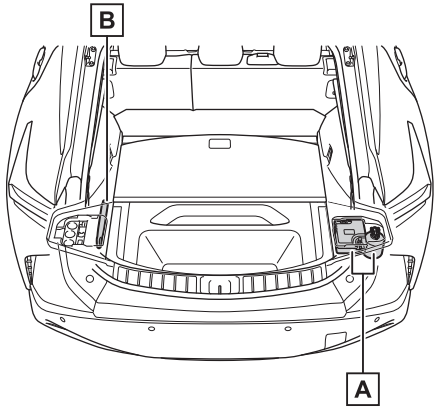
急速充電・V2H 充電／ V2H 給電を中断したいときは、急速充電器（スタンド）・V2H 機器の取り扱い方法に従って、停止してください。





各対処法の手順や注意事項等については、WEB 掲載のデジタル取扱説明書をお読みください。

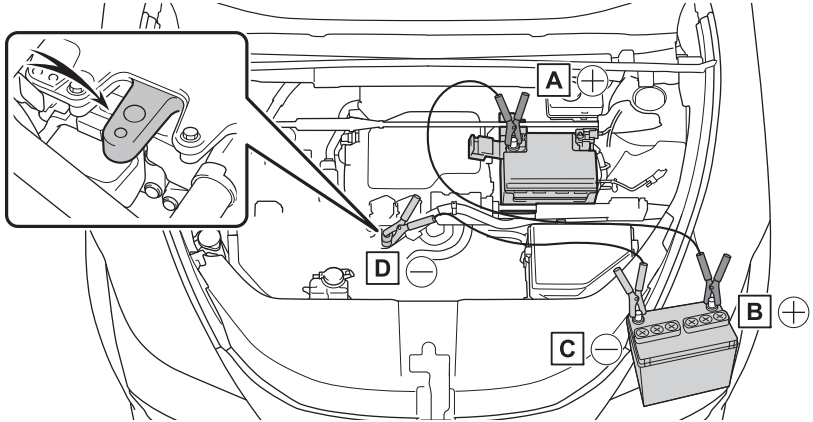
タイヤパンク応急修理キット／工具の搭載位置



A タイヤパンク修理キット
B けん引フック

このお車のホイールボルトの締め付けトルクは 140N・m (1428kgf・cm) です。

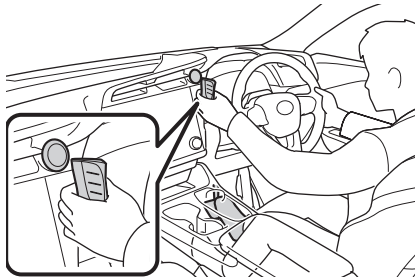
補機バッテリーがあがったときに EV システムを再始動する



A 救援用端子（自車）
B バッテリーの＋端子（救援車）
C バッテリーの－端子（救援車）
D 図に示す金属部



電子キーが正常に働かない状態で EV システムを始動する



1 シフトポジションが P の状態でブレーキペダルを踏みます。

2 図のように、電子キーまたはカードキーでパワースイッチにふれます。

電子キーを認識するとブザーが鳴り、パワースイッチのモードが ON へ切りかわります。

車両カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムの設定が非作動になっている、かつ ACC カスタマイズが ON のときは、ACC へ切りかわります。

3 ブレーキペダルをしっかりと踏み込んで、マルチインフォメーションディスプレイにが表示されていることを確認します。

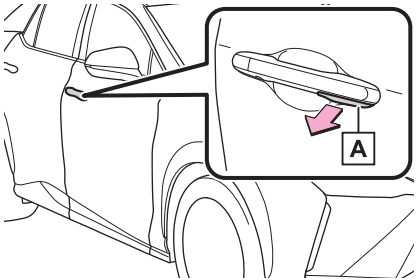
4 パワースイッチを押します。

上記の処置をしても作動しないときは、レクサス販売店にご連絡ください。



ドア開スイッチでドアを開けることができない

▶ 車外

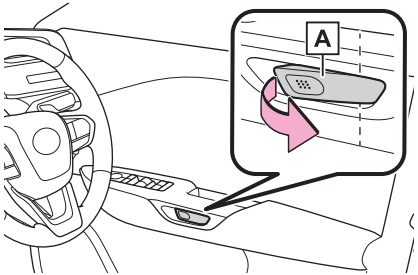


手動リリースハンドルAを手前に引いてドアを開きます。

通常、手動リリースハンドルではドアを開けることができません。

ドアを開けるには作動を有効にする必要があります。

▶ 車内



手動リリースハンドルAを手前に 2 回引いてドアを開きます。

1 回ハンドルを引くと作動が有効になり、再度ハンドルを引くとドアが開きます。



第 2 章 Safety Guide
セイフティーガイド

車の点検整備のお願い 42
ドア／窓に挟み込まれないために 44
フロアマットの状態確認 46
シートベルトを正しく着用するために 47
子どもを車に乗せるときは 49
SRS エアバッグの効果を最大限発揮するために 54
荷物を積み込むときは 57
事故を起こさないために 59
天候や路面状況に応じた運転 60
天候や路面状況に応じた駐停車 63
Lexus Safety System + 等の運転支援装置を使用するときは 64
車両を緊急停止させるときは 65
車両が故障したときは 66
電波が心臓ペースメーカー等に及ぼす影響 68

本章は代表的な車種をもとに説明しています。
そのため、お客様の車にはない装備の説明が記載されている場合があります。

車の点検整備のお願い

車両の点検／整備

EV／FC システムを始動する前に、日常点検を実施してください。日常点検で異状を見つけたときは、販売店へご連絡ください。

点検方法については、別冊の「メンテナンスノート」をお読みください。

日常点検の点検項目

■ ボンネットを開けて

各液量を確認してください。

- ブレーキフルード
- 冷却水
- バッテリー液
- ウォッシャー液

■ 車のまわり

タイヤの状態やランプ類の状態を確認してください。

- ランプ類の点灯／点滅
- タイヤの亀裂、損傷の有無
- タイヤの空気圧
- タイヤの溝の深さ

■ 運転席のまわり

走行に必要な装備の状態を確認してください。

- かかり具合（EV／FC システムの始動状態）・異音
- ウォッシャー液の噴射状態
- ワイパーのふき取り具合
- ブレーキの踏み残りしろと効き具合
- パーキングブレーキの引きしろ（踏みしろ）
- 低速／加速状態

EV／FC システム取扱い上の注意

EV／FC システムには、高電圧の部位や高温になる部位があります。取り扱いにはご注意ください。

車両の不正改造と影響

不正改造とは、車の保安基準を満たさない改造を行うことです。

保安基準を満たさない部品の取り付けや、保安基準で定められた部品の取り外しなども、不正改造になります。

不正改造車は、公道を走行できません。もし走行してしまうと、ドライバーだけでなく、周りの人たちの安全を脅かすおそれがあります。

車両の不正改造の例とそれに伴う危険性



車高の変更

ステアリング操作等への影響



フロントガラスへの着色フィルム等の貼り付け

運転時の視野の確保における影響



タイヤのはみ出し取り付け

歩行者等に危害を与えるおそれ



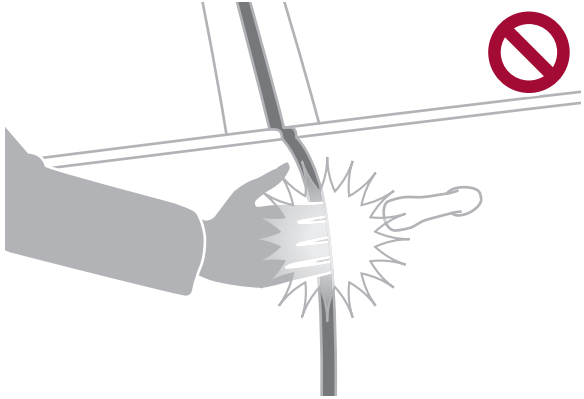
ランプ類の変更

他の交通への誤認や事故を誘発するおそれ

ドア／窓に挟み込まれないために

ドアや窓、トランク、バックドア、ムーンルーフの開閉時に体を挟んだり、壁や天井などにぶつけたりしないように注意してください。

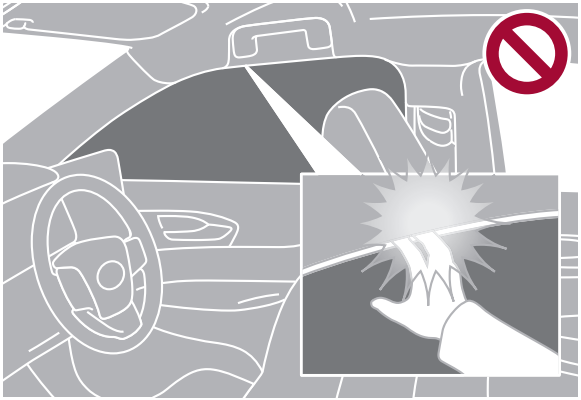
イージークローザー（自動閉じ装置）★作動中は体を挟まないように注意する



イージークローザー（自動閉じ装置）には、自動で動作を止める機能はついていません。ドアやトランク、バックドアを閉めるときは、体を挟まないように注意してください。

★：イージークローザー装着車のみ

パワーウインドウ作動中は体を挟まないように注意する



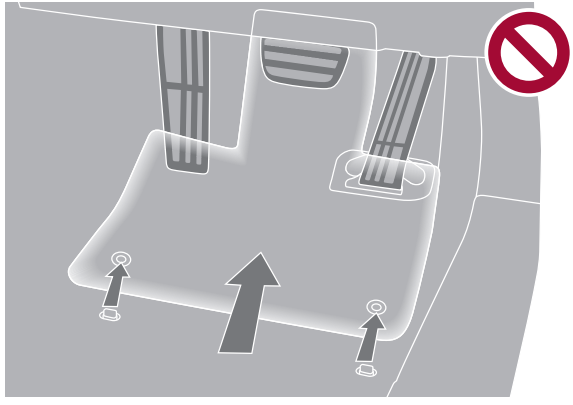
ドアガラスが完全に閉まる直前は、挟み込みを防止する機能が作動しないことがあります。

また、スイッチを引き続けた状態では挟み込みを防止する機能は作動しません。体を挟まないようにご注意ください。

ドアガラスを閉めるときは、体を挟まないように注意してください。特に、子どもが体を外に出さないように、声かけをしてください。

フロアマットの状態確認

オートマチック車の例



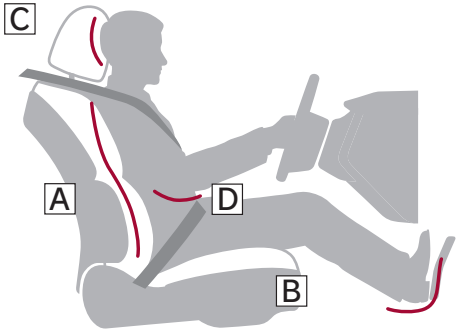
次のことを必ずお守りください。

- フロアマットをすべての固定フック（クリップ）で、正しい位置にしっかりと固定してください。
- レクサス純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しないでください。
- 運転席専用のフロアマットを使用してください。
- 他のフロアマット類と重ねて使用しないでください。
- 各ペダルを奥まで踏み込んでも、フロアマットと干渉しないことを確認してください。確認は、EV ／ FC システムが停止している状態およびシフトポジションが P の状態で行ってください。

シートベルトを正しく着用するために

正しい運転姿勢をとる

1 運転するときは、正しい運転姿勢をとります。



A まっすぐ座り、運転操作をしたときに体が背もたれから離れない角度に調整

B ペダルが踏み込め、ハンドルを握ったときにひじが少し曲がるシート位置に調整

C ヘッドレストの中央部分を耳のいちばん上のあたりに調整

D シートベルトを正しく着用

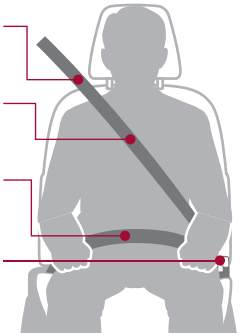
2 各装備の位置を調整したあとは、固定されていることを確認します。

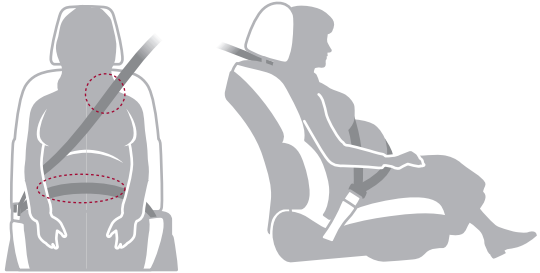
背もたれと背のあいだにクッションを入れないでください。

シートベルトの正しい着用

次のことを確認して、シートベルトを正しく着用します。

- 肩部ベルトは首にかからないようにする
- シートベルトのねじれがないようにする
- 腰部ベルトを腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 上体が起きるように背もたれを調整して、深く腰かける





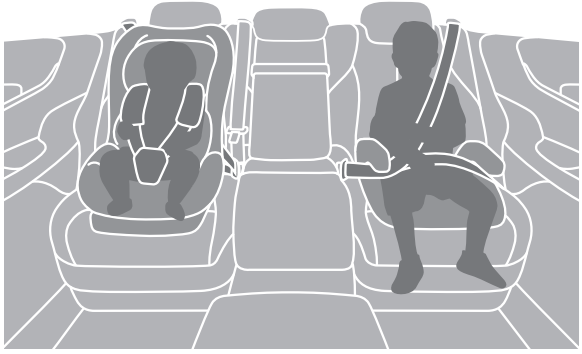
妊娠中のシートベルトの着用に関する注意

医師に注意事項を確認の上、以下のとおりにシートベルトを必ず正しく着用してください。

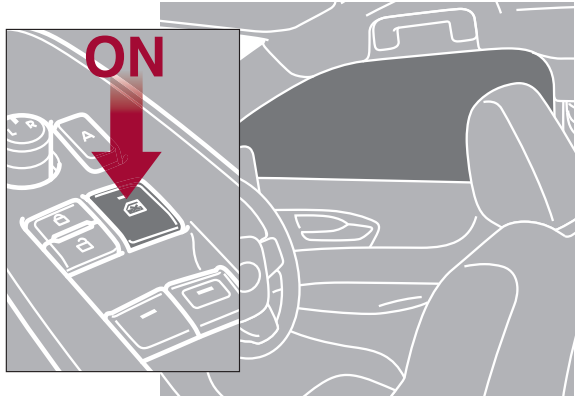
- 腰部ベルトは腰骨のできるだけ低い位置にかけるため、お腹のふくらみの下に着用する
- 肩部ベルトは肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかけて着用する

子どもを車に乗せるときは

子どもを車に乗せるときは、次のことを必ずお守りください。思わぬ事故や重大な傷害につながるおそれがあります。また、最悪の場合には死亡事故につながるおそれがあります。



- 子どもにもシートベルトを着用する
  シートベルトを正しく着用できない小さな子どもを乗せるときは、チャイルドシートを使用してください。チャイルドシートは、子どもを安全に守るように設計されています。
- 子どもはリヤシートに乗せる



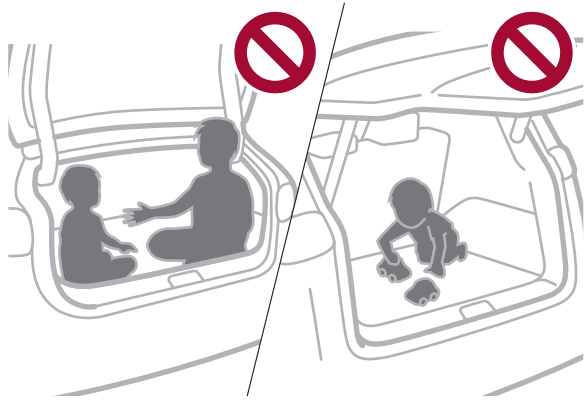
- 子どもには、パワーウインドウ、ドア、およびシートなど、体を挟まれるおそれがある装備類を操作させないでください。
- 子どもがドアやパワーウインドウの開閉などでけがをしないように、チャイルドプロテクターやウインドウロックスイッチを使用してください。



● 車を離れるときは、子どもを連れて出る

子どもだけを車の中に残さないでください。日中の車内は非常に高温になるため、重大な健康障害につながるおそれがあります。

また、子どものいたずらにより、車の誤発進や車両火災など、思わぬ事故につながるおそれがあります。



● 座席以外に人を乗せない

トランクやラゲージルームなどに誤って閉じ込められた場合、重大な健康障害につながるおそれがあります。

チャイルドシートの利用



シートベルトを正しく着用できない小さな子どもを乗せるときは、チャイルドシートを使用してください。チャイルドシートは、子どもを安全に守るように設計されています。

チャイルドシートはリヤシートに取り付けることを推奨します。安全のため、チャイルドシートは、リヤシートに取り付けてください。

チャイルドシートは子どもの体格にあった適切なものを用意してください。

チャイルドシートの取り付け前には、必ずチャイルドシートに付属する取扱説明書をよくお読みください。



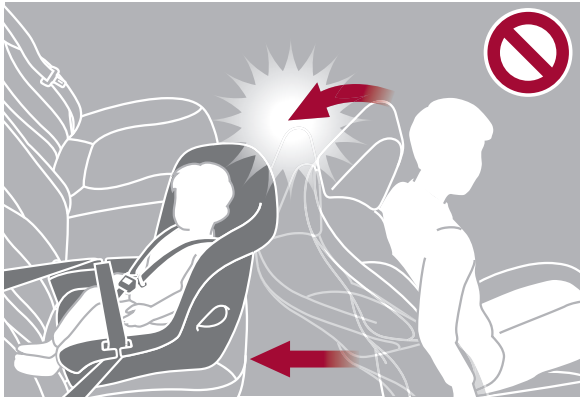
- 助手席にチャイルドシートを取り付ける場合

  やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付けるときは、必ず前向きに取り付けてください。チャイルドシートを後ろ向きに取り付けていると、SRS エアバッグが作動したときの衝撃で重大な傷害を受け、死亡に至るおそれがあります。



- 助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合

  助手席にチャイルドシートを取り付けるときは、助手席をいちばん後ろに下げてください。SRS エアバッグが作動したときの衝撃で重大な傷害を受け、死亡に至るおそれがあります。



- 運転席と干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合

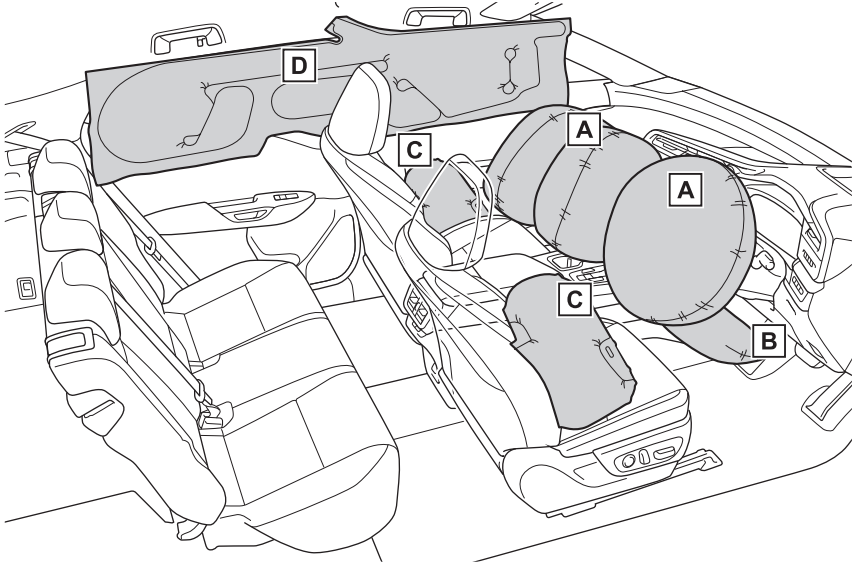
  運転席を調整したときに、チャイルドシートと運転席が干渉する場合は、助手席側のリヤシートにチャイルドシートを取り付けてください。

  助手席とチャイルドシートが干渉しないように、助手席を調整してください。

SRS エアバッグの効果を最大限発揮するために

SRS エアバッグは、乗員に重大な危害がおよぶほどの強い衝撃を受けたときにふくらみます。SRS エアバッグとシートベルトの働きによって、乗員への衝撃を緩和します。

SRS エアバッグの配置



A フロント SRS エアバッグ（運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ）

運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和

B SRS ニーエアバッグ

運転者と助手席乗員の衝撃緩和を補助

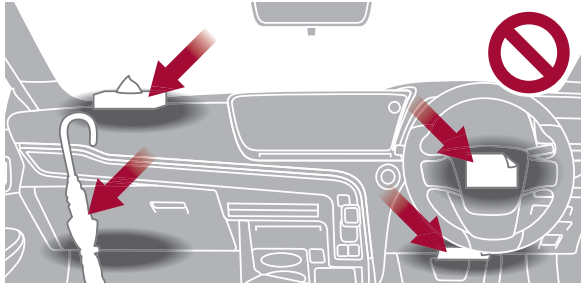
C SRS サイドエアバッグ

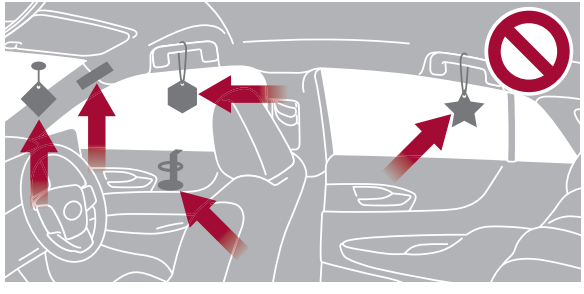
フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和

D SRS カーテンシールドエアバッグ

フロント席とリヤ外側席乗員の主に頭部への衝撃を緩和

SRS エアバッグの効果を得るために



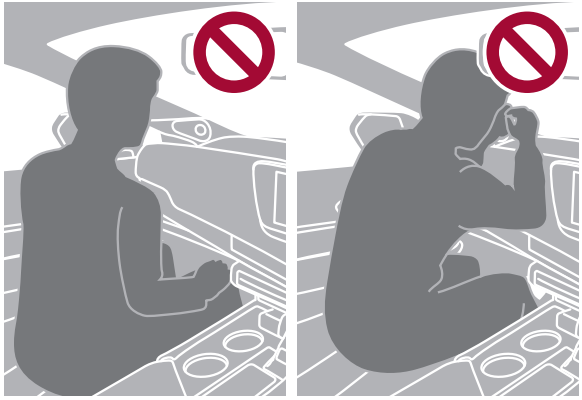


SRS エアバッグが展開する次のような部位に何かを付けたり、置いたり、かけたりしないでください。SRS エアバッグが正常に作動するのをさまたげ、システムが作動しない、または誤って作動するおそれがあります。

- ダッシュボード
- ハンドルのパッド部分
- インストルメントパネル下部
- ドア
- フロントガラス
- ドアガラス
- フロントピラーおよびリヤピラー
- ルーフサイドレール
- アシストグリップ

また、コートフックにはハンガーなどのかたいものをかけないでください。

正しい姿勢で乗車しないと、SRS エアバッグ作動時の強い衝撃によって、重大な傷害を受けることがあります。次の内容にしたがって、正しい姿勢で乗車してください。



- シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない。



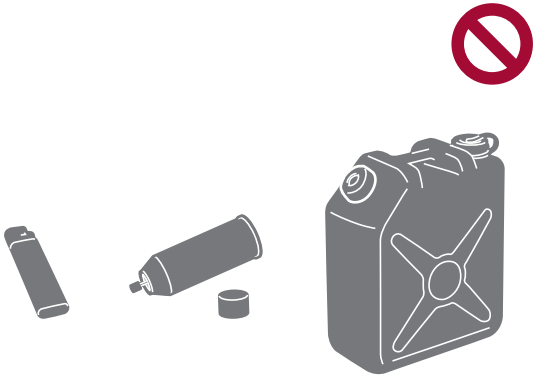
- ドアやフロントピラー／センターピラー／リヤピラー／ルーフサイドレールへ寄りかからない。

SRS エアバッグ展開時の注意事項

SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、SRS エアバッグにふれないでください。

荷物を積み込むときは

車両に積んではいけないもの



燃料が入った容器やスプレー缶などの揮発性や発火性のあるものを積むと、車両火災につながるおそれがあり危険です。

車両に荷物を積むときの警告事項

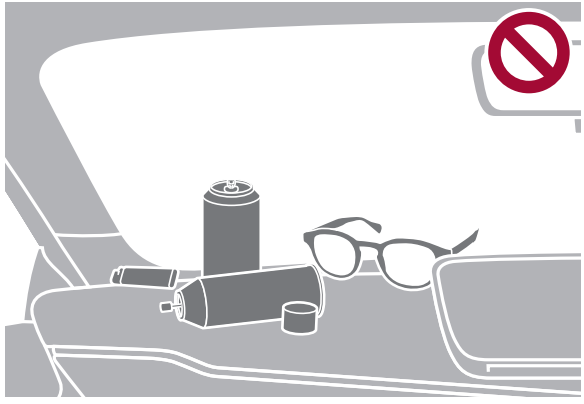


次のことをお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 次の場所には荷物を積まないでください。
  ・運転席の足元　・パッケージトレイ　・インストルメントパネル　・ダッシュボード ・センターディスプレイの前
- 助手席やリヤシートには荷物を積み重ねないでください。
- 室内に積んだ荷物はすべて、しっかりと安定させてください。

カップホルダーはふたを閉じているときでも、カップや缶以外のものを置いたり、収納したりしないでください。
カップホルダーには、カップや缶以外のものを置かないでください。

車両に放置してはいけないもの



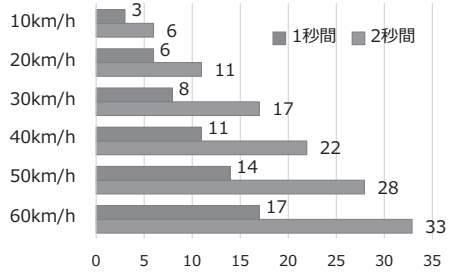
次のものを収納装備に放置しないでください。
思わぬ事故や傷害につながるおそれがあります。

- メガネ
- ライター
- スプレー缶
- 炭酸飲料の缶など

事故を起こさないために

わき見運転の危険性

<車が1秒間・2秒間で進む距離>

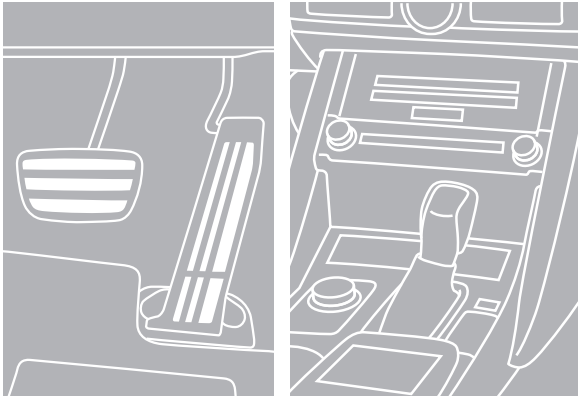


(秒速[m/s]=時速[km/h]÷3.6で算出、小数点以下四捨五入)

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中はシートやハンドル、各種ミラーといった、運転にかかわる装備の調整をしないでください。
- スマートフォン・ナビ画面の操作など、わき見運転は、絶対にしないでください。
  ほんの数秒であっても、車は数十メートル進むため、事故につながることがあります。

ペダルの位置とシフトポジションを正しく確認してください



次のことをお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を十分把握した上で運転してください。
- 発進や後退をするときは、適切なシフトポジションが選択されていることを確認してください。
- 後退するときは、ペダルの踏み間違いや踏みすぎに注意してください。

天候や路面状況に応じた運転

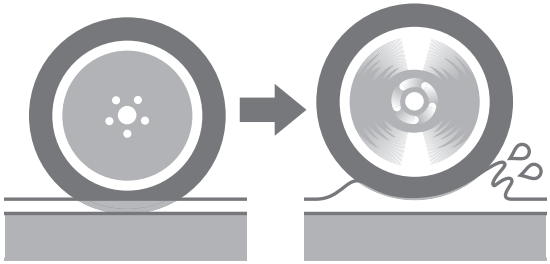
すべりやすい路面を運転するとき



雨や雪、凍結などで路面が滑りやすくなっているときは、安全に配慮した運転を心がけ、特に次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 車間距離を長くとる
- スピードを控えめにする
- 急発進や急加速、急ブレーキをしない
- 急ハンドルをしない
- 急激なシフト操作をしない
  水たまり走行後は、ブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。

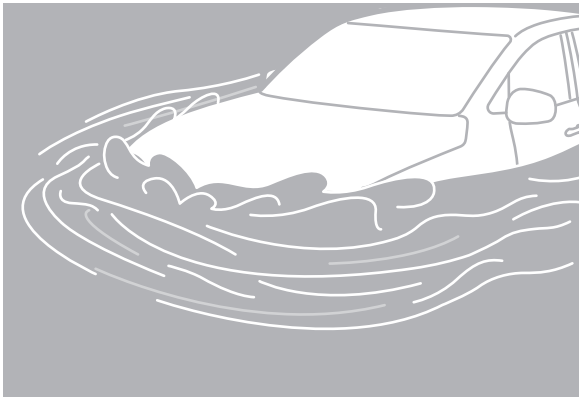
雨でぬれた路面を走行するとき



雨でぬれた路面を高速で走行すると、ハイドロプレーニング現象が発生することがあります。ハイドロプレーニング現象が発生すると、ブレーキやハンドルが効かなくなるため、アンチロックブレーキシステム（ABS）※ が機能しないおそれがあります。

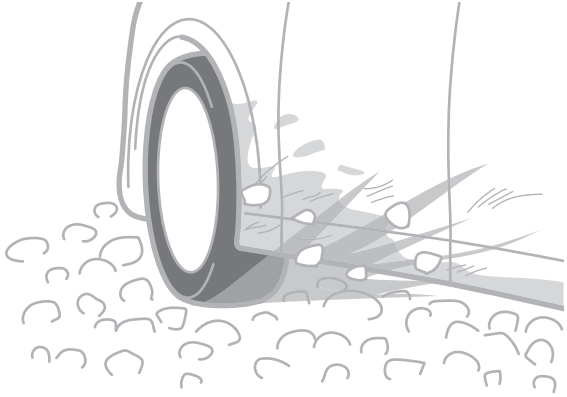
※：急ブレーキ時のタイヤの回転のロックを防ぐことで、車両のスリップを抑制しハンドル操作を可能にする機能

道路が冠水しているとき



車に重大な損傷を与えるおそれがあるため、EV ／ FC システムを始動したり、走行したりしないでください。車が水に浸かってしまったときは、必ずレクサス販売店で点検を受けてください。

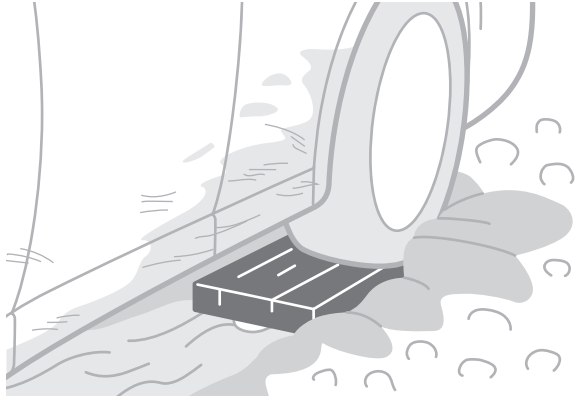
荒れた路面を走行するとき



段差や凸凹のある荒れた路面を走行すると、タイヤの空気が抜けることがあります。タイヤの空気が抜けると、タイヤのクッション性能が低下し、車両に損傷を与えるおそれがあります。

また、荒れた路面を走行することによって受ける衝撃により、タイヤやホイール、車体を損傷するおそれがあります。

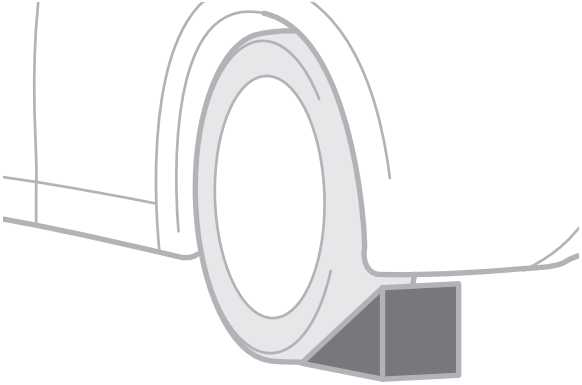
ぬかるみにはまったとき



駆動輪周辺の土や雪などを取り除き、駆動輪の下に木や石などをあてがい、脱出を試みてください。
脱出できなかった場合は、けん引による救援が必要です。

天候や路面状況に応じた駐停車

坂道で駐車するとき



必要に応じて、輪止め※を使用してください。
※：輪止めは、レクサス販売店で購入することができます。

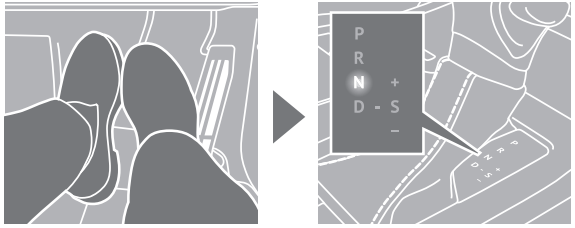
Lexus Safety System + 等の運転支援装置を使用するときは

車には、事故被害や運転負荷の軽減、安全性向上のためのさまざまなシステムが搭載されています。
しかし、システムの認識性能や制御機能には限界があります。
システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。
また、システムによっては、作動終了によって機能が解除されるものがあります。必要に応じて運転操作を行ってください。
詳しい取扱情報については、デジタル取扱説明書をご覧ください。

車両を緊急停止させるときは

緊急の場合以外は、走行中に EV ／ FC システムを停止しないでください。走行中に EV システムを停止すると、ハンドルとブレーキの操作が困難になります。

万一、車が止まらなくなったときは、車を緊急停止します。次の手順に従って、車を停止させてください。



1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続けます。
ブレーキペダルは、くり返し踏まないでください。

2 シフトポジションを N にします。
シフトポジションが N になった場合と、ならなかった場合とでは手順が異なります。状況に応じて必要な操作を行ってください。

● シフトポジションが N になった場合

3 減速してから、車を安全な道路脇に停めます。

4 EV ／ FC システムを停止します。

● シフトポジションが N にならない場合

3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させます。

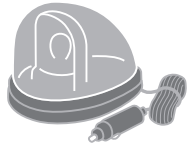
4 パワースイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押して EV ／ FC システムを停止します。

5 車を安全な道路脇に停めます。

停止表示板または停止表示灯の表示の義務と購入



停止表示板

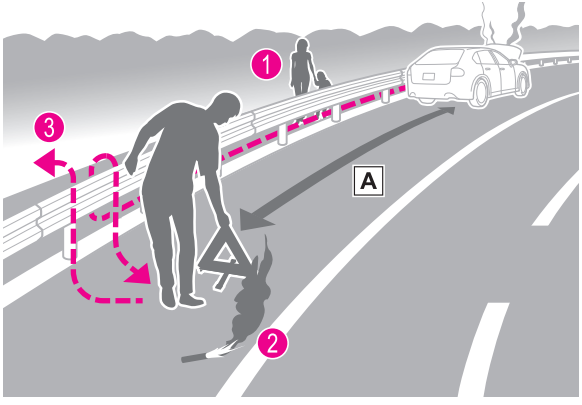


停止表示灯

高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐停車する場合は、停止表示板または停止表示灯を表示してください。これらの表示は、法律によって義務付けられています。

停止表示板のご購入については、レクサス販売店にお問い合わせください。

車両が故障したときの対応



車両が故障したときは、すみやかに次の作業を行ってください。

- 非常点滅灯を点滅させながら、車を路肩に寄せて停めます。
- 高速道路や自動車専用道路では、次の作業を行います。

❶ 同乗者を避難させます。

❷ 車両の 50m 以上後方Aに停止表示板または停止表示灯、および発炎筒を置きます。

- 見通しが悪い場合は、停止表示板または停止表示灯、および発炎筒をさらに後方に置いてください。
- 発炎筒は、燃料がもれている場合やトンネル内では使用しないでください。

❸ ガードレールの外側など、安全が確保できる場所に避難します。

電波が心臓ペースメーカー等に及ぼす影響



スマートエントリー＆スタートシステムは、電子キーと車のアンテナとの間で微弱な電波の送受信を行っています。

スマートエントリー＆スタートシステムの電波は、医療用の電気機器に影響を及ぼすおそれがあります。次のように対応してください。

- 植込み型心臓ペースメーカー／植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータ／植込み型除細動器を装着されている方：アンテナから約 22cm 以内に近付かないでください。
- 上記以外の医療用電気機器をお使いの方：スマートエントリー＆スタートシステムの電波による影響について、医療用電気機器の製造業者に事前に確認してください。

  スマートエントリー＆スタートシステムを非作動にすることもできます。

詳しくは、レクサス販売店にお問い合わせください。

第 3 章 Important Information
インポータントインフォメーション

▶取扱説明書

はじめに	70
車を運転する前の準備	70
車を運転するときに知ってほしいこと	98
時間帯や天候に合わせた運転と装備	103
快適装備と便利な室内装備の使いかた	106
メーター／ディスプレイの機能と表示される情報	114
安全運転を支援する機能	115
通信で安心、快適、便利を支援するしくみ	139
車のお手入れ	139
困ったときの対処方法	147
車の仕様、諸元、装備	155

▶ナビゲーションシステム取扱説明書

はじめに	156
基本操作	157
各種設定および登録	158
スマートフォンや通信機器の接続	158
ナビゲーション	158
オーディオシステム	159
ハンズフリー電話	160
G-Link	161
駐車支援システム	164
ETC の利用	167
付録	169

本文の記号について

⚠ 警告：お守りいただかないと、お客様自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。

⚠ **注意**：お守りいただかないと、車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。

はじめに

安全なドライブのために

⚠ 警告

- 飲酒運転は絶対にしないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。
- 運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節といった運転から注意がそれることをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。
- 公道を走行するときは、法定速度や制限速度を遵守してください。
- 他の車や歩行者といった周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。
- 長距離ドライブの際は、疲れを感じる前に定期的に休憩してください。また、運転中に疲労感や眠気を感じたときは、無理に運転せず、すみやかに休憩してください。

車を運転する前の準備

専用のフロアマットを正しく使う

⚠ 警告

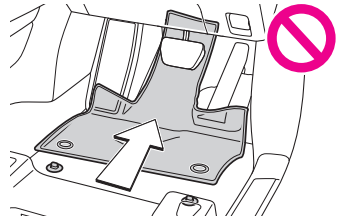
- 運転席にフロアマットを敷くときは、レクサス純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

フロアマットを固定する

⚠ 警告

運転する前に次のことを確認してください。

- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行う



- EV システム停止およびシフトポジションが P の状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定してください。

EV システムの注意

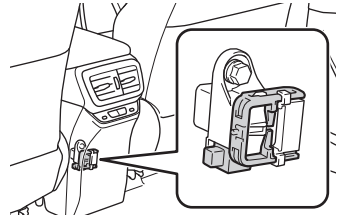
システムの構成部品

⚠ 警告

■ 高電圧・高温について

この車は、高電圧システムを使用しています。
次のことをお守りいただかないと、やけどや感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 高電圧部位・高電圧の配線（オレンジ色）およびそのコネクターの取りはずし・分解などは絶対に行わないでください。
- 高電圧部位にふれないでください。特に走行後は高温になっており危険です。
- サービスプラグが床下の駆動用電池に設置してあります。サービスプラグは絶対にさわらないでください。サービスプラグは、レクサス販売店での車両の修理時などに、駆動用電池の高電圧を遮断するためのものです。



■ **事故が発生したとき**

次のことをお守りいただかないと、感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 続発事故防止のため、安全な場所に停車して、パーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にして、EV システムを停止する
- 高電圧部位・高電圧の配線（オレンジ色）などには、絶対にさわらない
- 車室内および車室外に、はみ出している電気配線には絶対にさわらない
- 液体の付着やもれがある場合は絶対にさわらない駆動用電池の電解液（炭酸エステルを主とする有機電解液）が目や皮膚にふれると失明や皮膚傷害のおそれがあり危険です。万一、目や皮膚に付着した場合はただちに多量の水で洗い流し、早急に医師の診察を受けてください。
- 駆動用電池の電解液がもれている場合は、車両に近付かない万一、駆動用電池が破損しても、電池内部の構造により大量に電解液が流出することはありませんが、流出すると蒸気を発生します。蒸気は目や皮膚に刺激性があり、吸引すると急性中毒を起こすおそれがあり危険です。
- 火気や高温のものを絶対に近付けない
  電解液に引火するおそれがあり危険です。
- 万一、車両火災が発生したときは、ABC 消火器を使用して消火する
  水をかける場合は、消火栓などから大量にかけてください。
- 4 輪が接地した状態でけん引しない電気モーターから発電され、破損の状態によっては、火災のおそれがあり危険です。(→ ※)
- 車の下の路面などを確認し、液体のもれ（エアコンの水以外）が見つかった場合、駆動用電池が損傷している可能性があります。できるだけ早く車両を離れてください。この場合は、レクサス販売店に状況を連絡するときに併せてお伝えください。軽度な事故であっても、駆動用電池や周辺部位が損傷している可能性がありますので、事故にあった場合は、レクサス販売店で駆動用電池の点検を受けてください

■ **駆動用電池について**

- 絶対に転売・譲渡・改造などをしないでください。廃車から取りはずされた駆動用電池は事故防止のため、レクサス販売店を通じて回収を行っていますので、ご協力ください。適切に回収されないと、次のようなことが起こり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  - 不法投棄または放置され、環境汚染となるばかりか、第三者が高電圧部位にふれてしまい、感電事故が発生する
  - 装備された車両以外で駆動用電池を使用（改造などを含む）し、感電事故、発熱・発煙・発火・爆発事故、電解液漏出事故などが発生する
    特に、転売・譲渡などを行うと、相手にこれらの危険性が認識されず、事故につながるおそれがあります。
- 駆動用電池を取りはずさないままでお車を廃棄された場合、高電圧部品・ケーブル・それらのコネクターにふれると、深刻な感電の危険があります。お車を廃棄するときには、レクサス販売店で駆動用電池を廃棄してください。駆動用電池は適切に廃棄しないと、感電を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ **走行中の留意事項**

- 電気自動車は走行時にエンジン音がないため、周囲の人が車両の接近に気が付かない場合があります。車両接近通報装置が装備されていても、周囲の騒音などが大きい場合は、車両の接近に気が付かないことがありますので、十分注意して運転してください。
- 車両床下に強い衝撃を受けたときは、すぐに安全な場所に停車し下まわりを点検してください。床下に駆動用電池の液もれや損傷が見られる場合、絶対に車両にふれず、すみやかにレクサス販売店にご連絡ください。また、床下に異常が見られない場合でも、駆動用電池が損傷している可能性がありますので、車両床下に衝撃を受けた場合には、レクサス販売店で駆動用電池の点検を受けてください。

■ **改造について**

車高を下げると、床下にある駆動用電池が衝撃を受けやすくなり、電池を損傷し、発火や車両火災などが発生し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。車高を下げる改造は絶対に行わないでください。

普通充電ケーブル★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

※：WEB 掲載のデジタル取扱説明書をご覧ください。

■ **普通充電ケーブル／コントロールユニットを取り扱うとき**
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 普通充電ケーブルや電源プラグ／普通充電コネクター／コントロールユニットの分解／修理／改造をしない普通充電ケーブル／コントロールユニットに異常が認められた場合は、ただちに使用を中止してレクサス販売店にご連絡ください。
- 普通充電ケーブルや電源プラグ／普通充電コネクター／コントロールユニットに強い衝撃を与えたり落としたりしない
- 普通充電ケーブルを無理に折り曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、引きずるなどの負担をかけない
- 普通充電ケーブルを鋭利なもので傷付けたりしない
- 電源プラグの端子を折り曲げたり異物を付けたりしない
- 普通充電コネクター／電源プラグを水に浸けない
- 普通充電ケーブルを熱器具等の高温物に近付けない
- 普通充電ケーブル／電源プラグコードに負荷をかけない（コントロールユニット／普通充電コネクターに普通充電ケーブルを巻き付けるなど）
- コンセント／電源プラグに負荷がかかる状態で使用したり、放置したりしない（コントロールユニットが接地せず、宙吊りになっているなど）

⚠ 注意

■ **普通充電ケーブルの取り扱いに関する注意**
次のことをお守りください。お守りいただかないと、普通充電ケーブルや普通充電インレットの故障につながるおそれがあります。
- 普通充電コネクターは、斜めになったり傾いたりしないよう、普通充電インレットにまっすぐ挿し込む
- 普通充電コネクターを挿し込んだあとは、普通充電コネクターに無理な力をかけたり、こじったりしない。また、体や荷物などをぶつけないように注意する
- 普通充電ケーブルを踏んだり、つまずいたりしないように注意する
- 普通充電コネクターを取りはずす前に、普通充電コネクターがアンロック解除されていることを確認する（→ ※）
- 普通充電ケーブルを取りはずしたあとは、すみやかに所定の位置に片付ける
- 普通充電コネクターを取りはずしたあとは、充電リッドを確実に閉める

■ **普通充電ケーブルや関連部品などを取り扱うとき**
→ ※

■ **寒冷時の注意**
寒冷時は、普通充電ケーブル／電源プラグコードが通常より固くなることがあるため、固くなった状態で無理な力をかけないでください。普通充電ケーブル／電源プラグコードの損傷につながるおそれがあります。

普通充電ケーブルの点検／お手入れ

⚠ 警告

■ **日常点検について**
定期的に次のことを確認してください。
点検をしないで使い続けると、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 普通充電ケーブルや電源プラグ／普通充電コネクター／コントロールユニットに破損などがないこと
- コンセントに破損がないこと
- コンセントの挿し込みがゆるくなっていないこと
- 充電中に電源プラグが極端に熱くならないこと
- 電源プラグの刃が変形していないこと
- 電源プラグにほこり等の汚れがないこと

電源プラグはコンセントから抜いて点検してください。また、点検の結果、普通充電ケーブルに異常が見つかった場合は、ただちに使用を中止して、レクサス販売店にご相談ください。

■ **普通充電ケーブルのお手入れについて**
汚れたときは固くしぼった布で汚れをふき取ったあと、乾いた布でから拭きしてください。
なお、水洗いは絶対に行わないでください。普通充電ケーブルを水洗いすると、充電時に火災や感電事故が発生し、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ **長期間普通充電ケーブルを使用しないとき**
電源プラグをコンセントから抜いておいてください。電源プラグ

※：WEB 掲載のデジタル取扱説明書をご覧ください。

やコンセントにほこりがたまり、過熱や発火の原因となります。
また、普通充電ケーブルは水気がない場所で保管してください。

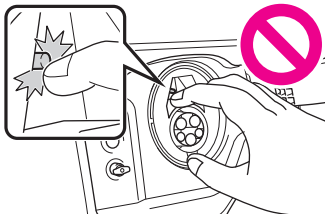
普通充電コネクターのロック／ロック解除

普通充電コネクターをロック／ロック解除するには

⚠ 警告

■ 普通充電インレットに普通充電コネクターを接続するとき

コネクターロック部に手を入れないでください。コネクターロックピンに挟まれ、けがをするおそれがあり危険です。



⚠ 注意

■ 普通充電コネクターをロックするとき

次のことをお守りください。お守りいただかないと、コネクターロックシステムの故障の原因となります。

- 普通充電コネクターがこの車両に適合していることを確認する
  異なるタイプの普通充電コネクターや、挿入部が破損・変形した普通充電コネクターなどは、ロックできない可能性があります。
- 普通充電コネクターを挿し込んだあとは、普通充電コネクターに無理な力をかけない
  普通充電コネクターを取りはずすときは、必ずコネクターをアンロックしてください。

接続可能な外部電源について

⚠ 警告

■ 電気事故についての警告

車両の充電を行うときは、必ず本書に記載されている注意事項をお守りください。

必要要件を満たしていない電源を使用したり、記載されている禁止事項を守らずに充電を行ったりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

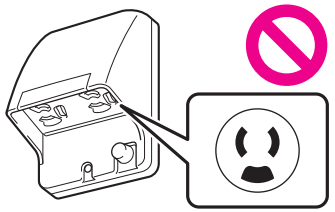
電源について

⚠ 警告

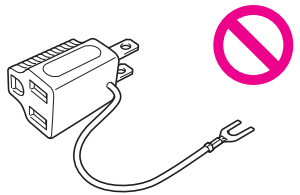
■ 電源についての警告

充電時に使用する外部電源については、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

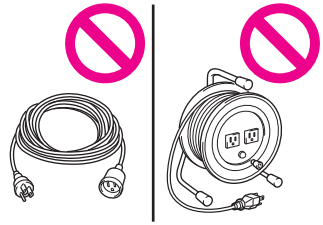
- 安全のため、必ず接地極（アース）付きのコンセントに接続してください。
- 必ずブレーカーおよび漏電遮断器が設置されたコンセントを使用してください。ブレーカーがないと、ショートなど異常時の過電流に対して安全を確保できません。
- 抜止形のコンセントは耐久性が十分ではない場合があるため、充電用コンセントとしては常用しないでください。



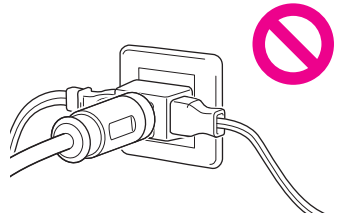
- コンセントと電源プラグは、必ず直接接続してください。コンセントとのあいだに分岐アダプターを接続したり、変換アダプターなどを接続したりしないでください。



- 必ず普通充電ケーブルで届く範囲のコンセントに接続し、延長コードは使用しないでください。延長コードを使用すると、異常発熱や漏電検知機能（→ ※）が働かなくなるなどの原因になります。



- 分岐用コンセントには接続しないでください。



充電の前に知っておいていただきたいこと

⚠ 警告

■ 充電、V2H 充電／ V2H 給電するときの警告

ペースメーカー（植込み型心臓ペースメーカー／植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータ）装着のお客様は、充電または給電の操作はご自身ではなさらず、ほかの方にお願いしてください。

- 充電または給電時、充電器（スタンド）、充電ケーブル、V2H 機器に近付かないでください。
  充電または給電により、ペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。
- 充電または給電中は車内にとどまらないでください。
  充電または給電により、ペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。
- ものを取るときなどに、車内に入り込まないでください。
  充電または給電により、ペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。

■ 車両に充電ケーブルが接続されているとき

シフトポジションを P から切り替えないでください。

万一、充電ケーブルが故障していた場合、シフトポジションが P からほかのシフトポジションに切りかわることがあり、車両が動いて思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ 充電に関する留意事項

この車は一般家庭用の AC コンセントに接続して駆動用電池を充電できます。ただし、一般的な電気製品と次の点が大きく異なるため、取り扱いを誤ると火災や感電事故が発生し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 200V での普通充電時は、長時間にわたって大電流が流れる（→ ※）
- お客さまの充電環境によっては、充電作業が屋外で行われる

⚠ 注意

■ 充電に関する留意事項

充電作業は、本書で説明している内容をよくお読みいただいた上で、正しい手順に沿って行ってください。

- お子さまなど、不慣れな方だけで充電作業を行わないでください。
  また、普通充電ケーブルは幼児の手の届かない場所で保管してください。
- 充電器（スタンド）または、V2H 機器で充電する場合は、機器の使用手順に従って作業を行ってください。

普通充電のしかた

⚠ 注意

■ 普通充電関連部品を取り扱うとき

普通充電関連部品の損傷を防ぐため、取り扱いの際は次のことをお守りください。

- 充電を中断／終了するときは、電源プラグを抜く前に普通充電コネクターを抜く。
- 普通充電ケーブルを抜くときは、普通充電コネクターがアンロックされていることを確認する。
- 普通充電コネクターの保護キャップを無理に引っ張らない。
- 充電中に普通充電コネクターを揺するなど振動を与えない

※：WEB 掲載のデジタル取扱説明書をご覧ください。

充電を停止することがあります。
- 普通充電インレットに普通充電コネクター・ヴィークルパワーコネクタ以外のものを挿し込まない。
- 電源プラグをコンセントに抜き挿しするときは、必ず電源プラグ本体を持って操作する。
- ケーブルが引っかかったり、絡んだ状態から無理に引っ張らない
  絡んだ場合は、ほどいてから使用してください。
- 普通充電インレットの分解／修理／改造などをしない
  修理が必要な場合は、必ずレクサス販売店にご相談ください。

充電するときは

⚠ 警告

■ 充電するときの警告

充電するときは、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 必ず充電に必要な要件を満たす電源に接続する (→ ※)
- 充電前に普通充電ケーブル／電源プラグ／コンセントに変形／破損／水分／腐食／ほこり等の異物がないことを確認する
- 充電前に普通充電インレットに変形／破損／腐食／ほこり等の異物がないか、または雪／氷が付着していないことを確認する
  付着している場合は、普通充電コネクターを接続する前にしっかりと取り除いてください。
- 挿し込みがゆるくなったコンセントは使用しない
- 過熱するおそれがあるため、普通充電ケーブルを束ねたり巻いたりした状態で充電しない
- 普通充電コネクター／普通充電インレットの端子に金属製の鋭利なもの（針金など）でふれたり、手でふれたり、異物でショートさせたりしない
- 屋外では必ず防雨形コンセントを使用する
  防雨スイッチプレートを確実に閉めてください。閉まらない場合は、新しいプレートに交換してください。
- 充電を中断するときは、普通充電器（スタンド）の取り扱い方法に従う
- 充電中に発熱／発煙／異臭／異音などを発見したときは、ただちに充電を中止する
- コンセントが水没または雪に埋もれている場合は、電源プラグは挿さない
- 雨や雪の中で充電を行うときは、ぬれた手で電源プラグの抜き挿しを行わない。また、コンセントや電源プラグをぬらさない
- 落雷の可能性がある天候のときは充電を行わない
- 普通充電ケーブルをドアやバックドアで挟まない
- 普通充電ケーブルや電源プラグ／普通充電コネクター／コントロールユニットを車両で踏まない
- 電源プラグはコンセントにいっぱいまで挿し込む
- 普通充電コネクターと普通充電インレットとのあいだに、変換アダプターを接続しない
- 必ず普通充電ケーブルで届く範囲のコンセントに接続し、延長コードは使用しない
- 普通充電システムを使用するときは、ボンネットを閉める
  冷却ファンが急にまわり出すことがあります。ファンなど回転部分にふれたり、近づいたりすると、手や着衣（特にネクタイ／スカーフ／マフラーなど）が巻き込まれたりして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 普通充電ケーブルの接続後、どこかに巻き付いていないか確認する
- 普通充電ケーブルを接続しても、コントロールユニット上の電源インジケーターが点灯しない場合は、すぐに普通充電ケーブルを取りはずしてください。

■ 充電時にコントロールユニット上のエラーインジケーターが点灯／点滅したときは

電源経路に漏電が発生しているか、普通充電ケーブル／コントロールユニットに異常がある可能性があります。
※ の記載内容を確認し、対処してください。対処してもエラーインジケーターが消灯しない場合は、ただちに充電を中止し、普通充電ケーブルを取りはずして、レクサス販売店にご連絡ください。そのまま充電を続けると、思わぬ事故の発生や重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

■ 車載充電器について

モータールームに車載充電器があります。車載充電器については、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、やけどや感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるお

※：WEB 掲載のデジタル取扱説明書をご覧ください。

それがあります。
- 充電時は高温になります。やけどをするおそれがあるため、ふれないでください。
- 分解／修理／改造しないでください。修理が必要な場合は、必ずレクサス販売店にご相談ください。

⚠ 注意

■ 充電時の注意

普通充電インレットに電源プラグを挿し込まないでください。普通充電インレットが故障するおそれがあります。

■ 自家用発電機の使用について

充電用電源に自家用発電機は使用しないでください。
安定した充電ができなかったり、電圧が足りず、充電が停止したりするおそれがあります。
充電が継続できる場合でも、モータールーム付近から音が聞こえることがあります。

■ 充電設備について

電力設備などが併設された環境では、ノイズにより安定した充電ができなかったり、電圧が足りず、充電が停止するおそれがあります。

充電したあとは

⚠ 警告

■ 充電後の警告

長期間使用しないときは、電源プラグを抜いておいてください。電源プラグやコンセントにほこり等の汚れがたまると、故障や火災などが発生し、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■ 充電後の注意

- 普通充電ケーブルは幼児やお子さまの手の届かない場所で保管してください。
- コンセントから電源プラグを取りはずしたあとは、普通充電ケーブルをほこりや水などがかからない安全な場所に保管してください。
  普通充電ケーブルを足や車両で踏んだりすると、普通充電ケーブルや電源プラグが損傷する原因となります。
- 普通充電インレットから普通充電コネクターを取りはずしたあとは、必ず充電リッドを閉めてください。
  充電リッドを開けたまま放置すると、普通充電インレットに水や異物が入り、車両故障につながるおそれがあります。

急速充電・V2H 充電／V2H 給電のしかた

⚠ 警告

■ 急速充電器（スタンド）／V2H 機器を使用するとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- CHAdeMO 規格に準拠し、一般社団法人チャデモ協議会の認証を受けた急速充電器（スタンド）を使用してください。
- 電動自動車用充放電システムガイドラインV2H DC版に準拠し、一般社団法人チャデモ協議会の認証を受けた V2H 機器を使用してください。
- 30m をこえるケーブルを使用しないでください。

急速充電・V2H 充電／V2H 給電するときは

⚠ 警告

■ 急速充電・V2H 充電／V2H 給電するときの警告

充電するときは、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 急速充電器（スタンド）・V2H 機器・急速充電インレットに破損箇所がないか確認する

急速充電インレットに破損箇所がある場合は絶対に急速充電・V2H 充電／V2H 給電を行わず、ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。
- 急速充電コネクター・急速充電インレットの端子に手をふれたり、異物でショートさせたりしない
- 急速充電インレットに急速充電コネクター以外のものを挿し込まない
- 急速充電コネクター・急速充電インレットの端子に、金属製の鋭利なもの（針金や針など）でふれない
- ケーブルが折れ曲がったり、重いものの下敷きになったりして

いないことを確認する
- 急速充電コネクターと急速充電インレットは、必ず直接接続する

急速充電コネクターと急速充電インレットとのあいだに、変換アダプターや延長コードなどを接続しないでください。
- 急速充電・V2H 充電／ V2H 給電を中断するときは、急速充電器（スタンド）の取り扱い方法・V2H 機器に付属している取扱説明書に従う

急速充電中・V2H 充電／ V2H 給電中に発熱・発煙・異音・異臭などを発見したときは、ただちに急速充電・V2H 充電／ V2H 給電を中止してください。
- 急速充電コネクター・急速充電インレットに異物がないか、または、雪／氷が付着していないか確認する

付着している場合は、急速充電コネクターを接続する前にしっかりと取り除いてください。
- 落雷の可能性がある天候のときは急速充電・V2H 充電／ V2H 給電を行わない

急速充電中・V2H 充電／ V2H 給電中、雷に気付いたときは、車両およびケーブルにさわらないでください。
- 急速充電インレットの端子部が濡れないようにする
- 急速充電システムまたはV2H充電／V2H 給電システムを使用するときは、ボンネットを閉める

冷却ファンが急にまわり出すことがあります。ファンなど回転部分にふれたり、近づいたりすると、手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）が巻き込まれたりして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■ 急速充電コネクターを接続するとき
- 急速充電器（スタンド）／ V2H 機器の取り扱い方法に従って急速充電コネクターを接続してください。急速充電コネクターが正しく接続されていない場合、システムがコネクターの接続を認識できず、EV システムを始動できてしまうことがあります。
- 急速充電中・V2H 充電／ V2H 給電中に、急速充電インレットから急速充電コネクターを取りはずさないでください。急速充電器（スタンド）・V2H 機器を操作して充電を停止した後、急速充電インレットから急速充電コネクターを取りはずしてください。

⚠ 注意

■ 急速充電・V2H 充電／ V2H 給電するとき

必ず急速充電器（スタンド）／ V2H 機器の取り扱い方法に従って、急速充電・V2H 充電／ V2H 給電を行ってください。誤った取り扱いをすると、車両や急速充電器（スタンド）・V2H 機器などを損傷するおそれがあります。

急速充電・V2H 充電／ V2H 給電したあとは

⚠ 警告

■ 急速充電・V2H 充電／ V2H 給電後の警告

急速充電・V2H 充電／ V2H 給電完了後、EV システムを始動する前に、必ず急速充電コネクターを車両の急速充電インレットから取り外してください。もしコネクターが接続されたままの車両を発進させると、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■ 急速充電・V2H 充電／ V2H 給電後の注意

急速充電インレットから急速充電コネクターを取りはずしたあとは、必ず急速充電リッドを閉めてください。

タイマー充電機能を使う

センターディスプレイでの設定操作

⚠ 注意

■ 設定操作を行うとき

EV システムが停止した状態で設定操作を行うときは、補機バッテリーあがりにご注意ください。

マイルームモードを使う

⚠ 警告

■ マイルームモードの使用上の警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- お子さまや介護を必要とする方、ペットを車内に残さないでください。システムの自動停止等により車室内が高温または低温

になり、熱中症／脱水症状／低体温症になるおそれがあります。また、ワイパーなどが使用できる状態になるため、誤操作による事故につながるおそれもあります。
- 車両の周囲の安全を十分に確認してから使用してください。

DC 外部給電システムの使い方

DC 外部給電を開始するときは

⚠ 警告

■ DC 外部給電システムを使用するときの警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、給電時に車両火災や感電事故などが発生し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 傾いた場所や坂道などに停めて使用しない

使用中に車両を移動させたり、傾けたりしないでください。
- 洗車は行わない
- ボンネットが閉まっていることを確認する
- モータールーム内に顔や手を近付けない。
  冷却ファンが急にまわりだすことがあります。ファンの回転部分にふれたり、近付いたりすると、手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）が巻き込まれるおそれがあります。
- 可燃物や危険物を車両の近くに置かない
- 腐食性のガスまたは溶液の発散する場所では使用しない。
- 破損した外部給電器・コード・電源プラグ・コンセントは使用しない
  使用中は不要な荷重がかからないようにし、コードなどを足や車両で踏まないようにしてください。
- 給電を開始する前に、接続した電気製品の電源が OFF になっていることを確認する
  電源が ON になっていると、電気製品が突然作動するおそれがあります。
- 車両をカーカバーなどで覆った状態で使用しない
- お子さまなど、不慣れな方だけで作業を行わない
- 外部給電コネクターと急速充電インレットは、必ず直接接続する
  外部給電コネクターと急速充電インレットとのあいだに、変換アダプターや延長コードなどを接続しないでください。
- 落雷の可能性がある天候のときはDC外部給電システムを使用しない
  使用中、雷に気付いたときには DC 外部給電システムを停止してください。
- 急速充電インレットに急速充電コネクター・外部給電コネクター以外のものを挿し込まない
- 外部給電器に破損箇所がないか確認する
- 外部給電コネクター・急速充電インレットに異物がないか、または、雪・氷が付着していないか確認する
  付着している場合は、外部給電コネクターを接続する前にしっかりと取り除いてください。
- 急速充電インレットの端子部がぬれないようにする
- 外部給電コネクター・急速充電インレットの端子に金属製の鋭利なもの（ピンや針金など）を挿し込まない
- DC 外部給電中に発熱・発煙・異臭・異音などを発見したときは、ただちに DC 外部給電を中止する

■ 車両に給電ケーブルが接続されているとき

ダイヤル式シフトを操作しないでください。
万一、給電ケーブルが故障していた場合、シフトポジションが P からほかのシフトポジションに切りかわることがあり、車両が動いて思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ DC 外部給電システムがおよぼす影響について

ペースメーカー（植込み型心臓ペースメーカー／植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータ）装着のお客様は、給電の操作はご自身ではなさらず、ほかの方にお願いしてください。
- 給電時は、外部給電器、給電ケーブルに近付かないでください。
  給電により、ペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。
- 給電中は車内にとどまらないでください。給電により、ペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。
- ものを取るときなどに、ラゲージルームなど含めた車内に入り込まないでください。給電により、ペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。

■ 接続する電気製品について

給電を行うときは、必ず本書および接続する外部給電器や使用す

る電気製品に付属の取扱説明書に記載されている注意事項をお守りください。
記載されている禁止事項を守らずに給電すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 接続する外部給電器について

必ず電動自動車用充放電システムガイドライン V2L DC 版 (→※) に準拠し、一般社団法人チャデモ協議会の認証を受けた外部給電器を接続してください。
それ以外の外部給電器を使用すると火災や感電事故が発生し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■ ショートや故障を防ぐために

- 急速充電インレットの分解・修理・改造などをしないでください。
  修理が必要な場合は、必ずレクサス販売店にご相談ください。
- ケーブルを損傷するおそれがあるので、使用中は急速充電リッドでケーブルを挟まないでください。
- 外部給電コネクターを急速充電インレットに抜き挿しするときは、過度の負荷をかけないでください。
  挿し込み不足の原因になります。
- 給電中に外部給電コネクター・ケーブルに物をのせたり、引っかけたりしないでください。
- 給電中に外部給電コネクター・ケーブルを引っ張ったり、過度の負荷をかけたりしないでください。
- 給電中に外部給電コネクター・ケーブルに異常な発熱を感じたらすぐに使用を中止してください。

■ 車から離れるとき

盗難を防止するため、ドアが確実に施錠されたことを確認してください。

DC 外部給電を停止するときは

⚠ 注意

■ DC 外部給電システムの故障を防ぐために

給電を停止するときは、使用している電気製品の電源を切ってから停止してください。

■ DC 外部給電システムを使用したあとは

- 外部給電コネクターを急速充電インレットから取りはずすときは、過度の負荷をかけないでください。
- 急速充電インレットから外部給電コネクターを取りはずしたあとは、必ず急速充電リッドを閉めてください。
  急速充電インレットを開けたままにすると、急速充電インレットに水や異物が入り、故障につながるおそれがあります。

AC 外部給電システムについて

AC 外部給電に関する情報の表示

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

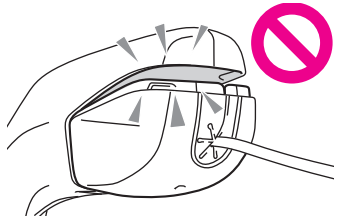
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- レクサス純正ヴィークルパワーコネクタを使用してください。
- 給電システムの使用中は、お子さまや介護を必要とする方、ペットを車内に残さないでください。エアコンを使用していても、システムの自動停止等により室内が高温、または低温になる場合があり、熱中症・脱水症状・低体温症になるおそれがあります。
- お子さまなど、不慣れな方だけで給電作業を行わないでください。また、ヴィークルパワーコネクタは幼児の手の届かない場所で保管してください。
- ぬれた手で電気製品の電源プラグを抜き挿ししたり、ピンなどをヴィークルパワーコネクタの端子・コンセントに挿したりしないでください。また、コンセントに雨水・飲料水・雪などが付着した場合は乾燥させてから使用してください。
- ヴィークルパワーコネクタの改造・分解・修理・塗装などはしないでください。修理についてはレクサス販売店にご相談ください。
- コンセントに液体やほこりが付着しないようにしてください。また、定期的にコンセントを掃除してください。
- コンセントへは電源プラグ本体を持って抜き挿しをし、プラグの刃にふれないようにしてください。コードを引っ張って電源プラグを抜くと、電源プラグやコードが損傷するおそれがあり

※：WEB 掲載のデジタル取扱説明書をご覧ください。

ます。

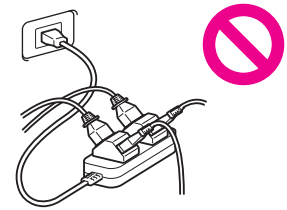
- 車外コンセントが水没または雪に埋もれている場合は、電源プラグを挿さないすでに電源プラグが挿してあり、抜く必要がある場合は、まずパワースイッチを OFF にし、ヴィークルパワーコネクタを車両から取りはずしたあと、電源プラグを抜いてください。
- 車外コンセントに電源プラグを接続したあとは、防水カバーを閉じる確実にロックがかかるまで閉じてください。防水カバーがロックできないような大きな電源プラグは使用しないでください。



- ヴィークルパワーコネクタの上に重量物を置いたり、ものを引っかけたりしない



- コードやコンセントに異常な発熱を感じたらただちに使用を中止してください。
  また、コードやコンセントの発熱を防ぐために、次のことをお守りください。
  - コンセントに、分岐用コンセントを複数接続しない
  - コードリールを使用する場合、コードはリールからすべて引き出す



- アース線のある電気製品を使用するときは、市販の変換アダプターを使用してアース線を変換アダプターのアース端子に接続してください。
- 電気製品の電源プラグをコンセントに挿し込んでもゆるいときは、ヴィークルパワーコネクタを交換してください。交換についてはレクサス販売店にご相談ください。
- コンセントは、照明器具などの電気製品と直接接続して使用するものです。家屋などへ電気を供給する用途として使用しないでください。また、家屋などに設置されている非常時の給電システム（外部電源と接続ができる専用設備、外部電源からの供給回路が電力会社からの電気配線と分離されている設備など）に接続する場合は、当該システムの製造業者または販売業者にご相談ください。
- コンセントの使用中はパーキングブレーキをしっかりとかけて、シフトポジションを P から切りかえないでください。車両が動いて思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- コンセントの使用中は車両から離れないでください。
- 落雷の可能性がある天候のときは給電を行わないでください。給電中、雷に気付いたときは給電を停止してください。
- 車両をカーカバーなどで覆った状態で使用しないでください。
- 傾いた場所や坂道などに停めて使用しないでください。使用中に車両を移動させたり、傾けたりしないでください。
- 洗車は行わないでください。
- ボンネットが閉まっていることを確認してください。

- 燃えやすいものの近くに停めて使用しないでください。
- 腐食性のガスまたは溶液の発散する場所では使用しないでください。
- 破損したヴィークルパワーコネクタ・コード・電源プラグ・コンセントは使用しない使用中は不要な荷重がかからないようにし、コードなどを足や車両で踏まないようにしてください。
- ヴィークルパワーコネクタと普通充電インレットは、必ず直接接続する
  ヴィークルパワーコネクタと普通充電インレットとのあいだに、変換アダプターや延長コードなどを接続しないでください。
- 普通充電インレットに普通充電コネクター・ヴィークルパワーコネクタ以外のものを挿し込まない
- ヴィークルパワーコネクタに破損箇所がないか確認する
- ヴィークルパワーコネクタ・電源プラグ・車外コンセントに変形・破損・水分・腐食・ほこり等の異物がないことを確認する
- ヴィークルパワーコネクタ・普通充電インレットに変形・破損・腐食・ほこり等の異物がないか、または雪・氷が付着していないか確認する付着している場合は、ヴィークルパワーコネクタを接続する前にしっかりと取り除いてください。
- ヴィークルパワーコネクタの端子部がぬれないようにする
- ヴィークルパワーコネクタの端子・車外コンセント・普通充電インレットの端子に金属製の鋭利なもの（針金など）でふれたり、手でふれたり、異物でショートさせたりしない
- ヴィークルパワーコネクタの車外コンセントに水や液体・雪がかからないようにする
- AC 外部給電中は、ヴィークルパワーコネクタを無理に引き抜かない
  車両やヴィークルパワーコネクタの破損、感電の原因となります。
- AC 外部給電中に発熱・発煙・異臭・異音などを発見したときは、ただちに AC 外部給電を中止する

■ AC 外部給電システムがおよぼす影響について

ペースメーカー（植込み型心臓ペースメーカー／植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータ）装着のお客様は、給電の操作はご自身ではなさらず、ほかの方にお願いしてください。

- 給電時は、ヴィークルパワーコネクタに近付かないでください。
  給電により、ペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。
- 給電中は車内にとどまらないでください。
  給電により、ペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。
- ものを取るときなどに、ラゲージルームなど含めた車内に入り込まないでください。
  給電により、ペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。

■ 接続する電気製品について

- 使用する電気製品に付属の取扱説明書や、製品に記載されている注意事項を必ずお守りください。
- 電源プラグや、電気製品が故障しているときは使用しないでください。
- 特に外気温が低いときや高いときは、故障や作動不良になる可能性があります。
- 水平設置が必要な電気製品は、正常に作動しない可能性があります。
- 防水仕様の電気製品を除き、雨や水のかかる場所、湿気の多い場所では使用しないでください。
- 水没や浸水した、またそのおそれのある電気製品は使用しないでください。
- 車両の状態によっては、一時的に給電機能が停止することがあります。

■ 電源周波数について

- 工場出荷時、車両側の電源周波数は、50Hz に設定されています。
  コンセントと電源周波数が異なる電気製品を使用しないでください。誤作動や故障などの原因になるおそれがあります。
  電気製品によっては、電源周波数の切りかえ（50/60Hz）機能があるので、車両と電気製品の電源周波数を同じにしてください。
  車両側の電源周波数切りかえが必要な場合は、レクサス販売店にご相談ください。
- 特に電子レンジは使用中に発熱するおそれがあるため、必ずコンセントと電源周波数が合っていることを確認してください。

■ ヴィークルパワーコネクタを取り扱うとき

- 強い衝撃を与えたり落としたりしない

- 水にぬれたときや汚れがあるときは、乾いた布でふく
- 水洗いしたり、水やほかの液体に浸けたりしない水やほかの液体に浸けた場合は使用しないでください。
- シールなどを貼り付けない
- 警告ラベルを汚したり、はがしたりしない
- お子さまにはさわらせない
- 対応していない、ほかの車両には接続しない

■ ご使用前の点検について

次のことを確認してください。点検をしないで使い続けると、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ヴィークルパワーコネクタに破損などがないこと
  異常がある場合はただちに使用を中止して、レクサス販売店にご連絡ください。
- 電源プラグに破損・変形などがないこと
  異常がある場合はただちに使用を中止してください。
- 車外コンセントに汚れや破損などがないこと

■ ヴィークルパワーコネクタを清掃するとき

- 水洗いによる清掃は行わないでください。ヴィークルパワーコネクタ内部に水が浸入すると、使用時に火災や感電事故が発生し、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ヴィークルパワーコネクタが汚れたときは、固くしぼった布で汚れをふき取ったあと、乾いた布でからぶきしてください。
- ガソリン等の溶剤・酸またはアルカリ性の溶剤は使用しないでください。

■ 車載充電器について

- モータールームに車載充電器があります。車載充電器については、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、やけどや感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 給電時は高温になります。やけどをするおそれがあるため、ふれないでください。
- 分解・修理・改造しないでください。修理が必要な場合は、必ずレクサス販売店にご相談ください。

⚠ 注意

■ ショートや故障を防ぐために

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、正常に作動しなかったり、車両や電気製品が損傷したりするおそれがあります。

- 車内のトリムの近くやシートの上などで、トースターなどの熱気を出す電気製品を使用しないでください。熱により溶損や焼損のおそれがあります。
- 振動や熱などに弱い電気製品を車内で使用しないでください。車両の振動や、炎天下での駐車時の熱などにより、電気製品が故障するおそれがあります。
- 使用中はヴィークルパワーコネクタを揺するなどの不要な振動を与えないでください。
  外部給電を停止することがあります。
- 晴天であっても、防水カバーを確実に閉めた状態で使用してください。
- ヴィークルパワーコネクタを挿し込んだあとは、ヴィークルパワーコネクタに無理な力をかけたり、こじったりしない。また、体や荷物などをぶつけないように注意する
- ヴィークルパワーコネクタを抜くときは、ヴィークルパワーコネクタがアンロックされていることを確認する。
- 普通充電インレットの分解・修理・改造などをしない修理が必要な場合は、必ずレクサス販売店にご相談ください。

■ ヴィークルパワーコネクタをロックするとき

→ ※

■ AC 外部給電システムを使用したあとの注意

- 必ず電気製品の電源を切ってから、ヴィークルパワーコネクタを取りはずしてください。
  電気製品の電源を OFF にしないまま、先に車両からヴィークルパワーコネクタを取りはずすと、電気製品が正常に終了せず、電気製品の故障につながるおそれがあります。
- 普通充電インレットからヴィークルパワーコネクタを取りはずしたあとは、必ず充電リッドを閉めてください。充電リッドを開けたまま放置すると、普通充電インレットに水や異物が入り、車両故障につながるおそれがあります。
- 車両から離れる際は、ドアを確実に施錠したことを確認してください。

※：WEB 掲載のデジタル取扱説明書をご覧ください。

■ ヴィークルパワーコネクタを使用しないとき
衝撃やほこりから保護するため、すみやかに車両から取りはずして保管してください。
なお、長期間使用しないときは、水気がなく、直射日光があたらない場所に保管してください。

子どもを車に乗せる

⚠ 警告

■ お子さまを乗せるときは
- お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた、※ を参照してください。

子どもにあったチャイルドシートを選んで取りつける

知っておいていただきたいこと

⚠ 警告

■ お子さまを乗せるときは
次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ず正しく取り付けられたチャイルドシートを使用して、しっかり体を固定してください。お子さまに最適なチャイルドシートについては、チャイルドシート製造業者、または販売業者にご相談ください。
- レクサスでは、お子さまの年齢や体の大きさに合った適切なチャイルドシートをリヤシートに取り付けることを推奨します。事故統計によると、フロントシートよりリヤシートに適切に取り付けるほうがより安全です。
- お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントウインドウガラスや乗員、車内の装備にぶつかるおそれがあります。

■ チャイルドシートについて
次のことをお守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 事故等で車両に強い衝撃を受けた場合は、チャイルドシートにも目に見えない破損があるおそれが強いため、再使用しないでください。
- チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。その場合は、車への取り付けに適したチャイルドシートであるか確認してください。(→ ※)本書のチャイルドシート固定方法およびチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- チャイルドシートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。
- チャイルドシートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、ラゲージルーム内に容易に動かないように収納してください。

チャイルドシートを使用するときは

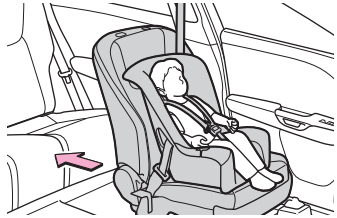
⚠ 警告

■ チャイルドシートを使用するとき
次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。助手席側のサンバイザーに、同内容のラベルが貼られています。併せて参照してください。

※：WEB 掲載のデジタル取扱説明書をご覧ください。



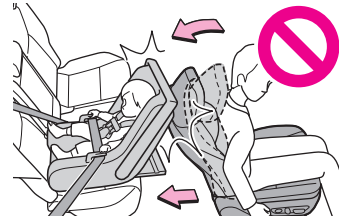
- やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろに下げて取り付けてください。助手席 SRS エアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア／シート／フロントピラー／リヤピラー／ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分も、もたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



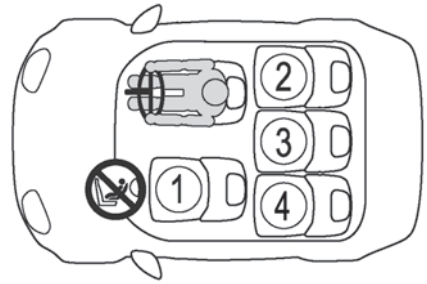
- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。
- お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用して、リヤシートに取り付けてください。
- 運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤシートに取り付けてください。



- 助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。

シート位置別チャイルドシートの適合性について

■ シート位置別チャイルドシートの適合性



① *1, 2, 3	UF *4

② *2, 3	U L
③ *2, 3	U
④ *2, 3	U L

U 車両のシートベルトで固定するタイプのユニバーサル（汎用）カテゴリーのチャイルドシートに適しています。

UF 車両のシートベルトで固定するタイプの前向きに取付けるユニバーサル（汎用）カテゴリーのチャイルドシートに適しています。

L 推奨チャイルドシートと適合性一覧表（→ ※）に記載されたチャイルドシートに適しています。

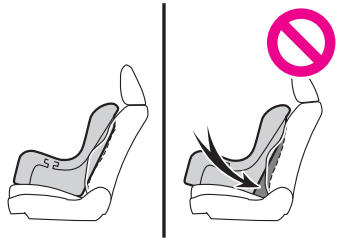
i-Size チャイルドシートおよび ISOFIX チャイルドシートに適しています。

トップテザーアンカレッジが装備されています。

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。

*1: シートをいちばんうしろに下げた状態で取り付けてください。シートの高さ調整ができる場合は、いちばん高い位置に調整してください。

*2: 背もたれを可能な限り起こしてください。
前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。



*3: ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。
取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。

*4: チャイルドシートを必ず、前向きで使用してください。

■ **チャイルドシート取り付けに関する詳細情報**

着座位置				
シート位置の番号	①	②	③	④
ユニバーサル（汎用）ベルト式が搭載可能な着座位置（有／無）	有 前向きのみ	有	有	有
アイサイズ着座位置（有／無）	無	有	無	有
搭載可能な横向きチャイルドシートの治具（L1 ／ L2）	×	×	×	×
搭載可能なうしろ向きチャイルドシートの治具（R1 ／ R2X ／ R2 ／ R3）	×	R1、R2X、R2、R3	×	R1、R2X、R2、R3

※：WEB 掲載のデジタル取扱説明書をご覧ください。

着座位置				
シート位置の番号	①	②	③	④
搭載可能な前向きチャイルドシートの治具（F2X／F2／F3）	×	F2X、F2、F3	×	F2X、F2、F3
搭載可能なジュニアシートの治具（B2／B3）	×	B2、B3	×	B2、B3

チャイルドシートをシートベルトで固定する

⚠ 警告

■ チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。
- シートベルトのプレートとバックルがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

チャイルドシートを ISOFIX ロアアンカレッジで固定する

⚠ 警告

■ チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ISOFIX ロアアンカレッジを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

トップテザーアンカレッジを使用する

⚠ 警告

■ チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- テザーベルトがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- テザーベルトは、必ずチャイルドシートを取り付けたシートのトップテザーアンカレッジに掛けてください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートを取り付けるときは、ヘッドレストを引き上げてトップテザーアンカレッジに固定したあとに、ヘッドレストを下げないでください。

キーの種類

⚠ 注意

■ キーの故障を防ぐ

以下のことに注意してください。

- 落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしないでください
- 温度の高いところに長時間放置しないでください
- ぬらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしないでください

- キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしないでください
- 分解しないでください
- 電子キー表面にシールなどを貼らないでください
- テレビやオーディオ、電磁調理器などの磁気を帯びた製品の近くに置かないでください
- 電気医療機器（マイクロ波治療器や低周波治療器など）の近くに置いたり、身に付けたまま治療を受けないでください

■ 電子キー取り扱いの注意

電子キーは電波法の認証に適合しています。必ず以下のことをお守りください。

- 電池交換時以外は、不用意に分解しないでください。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
- 必ず日本国内でご使用ください。

■ キーを携帯するとき

電源を入れた状態の電化製品とは 10cm 以上離して携帯してください。10cm 以内にあると電化製品の電波と干渉し正常に機能しない場合があります。

■ スマートエントリー＆スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき

→ ※

■ 電子キーを紛失したとき

→ ※

■ カードキーの取り扱い

- 電池やカードキーの電極がぬれた場合は、電池が腐食するおそれがあります。水の中に落としたときや飲料水などをこぼしたときは、ただちに電池カバーをはずして電池および電極部分をふき取ってください（電池カバーをはずすには、軽く持って引き抜いてください）。電池が腐食した場合は、レクサス販売店で電池を交換してください。
- 電池カバーを取りはずす場合は、押しつぶしたりドライバーなどを使用したりしないでください。無理にこじ開けようとすると、曲がったり傷を付けたりするおそれがあります。
- 電池カバーをひんぱんに取りはずすと、電池カバーが抜けやすくなることがあります。
- 電池を取り付けるときは、必ず電池の向きを確認してください。電池の向きを間違えると、電池が急激に消耗する原因になります。
- 次のような使い方をした場合は、カードキーの表面に傷を付けたり塗装がはがれたりするおそれがあります。

・ 小銭や鍵などの硬いものと同時に携帯したとき
・ シャープペンシルの先端などの鋭利なものでこすったとき
・ シンナーやベンジンでカードキーの表面をふいたとき

スマートエントリー＆スタートシステム

⚠ 警告

■ 電波がおよぼす影響（スマートエントリー＆スタートシステムアンテナからの影響）

- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータまたは植込み型除細動器を装着されている方は、アンテナ（→ ※）から 22cm 以内に植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータまたは植込み型除細動器が近づかないようにしてください。電波により植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータまたは植込み型除細動器の作動に影響を与える場合があります。
- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

スマートエントリー＆スタートシステムを非作動にすることもできます。詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

デジタルキー

□ 知識

■ デジタルキーの取り扱い

- 本機は、電波法の基準に適合しています。
- 本機を分解・改造すると、法律により罰せられることがあります。

ドアの開閉

※：WEB 掲載のデジタル取扱説明書をご覧ください。

⚠ 警告

■ 走行中の留意事項

走行中は次のことを必ずお守りください。

- すべてのドアを確実に閉め、ロックしてください。
- 走行中はドア内側のドア開スイッチを押さないでください。

特に、運転席はドアがロックになっていてもドアが開く可能性があるため、注意してください。

- お子さまをリヤ席に乗せるときは、車内からドアが開くことを防ぐために、チャイルドプロテクターを使用してください。

■ ドアを開閉するときの留意事項

ドアを閉めるときは、少し勢いをつけて閉めてください。手で押すようにドアを閉めると、完全に閉まらないおそれがあります。

ドアを開閉するときは、周囲の状況を確認し、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。特に次のような場所では、予期せぬ動きにも対処できるように注意してください。

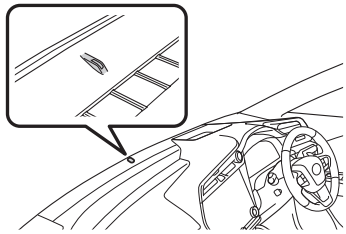
- 傾斜した場所
- ドアと壁などのあいだが狭い場所
- 強風が吹いている場所

イモビライザーシステム

システムを作動させるには

パワースイッチを OFF にすると、システムの作動を知らせるためにセキュリティ表示灯が点滅します。

登録されたキーを携帯し、パワースイッチをアクセサリーまたは ON にするとシステムが解除され、セキュリティ表示灯が消灯します。



知識

■ メンテナンスについて

イモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

⚠ 注意

■ イモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

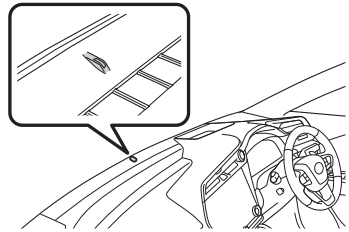
オートアラーム

オートアラームを設定／解除／停止する

■ オートアラームを設定するには

ドア・バックドア・ボンネットを閉め、スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使ってロックします。30 秒以上経過すると、自動的に設定されます。

オートアラームがセットされるとインジケーターは点灯から点滅にかわります。



■ オートアラームを解除／停止するには

次のいずれかを行ってください。

- スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使ってドアまたはバックドアをロック解除する
- パワースイッチを ACC または ON にするか、EV システムを始動する（数秒後に解除・停止します）

知識

■ メンテナンスについて

オートアラームシステムのメンテナンスは不要です。

⚠ 注意

■ オートアラームを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

侵入・傾斜センサー

■ **侵入・傾斜センサーを設定する**

オートアラームを設定すると、自動でセットされます。(→ ※)

■ **侵入・傾斜センサーを停止する**

車内で動くものに反応するため、ペットや動くものを車内に残すときは、必ず侵入・傾斜センサーを停止してからオートアラームを設定してください。

1 センターディスプレイのショートカット画面表示スイッチ を タッチします。(→ ※)

2 “セキュリティセンサー” をタッチします。

操作したシンボルが白色に変わり、侵入／傾斜センサーが停止します。

もう一度タッチすると、侵入／傾斜センサーは再びセットされます。

侵入／傾斜センサーを OFF ／ ON にするたびに、センターディスプレイのシンボルが変化します。

知識

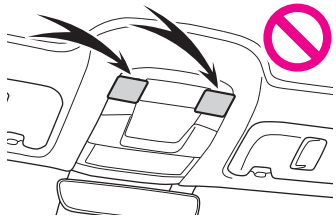
■ **侵入・傾斜センサーの作動・停止について**

- 侵入・傾斜センサーの作動を停止しても、オートアラームは作動します。
- 侵入・傾斜センサーを停止したあとにパワースイッチを押すか、スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコンによるロック解除操作を行うと、侵入・傾斜センサーは復帰します。
- オートアラームの設定を解除するたびに侵入・傾斜センサーは復帰します。

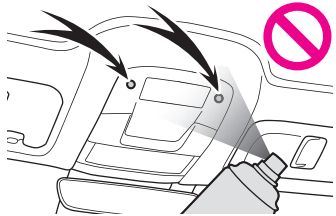
注意

■ **侵入センサーを正しく作動させるために**

- センサーの穴はふさがないようにしてください。



- センサーの穴に向かって、直接消臭スプレーなどを噴霧しないでください。



- 運転席と助手席のシートのあいだに、レクサス純正品以外のアクセサリーを装着したりものを放置したりすると、検知性能が低下することがあります。

窓の開閉

⚠ 警告

次のことを必ず守ってください。運転者は、乗員の操作を含むすべての窓の開閉操作について責任があります。

- 子どもには窓の操作をさせないでください。子どもの誤った操作によって、子どもや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。また、子どもが同乗するときはウインドウロックスイッチを使用することをおすすめします。
- 窓を開閉するときは、乗員の手／腕／頭／首などを挟んだり巻き込んだりしないか確認してください。

特に子どもへは手などを出さないよう声かけをしてください。

- 車から離れるときはパワースイッチを OFF にし、キーを携帯し

※：WEB 掲載のデジタル取扱説明書をご覧ください。

て子どもも一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

知識

■ パワーウィンドウの作動条件

パワースイッチが ON のとき

安全な窓の開閉を補助するための機能

⚠ 警告

■ 挟み込み防止機能

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手／腕／頭／首などを挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、窓が完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。

指などを挟まないか注意してください。

■ 巻き込み防止機能

- 巻き込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手／腕／服などを巻き込ませたりしないでください。
- 乗員の手／腕／服などを巻き込まないか注意してください。巻き込み防止機能は、窓が完全に開く直前に異物を巻き込むと作動しない場合があります。

パワーウィンドウスイッチを使った操作

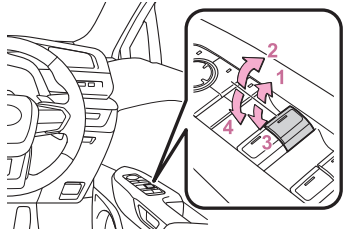
1 パワーウインドウスイッチを途中まで上げます。

スイッチを上げているあいだ、窓ガラスが閉まります。

2 パワーウインドウスイッチを完全に上げます。

自動で窓ガラスが閉まります。

途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。



3 パワーウインドウスイッチを途中まで押します。

スイッチを押しているあいだ、窓ガラスが開きます。

4 パワーウインドウスイッチを完全に押します。

自動で窓ガラスが開きます。

途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。

ワイヤレスリモコンを使った操作

⚠ 警告

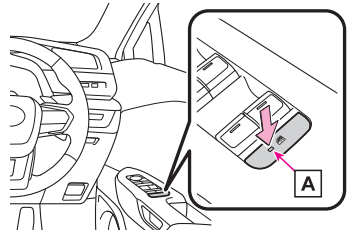
ワイヤレスリモコンを使って窓を操作するときは、窓に人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンによる操作をさせないでください。お子さまや他の人が窓に挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

誤って窓を開けられないようにする

ウインドウロックスイッチは子供が誤って窓を開閉することを防止するための機能です。

ウインドウロックスイッチを押します。

スイッチを押すと、インジケーターAが点灯し、運転席以外の窓が非作動になります。



車両への荷物の積み込み

ラゲージルームに荷物を積むときの注意

⚠ 警告

■ 積んではいけないもの

次のようなものを積まないでください。引火するおそれがあります。

- 燃料が入った容器
- スプレー缶

■ 荷物を積むとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、ブレーキペダル／アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- できるだけ荷物はラゲージルームに積んでください。
- シートの背もたれより高いものをラゲージルームに積まないでください。
- 後席シートの背もたれを折りたたんで荷物を積むときは、荷物を積み重ねないでください。
- 後席シートの背もたれを折りたたんで、寸法が長い荷物を積むときは、できるだけ前席シート背もたれの真うしろには積まないでください。
- ラゲージルームに人を乗せないでください。

乗員用には設計されていません。
乗員は、適切にシートベルトを着用させ、座席に座らせてください。
- 次の場所には荷物を積まないでください。

・ 運転席の足元
・ 助手席やリヤ席（荷物を積み重ねる場合）
・ トノカバー
・ インストルメントパネル
・ ダッシュボード

- 室内に積んだ荷物は、すべてしっかりと安定させてください。
- ルーフレール装着車：ルーフレールには直接荷物を置かないでください。

荷くずれを起こしたりして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ 荷物の重量／荷重のかけ方の注意
- 荷物を積みすぎないでください。
- できるだけ荷重を均等にかけてください。

荷重を不均等にかけると、各タイヤに異なる荷重がかかります。さらに、ハンドルの操作性やブレーキ制御の低下により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ ルーフレールを使用するときは（ルーフレール装着車）

ルーフラゲージキャリアに荷物を積むときは、次のことをお守りください。
- 車両に荷重が均等になるように荷物を積んでください。
- 車両の大きさ（全長、全幅）を超える荷物を積まないでください。
- 走行する前に、荷物が確実に固定されていることを確認してください。
- ルーフラゲージキャリアに荷物を積むと、車両の重心が高くなります。

高速走行や急加速、急旋回、急ブレーキといった急な操作は避けてください。車両を適切に操作できなくなることで横転するおそれがあります。
- 長距離走行、荒れた路面での走行、高速走行をするときは、時おり車両を止めて、荷物が固定した位置にあることを確認してください。
- 75kg 以上の荷物を積まないでください。

パワーバックドアの機能と働き

⚠ 警告

■ 走行する前に

次のことを必ずお守りください。
- 走行前にパワーバックドアが完全に閉まっていることを確認してください。
- パワーバックドアが完全に閉まっていないと、走行中にパワーバックドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ラゲージルームでお子さまを遊ばせないでください。

誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。
- お子さまにはパワーバックドアの開閉操作をさせないでください。

不意にパワーバックドアが動いたり、閉めるときに手／腕／頭／首などを挟んだりするおそれがあります。

■ 走行中の留意事項

次のことを必ずお守りください。
- 走行中はパワーバックドアを閉めてください。

開けたまま走行すると、パワーバックドアが車外のものにあたったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

● ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。
急ブレーキ／急旋回をかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ **パワーバックドアの使用にあたって**

次のことを必ずお守りください。

● パワーバックドアを開ける前に、パワーバックドアに貼り付いた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでパワーバックドアが突然閉じるおそれがあります。
● パワーバックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
● 人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
● 強風時の開閉には十分注意してください。

パワーバックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。

● 傾斜が急な場所で半開状態で使用すると、パワーバックドアが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。必ずパワーバックドアが静止していることを確認して使用してください。
● パワーバックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。
● パワーバックドアは必ず外から軽く押して閉めてください。パワーバックドアグリップを持ったままパワーバックドアを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。
● スピンドルユニットを持ってパワーバックドアを閉めたり、ぶらさがったりしないでください。手を挟んだり、スピンドルユニットが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
● パワーバックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、開けたあとにドアが突然閉じて、手／腕／頭／首などを挟むおそれがあります。パワーバックドアへのアクセサリー用品の取り付けは、レクサス純正品を使用することをおすすめします。

■ **バックドアイージークローザーについて**

● パワーバックドアが半ドア状態になったとき、バックドアイージークローザーが動き自動で完全に閉まります。また、作動し始めるまでに数秒かかります。指などを挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあります。
● バックドアイージークローザーは、パワーバックドアの作動がOFF のときにも作動するため、指などの挟みこみには十分注意してください。

■ **パワーバックドアについて**

次のことを必ずお守りください。

● 周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身のまわりの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。
● 人がいるときは、作動させる前に安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
● 自動開閉中にパワーバックドアの作動を OFF にすると、作動が停止し手動操作に切りかわります。この場合、パワーバックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。
● 自動開閉中に作動可能条件を満たさなくなったときは、ブザーが鳴り、作動が停止し手動操作に切りかわる場合があります。この場合、傾斜した場所ではパワーバックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので十分注意してください。
● 傾斜した場所では、開いたあとにパワーバックドアが突然閉じる場合があります。必ずドアが全開で静止していることを確認してください。
● 次のような場合は、十分注意してください。システムが異常と判断して自動作動が停止して手動操作に切りかわり、パワーバックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあります。

・ 自動作動中、パワーバックドアが障害物に干渉したとき
・ EV システム停止中でパワーバックドアが自動作動しているときに、パワースイッチを ON にしたり EV システムを始動したりして、補機バッテリー電圧が急に低下したとき

● パワーバックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、自動で作動できずにパワーバックドアが故障したり、開いたあとにドアが突然閉じて、手／腕／頭／首などを挟むおそれがあります。パワーバックドアへのアクセサリー用品の取り付けは、レクサス純正品を使用することをおすすめします。

■ **挟み込み防止機能**

次のことを必ずお守りください。

● 挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。
● 挟み込み防止機能は、パワーバックドアが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないよ

うに注意してください。
- 挟み込み防止機能は、挟まれるものの形状や挟まれかたによっては作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

■ クローズ＆ロック（ウォークアウェイ）機能／ハンズフリークローズ＆ロック（ウォークアウェイ）機能*について

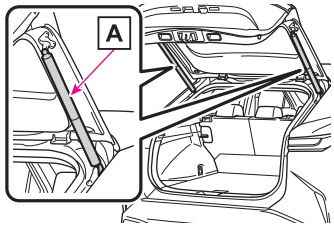
* ：レクサス販売店での設定変更が必要です。

バックドアから離れると自動でバックドアが閉まり始めます。
周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身のまわりの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。

⚠ 注意

■ スピンドルユニットに関する注意

パワーバックドアにはパワーバックドアを支えるためのスピンドルユニットAが取り付けられています。
スピンドルユニットAの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。



- ビニール片／ステッカー／粘着材といった異物をスピンドルユニットに付着させない
- パワーバックドアにレクサス純正品以外のアクセサリー用品を付けない
- スピンドルユニットに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

■ パワーバックドアやバックドアイージークローザーの故障の防止

次のことをお守りください。お守りいただかないと、パワーバックドアやバックドアイージークローザの故障につながるおそれがあります。
- バックドアイージークローザーの作動中は、パワーバックドアに無理な力をかけないでください。
- パワーバックドアを作動させる前に、凍結によるパワーバックドアの貼り付きがないことを確認してください。
- パワーバックドア左右端部のセンサーを刃物のような鋭利なもので傷付けないように注意してください。

センサーが切断されると自動で閉めることができなくなります。

■ クローズ＆ロック機能*について

* ：レクサス販売店での設定変更が必要です。

クローズ＆ロック機能でパワーバックドアを閉じると、通常ブザーと異なるブザー音が鳴り作動します。
正常に作動開始したことを確認するため、通常ブザーと異なるブザー音が鳴ったことを確認してください。
またパワーバックドアが完全に閉じロックされると、すべてのドアがロックされたことをドアロックアンサーバックでお知らせします。
車から離れるときは、ドアロックアンサーバックを確認し、全ドアがロックされたことを確認してください。

⚠ 注意

キックセンサーは、リヤバンパーの内側に設置されています。
ハンズフリーパワーバックドアを正しく作動させるために次のことをお守りください。
- リヤバンパーは常にきれいにしておく

リヤバンパーに汚れや着雪がある場合、ハンズフリーパワーバックドアが作動しなくなることがあります。
その場合、汚れや雪を落とした後、現在の位置から車両を動かしてからハンズフリーパワーバックドアが作動するか確認を行ってください。
それでも作動しない場合はレクサス販売店にて点検を受けてください。
- リヤバンパーに親水性コーティングといった液体を塗らない
- リヤバンパーに草木といった動くものを近づけない

リヤバンパーに草木といった動くものがふれる状態が長期間続くと、ハンズフリーパワーバックドアが作動しなくなることがあります。
その場合、現在の位置から車両を動かしてからハンズフリーパワーバックドアが作動するか確認を行ってください。
それでも作動しない場合はレクサス販売店にて点検を受けてください。

● リヤバンパーへの強い衝撃を避ける
リヤバンパーが強い衝撃を受けると、ハンズフリーパワーバックドアが正常に作動しなくなるおそれがあります。
次のような場合にハンズフリーパワーバックドアが作動しないときは、必ずレクサス販売店で点検を受けてください。
・ キックセンサーやキックセンサー周辺に強い衝撃を受けた
・ リヤバンパーに傷や破損がある
● リヤバンパーを分解しない
● リヤバンパーにステッカーを貼らない
● リヤバンパーを塗装しない
● パワーバックドアに自転車キャリアなどを取り付けた場合は、ハンズフリーパワーバックドア（キックセンサー）の作動をOFF にする

⚠ 警告

ハンズフリーパワーバックドアを使用してパワーバックドアを操作するときは、次のことを必ずお守りください。
● 周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身のまわりの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。
● リヤバンパーの下のスペースが狭い場合は、キック操作をしないでください。

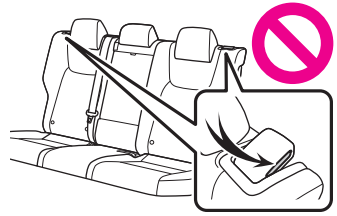
⚠ 注意

キックセンサーは、リヤバンパーの内側に設置されています。
ハンズフリーパワーバックドアを正しく作動させるために次のことをお守りください。
● リヤバンパーは常にきれいにしておく
リヤバンパーに汚れや着雪がある場合、ハンズフリーパワーバックドアが作動しなくなることがあります。
その場合、汚れや雪を落とした後、現在の位置から車両を動かしてからハンズフリーパワーバックドアが作動するか確認を行ってください。
それでも作動しない場合はレクサス販売店にて点検を受けてください。
● リヤバンパーに親水性コーティングといった液体を塗らない
● リヤバンパーに草木といった動くものを近づけない
リヤバンパーに草木といった動くものがふれる状態が長期間続くと、ハンズフリーパワーバックドアが作動しなくなることがあります。
その場合、現在の位置から車両を動かしてからハンズフリーパワーバックドアが作動するか確認を行ってください。
それでも作動しない場合はレクサス販売店にて点検を受けてください。
● リヤバンパーへの強い衝撃を避ける
リヤバンパーが強い衝撃を受けると、ハンズフリーパワーバックドアが正常に作動しなくなるおそれがあります。
次のような場合にハンズフリーパワーバックドアが作動しないときは、必ずレクサス販売店で点検を受けてください。
・ キックセンサーやキックセンサー周辺に強い衝撃を受けた
・ リヤバンパーに傷や破損がある
● リヤバンパーを分解しない
● リヤバンパーにステッカーを貼らない
● リヤバンパーを塗装しない
● パワーバックドアに自転車キャリアなどを取り付けた場合は、ハンズフリーパワーバックドア（キックセンサー）の作動をOFF にする

リヤシートの背もたれ

⚠ 警告

■ 背もたれを操作するとき
次のことをお守りください。
● シートに人が乗っている状態で背もたれを操作しない
● シート調整後はきちんと固定されていることを確認してください。背もたれが確実に固定されていないときは、レバーに赤色が見えます。赤色が見えていないことを確認してください。



■ **背もたれを前倒しするときや、前倒しした後は**

次のことをお守りください。

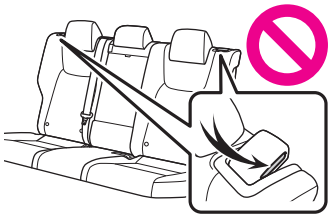
- 走行中に前倒しをしない
- 平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトポジションを P にする
- 倒した背もたれの上やラゲージルームに人を乗せて走行しない
- お子さまがラゲージルームに入ることのないよう注意する

■ **背もたれをもとの位置に戻したあとは**

背もたれをもとにもどした後は、次のことを行ってください。

- シートを前後に軽くゆさぶり、確実にシートを固定する

背もたれが確実に固定されていないときは、レバーが赤色に見えます。赤色が見えないことを確認してください。



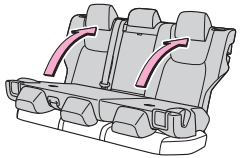
- シートベルトがねじれたり、挟み込まれていないか確認する

⚠ 注意

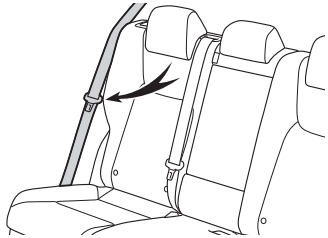
背もたれを前に倒すときは、倒す前に必ずリヤ中央席のシートベルトとバックル、アームレストを格納してください。

リヤシートの背もたれをもとにもどす

1 背もたれを起こし、固定します。



2 シートベルトのプレートがシートの前側にあることを確認します。



シートの調整

フロントシートを調整する

⚠ 警告

シートを調整するときは次のことをお守りください。

- 走行中は運転席の調整をしないでください。

運転を誤るおそれがあります。

- 同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。
- フロントシートの下にものを置かないでください。

ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故や調整機構の故障の原因になります。

- シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。

指や手を挟むおそれがあります。

- 背もたれは必要以上に倒さないでください。

必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるおそれがあります。

- 背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。

正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。

リヤシートを調整する

⚠ 警告

背もたれを調整するときは次のことを必ずお守りください。
- 同乗者がシートにあたらないようにしてください。
- シートの間や動いている部分に手を近付けないようにしたり、体の一部が挟まれないようにしてください。
- 背もたれは必要以上に倒さないでください。

必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるおそれがあります。

ヘッドレストを調整する

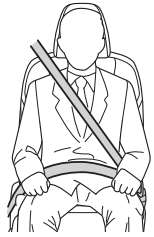
⚠ 警告

次のことをお守りください。
- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストを必ず正しい位置に調整する
- ヘッドレストを調整したあとは、ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない

シートベルトの着用

走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。
- 肩部ベルトを肩に十分かける

首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。
- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- シートベルトにねじれがないようにする



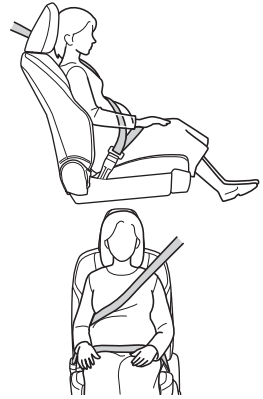
⚠ 警告

シートベルト使用に関する、次のことをお守りください。
- 全員がシートベルトを着用してください。
- シートベルトを正しく着用してください。
- シートベルトは一組につき一人で使用してください。

子どもでも一組のベルトを複数の人で使用しないでください。
- 子どもはリヤ席に座らせてシートベルトを着用させてください。
- 背もたれは必要以上に倒さず、上体を起こし、シートに深く座ってください。
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しないでください。
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用してください。
- 妊娠中の女性の場合、医師に注意事項を確認の上、必ずシートベルトを正しく着用してください。(→ ※)

通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- 疾患のある方の場合、医師に注意事項を確認の上、必ずシートベルトを正しく着用してください。
- シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート／シートベルトを交換してください。
- プリテンショナー付きシートベルトの取り付けや取りはずし／分解／廃棄などは、レクサス販売店以外でしないでください。不適切に扱うと、正常に作動しなくなるおそれがあります。
- お子さまを乗せるときは、お子さまをシートベルトで遊ばせな

※：WEB 掲載のデジタル取扱説明書をご覧ください。

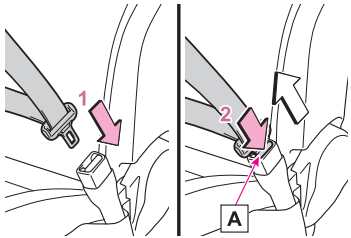
いでください。
万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

知識

■ 子どものシートベルトの使い方
この車のシートベルトは、シートベルトを着用するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

シートベルトを着ける、はずす

1 ベルトを固定するには、「カチッ」と音がするまでプレートをバックルに挿し込みます。
2 ベルトを解除するには、A解除ボタンを押します。



知識

■ シートベルトロックを解除する方法
急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

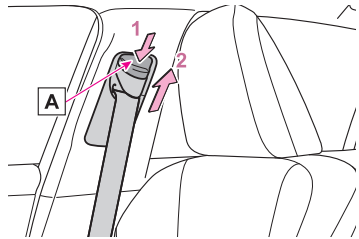
⚠ 警告

- ベルトやプレート、バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。

うまく挿し込めない場合はただちにレクサス販売店に連絡してください。

フロント席のシートベルトの高さを調節する

1 解除ボタンAを押しながら、アジャスターを下げます。
2 アジャスターを上げます。「カチッ」と音がして固定されるところまで動かしてください。



ハンドルとミラーの位置調整

ハンドルの上下／前後位置を調整する

⚠ 警告

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。

インナーミラーの位置を調整する

⚠ 警告

走行中はミラーの調整をしないでください。

デジタルインナーミラーの効果と注意

⚠ 警告

次のことをお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ デジタルインナーミラーをお使いになる前に

- 走行前に必ずミラーの調整を行ってください。(→ ※)
  - 光学ミラーモードに切りかえて、鏡面を後方が正しく映る位置に調整する
  - デジタルミラーモードに切りかえて、ディスプレイに表示される映像を調整する
- ディスプレイに表示される映像と鏡面ミラーに映る範囲は異なりますので、あらかじめ違いを確認してください。

デジタルインナーミラーを調整する

※：WEB 掲載のデジタル取扱説明書をご覧ください。

⚠ 警告

次のことをお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行中の留意事項

- 走行中は、デジタルインナーミラーの位置やディスプレイに表示される映像を調整しないでください。

デジタルインナーミラーの操作スイッチは、安全な場所に停車して操作してください。走行中に操作すると、ハンドル操作を誤るなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 必ず車両周辺の状況を直接確認してください。

デジタルミラーモード使用時は、ディスプレイ上に映る車両や障害物が実際の大きさと異なる場合があります。後退時は、必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら運転してください。また、夜間など暗いところで後続車が接近したときは、周囲が暗く映る場合があります。

デジタルインナーミラーのお手入れ

⚠ 注意

■ カメラの故障や誤作動を防ぐために

- デジタルインナーミラーが正常に作動しなくなるおそれがありますので、次のことにご注意ください。

・ カメラ部を強くたたいたり、ものをぶつけるなど、強い衝撃を与えないでください。カメラの位置・取り付け角度がずれるおそれがあります。

・ カメラ部は防水構造となっていますので、取りはずし・分解・改造をしないでください。

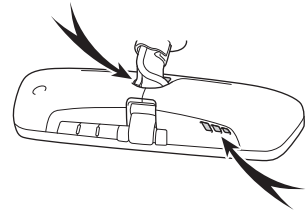
・ カメラレンズを洗うときは、大量の水でカメラの汚れを流したあと、水で湿らせたやわらかい布でカメラレンズの水滴をふき取ってください。カメラレンズを強くこするとカメラレンズが傷付いて、車両後方の状態を鮮明に見ることができなくなるおそれがあります。

・ カメラのカバーは樹脂ですので、有機溶剤・ボデーワックス・油膜取り剤・ガラスコート剤などを付着させないでください。付着したときは、すぐにふき取ってください。

・ 寒いときにお湯をかけるなどして急激な温度変化を与えないでください。

・ 洗車時に高圧洗浄機でカメラやカメラ周辺に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。

- カメラ部をぶつけたときは、カメラの故障などのおそれがあります。早めにレクサス販売店で点検を受けてください。
- ミラーの通風口をふさがないでください。ミラー内部に熱がこもり、故障や車両火災につながる恐れがあり危険です。



ドアミラーの角度を調整する

⚠ 警告

走行中はミラーの調整をしないでください。

次のことをお守りください。

- ドアミラーを格納したまま走行しないでください。
- ミラーが動いているときは、手をふれないでください。手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。
- ミラーヒーターが作動しているときは、鏡面が熱くなるのでふれないでください。
- 走行前に必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整してください。

車を運転するときに知ってほしいこと

EV システムの始動

EV システムを始動する

⚠ 警告

EV システムを始動するときは必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。

⚠ 注意

■ EV システムを始動するとき

もし EV システムが始動しにくい場合は、ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■ パワースイッチの操作

パワースイッチ操作時に引っかかりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。すみやかにレクサス販売店にご連絡ください。

| パワースイッチのモードを切りかえる

⚠ 注意

EV システム停止中は、パワースイッチを ACC または ON にしたまま長時間放置しないでください。

EV システム停止中に、マルチインフォメーションディスプレイの “アクセサリー” または “パワー ON” の表示が消灯していない場合、パワースイッチが OFF になっていません。パワースイッチを OFF にしてから車両を離れてください。

EV システムを停止

| EV システムを停める

⚠ 警告

走行中に EV システムを緊急停止したい場合には、パワースイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してください。

ただし、緊急時以外は走行中にパワースイッチにふれないでください。走行中に EV システムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、ハンドルの操作力補助がなくなり、ハンドル操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。

安全に走行するには

⚠ 警告

■ 運転するとき

- 後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
- 車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
- ブレーキペダルは右足で操作してください。

左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 電気自動車は電気モーターで走行するためエンジン音がありません。そのため、周囲の人が車両の接近に気が付かない場合があります。車両接近通報装置が装備されていても、周囲の騒音などが大きい場合は、車両の接近に気が付かないことがありますので、十分注意して運転してください。
- 通常走行時は、走行中に EV システムを停止しないでください。走行中に EV システムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、ハンドルの操作力補助がなくなり、ハンドル操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、車両を緊急停止させてください。
- 急な下り坂では、回生ブレーキを使用してスピードを下げてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキが過熱して正常に機能しなくなります。
- マルチインフォメーションディスプレイに “回生ブレーキ制限中 減速時は ブレーキを踏んでください” が表示されたときは、ブレーキペダルをしっかり踏んで減速してください。(→ ※)
- 走行中はハンドル／シート／ドアミラー／インナーミラーの調整をしないでください。運転を誤るおそれがあります。
- すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。
- AWD 車：本格的なオフロード走行を目的とした車ではありません。
  - やむを得ず砂地やぬかるみを走行する際は慎重に運転していただき、連続走行をしないでください。
  - 岩石路やモーグル路の走行はしないでください。
- 渡河などの水中走行はしないでください。電装品のショートや EV システムの破損など、重大な車両故障の原因になるおそれがあります。
- すべりやすい路面を運転するときは、急ブレーキ／急加速／急

※：WEB 掲載のデジタル取扱説明書をご覧ください。

ハンドルはしないでください。タイヤがスリップし、車両の制御ができなくなるおそれがあります。
- すべりやすい路面を運転するときは、急激なアクセル操作、シフト操作はしないでください。回生ブレーキで、車が横すべりするなどのおそれがあります。
- 水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられるおそれがあります。
- AWD 車：万一脱輪し、駆動輪が宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。

駆動系部品の損傷や、車両の飛び出しによる思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ 継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したとき

できるだけ早くレクサス販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。

必要なときにパッドの交換が行われないと、ディスクローターの損傷につながる場合があります。

パッドやローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限界をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■ 部品の損傷を防ぐために
- ハンドルをいっぱいに回した状態を長く続けないでください。パワーステアリングに損傷をあたえるおそれがあります。
- 段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。ディスクホイールなどに損傷をあたえるおそれがあります。

■ 走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。タイヤのパンクや損傷が考えられます。
- ハンドルがとられる
- 異常な音や振動がある
- 車両が異常に傾く

■ 冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では走行しないでください。次のような重大な損傷を与えるおそれがあります。
- 電装品がショートする
- 水の侵入による駆動用電池の破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずレクサス販売店で次の点検をしてください。
- ブレーキの効き具合
- トランスミッションフルードの量および質の変化
- 各ベアリング／各ジョイント部などの潤滑不良
- 駆動用電池に接続されている構成部品

冠水によりシフト制御システムが損傷すると、シフトポジションが P に切りかえられない、または P から他のシフトポジションに切りかえられなくなる可能性があります。

その場合はレクサス販売店へご連絡ください。

■ 事故にあったとき

駆動用電池や周辺部品が損傷すると、誤作動の原因になる可能性があります。軽度の事故であっても、レクサス販売店で点検を受けてください。

シフトポジションの使用目的

⚠ 警告

すべりやすい路面を運転するときは、急激なアクセル操作、シフト操作はしないでください。車が横すべりするなどのおそれがあります。

⚠ 注意

■ シフト制御システムの異常が考えられるとき

次のような状態になったときは、シフト制御システムの異常が考えられます。

安全で平坦な場所に停車し、パーキングブレーキをかけて、レクサス販売店にご連絡ください。
- マルチインフォメーションディスプレイにシフト制御システムに関する警告メッセージが表示されたとき (→ ※)
- シフトポジションが選択されていない表示状態が、数秒以上続いているとき

※：WEB 掲載のデジタル取扱説明書をご覧ください。

■ **駆動用電池の充電**
シフトポジションがNでは、駆動用電池は充電されないため、Nで放置すると駆動用電池の残量が低下し、走行不能になるおそれがあります。

シフトポジションを切りかえる

⚠ 警告

- 前進側のシフトポジションのまま惰性で後退したり、Rのまま惰性で前進することは絶対にやめてください。

思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。

- 車両が動いているあいだは、Pポジションスイッチを押さないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が前進しているあいだは、シフトポジションをRにしないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が後退しているあいだは、シフトポジションを前進側のシフトポジションにしないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 走行中にシフトポジションをNにすると、EVシステムの動力伝達が解除され、回生ブレーキが効かなくなります。
- アクセルペダルを踏み込んだままシフト操作をしないでください。シフトポジションがPまたはN以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。シフトポジションの変更後は、メーター内のシフトポジション表示灯で現在のシフトポジションを必ず確認してください。

シフトポジションの切りかえ方法と表示

⚠ 警告

■ **ダイヤル式シフトについて**

- ダイヤル式シフトのノブを取りはずしたり、純正品以外のノブを取り付けたりしないでください。また、ものをぶら下げたりしないでください。ダイヤル式シフトが定位置にもどらなくなって、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 意図せぬシフトポジションの切りかわりを防止するため、操作時以外はダイヤル式シフトにふれないでください。

■ **Pポジションスイッチについて**

- 車が動いているときは、Pポジションスイッチにふれないでください。

停車直前など、極低速走行中にPポジションスイッチを押すと、シフトポジションがPに切りかわることがあるため、車が急停止して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 意図せぬシフトポジションの切りかわりを防止するため、操作時以外はPポジションスイッチにふれないでください。

⚠ 注意

■ **車を降りるとき（運転席のみ）**
シフトポジション表示灯がPであることと、パーキングブレーキ表示灯が点灯していることを確認してから、ドアを開け、降車してください。

インタラクティブマニュアルドライブについて（RZ550e）

Mモードで変速操作をする

⚠ 警告

■ **Mモードの速度範囲について**
Mモードでは仮想ギヤ段毎に上限の車速が決められています。車速を上げるためには適切な仮想ギヤ段を使用してください。お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

選択ギア段	最高速度
DM1	約45km/h
DM2	約75km/h
DM3	約95km/h
DM4	約125km/h
DM5	約160km/h

車を発進する

⚠ 警告

“READY” インジケーターが点灯している状態で停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

上り坂で車を発進する

⚠ 警告

“READY” インジケーターが点灯している状態で停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

車を停めるときに確認すること

駐停車するときの注意

⚠ 警告

■ 駐車するとき

- 車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にし、EV システムを停止し、ロックしてください。“READY” インジケーターが点灯しているあいだは、車から離れないでください。

パーキングブレーキをかけずにシフトポジションを P にした状態では、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- お子さまだけを車の中に残したままにしないでください。お子さまが誤ってパーキングブレーキを解除し、車が動き出して思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 炎天下では、メガネ／ライター／スプレー缶／炭酸飲料の缶といった高温になると危険なものを車内に放置しないでください。放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

・ ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火したりする
・ プラスチックレンズ／プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
・ 炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になったりする

- ライターを、車内の収納装備に入れておいたり、車内に落としたままにしておいたりしないでください。

荷物を入れたりシートを動かしたりしたときに、ライターが誤作動し火災につながるおそれがあります。

- 車両のガラス部分には吸盤を取り付けないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤のような容器を置かないでください。吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。
- シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドア／フロント／リヤドアガラスを開けたまま放置しないでください。

直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。

■ 車室内で仮眠するとき

必ず EV システムを停止してください。“READY” インジケーターが点灯した状態のまま仮眠すると、無意識にシフトポジションを切りかえたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、車が発進して事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

停車する

⚠ 警告

- ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなります。また、ブレーキがかかりにくく、ブレーキのかかり具合に左右のタイヤで違いが出るおそれがあります。さらに、パーキングブレーキがしっかりとかからないおそれもあります。
- 電子制御ブレーキシステムが機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。この場合ブレーキは作動しますが、通常よりもブレーキペダルを強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。
- ブレーキの油圧システムが故障した場合は、ただちにブレーキの修理を受けてください。ブレーキシステムは 2 つ以上の独立したシステムで構成されており、1 つの油圧システムが故障しても、残りのシステムは作動します。ただし、この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。

⚠ 注意

坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

⚠ 警告

■ 停車するとき

- 不必要にアクセルペダルを踏み込まないでください。

シフトポジションが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 車が動き出すことによる事故を防ぐため、“READY” インジケーターが点灯しているときは常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながることを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

駐車する

⚠ 警告

必ずパーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にしてください。パーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏みこんだときに急発進するおそれがあります。

パーキングブレーキの操作

⚠ 警告

■ 駐車するとき

お子さまだけを車の中に残したままにしないでください。お子さまが誤ってパーキングブレーキを解除し、車が動き出して思わぬ事故につながり、重大な障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ パーキングブレーキスイッチについて

パーキングブレーキスイッチの周辺にものを置かないでください。ものとスイッチが干渉して、思わぬパーキングブレーキの作動につながるおそれがあります。

■ パーキングブレーキ自動作動機能について

パーキングブレーキ自動作動機能を日常のパーキングブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本機能は運転者のパーキングブレーキかけ忘れによって起こる事故を軽減するための機能です。機能に頼ったり、安全を委ねて駐車をしたりすると、重大な傷害に及ぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■ 駐車するとき

- 車から離れるときは、シフトポジションを P にし、パーキングブレーキをかけてください。車が動かないことを確認してください。

■ システムに異常が発生したら

安全な場所に車を停め、警告メッセージを確認してください。

■ 補機バッテリーがあがったとき

パーキングブレーキシステムを作動させることはできません。(→ ※)

■ 故障などでかかったままになったとき

パーキングブレーキがかかったまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。この場合は、ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

時間帯や天候に合わせた運転と装備

ヘッドランプの使用

⚠ 注意

EV システムを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないでください。補機バッテリーあがりにつながるおそれがあります。

自動的にロービームとハイビームを切りかえる

AHS（アダプティブハイビームシステム）

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

アダプティブハイビームシステムを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

■ アダプティブハイビームシステムの誤作動を防ぐために

システムを OFF にする必要があるとき：→ ※

※：WEB 掲載のデジタル取扱説明書をご覧ください。

AHB（オートマチックハイビーム）

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために
オートマチックハイビームを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。
■ オートマチックハイビームの誤作動を防ぐために
システムを OFF にする必要があるとき：→ ※

雨の日の視界の確保

フロントワイパーを使う

⚠ 警告

ワイパーで指などを挟まないように注意してください。
AUTO モードでは、センサーにふれたり、フロントウインドウガラスに振動があるなどの要因で不意にワイパーが作動するおそれがあります。

⚠ 注意

フロントワイパーを使うときは、次のことをお守りください。
- EV システムを停止した状態でワイパーを長時間作動しないでください。補機バッテリーあがりにつながるおそれがあります。
- フロントウインドウガラスが乾いているときはワイパーを使わないでください。ガラスを傷付けるおそれがあります。

フロントウォッシャーを使う

⚠ 警告

寒冷時はフロントウインドウガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。
ウォッシャー液がフロントウインドウガラスに凍りつき、視界不良を起こして思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

ノズルがつまったときはレクサス販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。ノズルが損傷するおそれがあります。
ウォッシャー液が出ないときは、スイッチを操作し続けないでください。ポンプが故障するおそれがあります。

リヤカメラウォッシャーを使う

⚠ 注意

ノズルがつまったときはレクサス販売店へご連絡ください。ピンなどで取り除かないでください。ノズルが損傷するおそれがあります。
ウォッシャー液が出ないときは、スイッチを操作し続けないでください。ポンプが故障するおそれがあります。

フロントウインドウガラスの曇りを取る

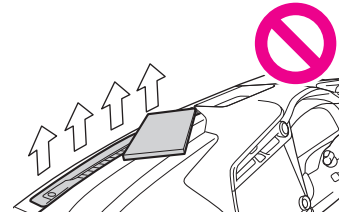
⚠ 警告

- 外気の湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、フロントデフロスタースイッチを押さないでください。

外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

- 吹き出し口を遮るようなものを置かないでください。

送風がさえぎられ、曇りが取れにくくなることがあります。



リヤウィンドウの曇りを取る

⚠ 警告

リヤウインドウデフォッガーとミラーヒーターが作動しているときは、ドアミラーの表面にふれないでください。ドアミラーの表面が非常に熱くなるため、やけどをするおそれがあります。

ドアミラーの水滴や霜を取る

※：WEB 掲載のデジタル取扱説明書をご覧ください。

⚠ 警告

リヤウインドウデフォッガーとミラーヒーターが作動しているときは、ドアミラーの表面にふれないでください。ドアミラーの表面が非常に熱くなるため、やけどをするおそれがあります。

寒くなる前の準備

冬用タイヤの装着

⚠ 警告

冬用タイヤを装着するときは次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となるおそれがあります。

- 指定サイズのタイヤを使用する
- 空気圧を推奨値に調整する
- 装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない
- 冬用タイヤを装着する際は、必ず 4 輪とも装着する

⚠ 注意

冬用タイヤの修理／交換するときは、レクサス販売店へご依頼ください。
タイヤの取り付け／取りはずしは、タイヤ空気圧バルブ／送信機の作動に影響します。

タイヤチェーンを使うとき

⚠ 警告

タイヤチェーンを装着するときは次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、安全に車を運転することができなくなるおそれがあります。

- 装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは 30km/h のどちらか低い方をこえる速度で走行しない
- 路面の凹凸や穴を避ける
- 急加速／急ハンドル／急ブレーキやシフト操作による急激な回生ブレーキの使用は避ける
- カーブの入り口手前で十分減速して、車のコントロールを失うのを防ぐ
- LTA（レーントレーシングアシスト）を使用しない
- LDA(レーンディパーチャーアラート) を使用しない

⚠ 注意

■ タイヤチェーンの使用

詳しくはレクサス販売店にご相談ください。
18 インチタイヤ装着車：
この車両に適合したレクサス純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。
なお、レクサス純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。市販のタイヤチェーンを使用する場合は、車体に干渉しないことをあらかじめご確認ください。

■ タイヤチェーンの装着

タイヤチェーンを装着すると、タイヤ空気圧バルブ／送信機が正しく作動しないおそれがあります。

寒冷時の運転で知っておくこと

寒冷時に運転する前の確認

⚠ 注意

ガラスに付いた氷を除去するときは氷をたたいて割らないでください。
ガラスがひび割れるおそれがあります。

フロントウィンドウを暖めて凍結したワイパーを動かす

⚠ 警告

ウインドシールドデアイサーが作動しているときは、フロントウインドウガラス下部およびフロントピラー横の表面が熱くなりやけどをするおそれがあるので、ふれないでください。

リヤフォグランプの点灯

⚠ 注意

補機バッテリーあがりを防止するために、EV システムを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないでください。

ブレーキホールド

⚠ 警告

■ 次のようなときは、ブレーキホールドシステムを OFF にしてください。

- 急坂路
- すべりやすい路面
- 自動洗車機を使用するとき
- けん引されるとき

⚠ 注意

■ 駐車するとき

ブレーキホールドは長時間駐車するための機能ではありません。ブレーキ保持中にパワースイッチを OFF にすると、保持が解除されて車が動き出す場合があります。パワースイッチを操作するときは、ブレーキペダルを踏み、シフトポジションを P にして、パーキングブレーキをかけてください。

快適装備と便利な室内装備の使いかた

運転席への乗り降りをしやすくする（パワーイージーアクセスシステム）

⚠ 警告

挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。

ドライビングポジションの登録／呼び出し／解除

| ドライビングポジションを登録する（ポジションメモリー機能）

⚠ 警告

シート調整中は、シートがリヤ席乗員にあたったり、運転者の体がハンドルに圧迫されたりしないよう注意してください。

| ドライビングポジションを呼び出す（ポジションメモリー機能）

⚠ 警告

挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。

| 乗車時にドライビングポジションを自動で呼び出す（メモリーコール機能）（運転席のみ）

⚠ 警告

■ 挟み込み防止機能について

挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。

エアコンの使い方

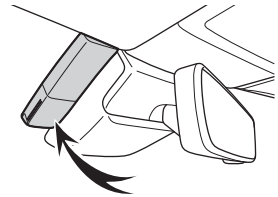
⚠ 注意

■ 補機バッテリーあがりを防ぐために

EV システム停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

■ 湿度センサーについて

- フロントウインドウガラスの曇り検知のために、フロントウインドウガラスの温度やその付近の湿度などを監視するセンサーが装着されています。



- センサーの故障を防ぐため、次のことをお守りください。
  - 湿度センサーを分解しない
  - ガラスクリーナーなどを吹きかけたり、強い衝撃を与えたりしない
  - 湿度センサーにシールなどを貼らない

| エアコン操作スイッチについて

⚠ 警告

■ ナノイー X 発生装置について

高電圧の部品を含むため、分解・修理はしないでください。修理

が必要な場合は、売店にお問い合わせください。

⚠ 注意

■ ナノイー X 発生装置の損傷を防ぐために

運転席側の吹き出し口の近くでスプレーを使用したり、吹き出し口にものをはめ込んだり貼ったりしないでください。正常に働かなくなるおそれがあります。

ステアリングヒーターのはたらき

⚠ 警告

次の方がステアリングヒーターに触れないようにご注意ください。やけどするおそれがあります。

- 乳幼児／お子さま／お年寄り／病人／体の不自由な方
- 皮膚の弱い方
- 疲労の激しい方
- 深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬、風邪薬など）を服用された方

⚠ 注意

EV システムが停止した状態で使用しないでください。補機バッテリーあがりにつながるおそれがあります。

シートヒーター／輻射ヒーターのはたらき

⚠ 警告

■ 低温やけどを防ぐために

次の方がシートヒーター／輻射ヒーターに触れないようにご注意ください。

- 乳幼児／お子さま／お年寄り／病人／体の不自由な方
- 皮膚の弱い方
- 疲労の激しい方
- 深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬、風邪薬など）を服用された方

■ 異常加熱や低温やけどを防ぐために

シートヒーター／輻射ヒーターを使用するときは次のことをお守りください。

- 毛布／クッションなどを使用しない
- 長時間連続使用しない

■ 走行中の警告

ハンドルから手を放したりペダルから足を放して、輻射ヒーターに触れたり手や足をかざす行為は行わないでください。

運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■ シートヒーター／輻射ヒーターの損傷を防ぐために

凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。

■ 補機バッテリーあがりを防ぐために

EV システムが停止した状態でシートヒーター／輻射ヒーターを使用しないでください。

シートベンチレーターのはたらき

⚠ 注意

■ シートベンチレーターの損傷を防ぐために

凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。

■ 補機バッテリーあがりを防ぐために

EV システムが停止した状態でシートベンチレーターを使用しないでください。

調光パノラマルーフの使い方★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。

■ 調光パノラマルーフについて

このシステムは高電圧の部品を含むため、分解／修理をしないでください。修理が必要な場合は、レクサス販売店にお問い合わせください。

■ やけどを防ぐために

車を直射日光のあたる場所に長時間駐車するとルーフの下側が熱くなるため、やけどをするおそれがあります。

ルーフシェードの使い方

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、ルーフシェードが脱落したり、視界をさえぎったり、思わぬ事故につながったり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ルーフシェードの取り付けや取りはずしは、安全な場所に停車しておこなってください。
- ルーフシェードが確実に取り付けられていることを確認してください。
- ルーフシェードを取り付けるときは、人やものがルーフシェードに当たらないよう気を付けてください。

⚠ 注意

■ 取り付け時 / 取り外し時の損傷を防ぐ

- 本車両以外には取り付けないでください。
- ルーフシェードを取り付けるときは、調光パノラマルーフとルーフシェードのあいだにものを入れないでください。
- 必ずストラップを持って取りはずしてください。
- ルーフシェードを無理にねじらないでください。

■ 取りはずしたあとの損傷を防ぐ

- 取りはずしたルーフシェードは収納バッグに入れてください。
- 収納バッグにはルーフシェード以外の物を入れないでください。
- 収納バッグを無理に引っ張らないでください。
- ルーフシェードを立てかけて保管しないでください。
- ルーフシェードの上に物を置かないでください。
- 収納バッグの周りにある荷物等も当たらないようにしてください。

室内灯の使い方

室内灯の位置

⚠ 注意

■ ランプのレンズの取りはずし

絶対に取りはずさないでください。ランプが故障する原因となります。レンズを取りはずす必要がある場合は、レクサス販売店にご相談ください。

■ 補機バッテリーあがりを防ぐために

EV システムが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

収納装備の位置

⚠ 警告

メガネ、ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

- 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
- 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる

ボトルホルダーの位置

⚠ 注意

ボトルホルダーを使用する場合は、次のことをお守りください。

- ボトルホルダーには、液体が入っている紙コップ／ガラス製のコップなどを収納しないでください。

中身の液体がこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

- ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。

小物入れを使う

⚠ 警告

- 200g 以上のものを入れないでください。200g 以上のものを入れると、フタが開き収納されているものが飛び出したりして思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 走行中や小物入れを使わないときは、フタを必ず閉じてください。急ブレーキや急旋回時などに、収納していたものが飛び出して、思わぬ事故につながるおそれがあります。

オープントレイを使う

⚠ 警告

オープントレイにものを置くときは、次の注意事項を守ってください。
急ブレーキや急ハンドル時などに収納していたものが飛び出し、ペダル操作のさまたげとなるおそれがあるほか、運転者の注意力がにぶり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 転がりやすいものや凹面より高さがあるものを置かないでください。
- トレイの端よりも高くものを積み重ねないでください。
- トレイの端からはみ出してものを置かないでください。

カップホルダーを使う

⚠ 警告

カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。
急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。
やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。

コンソールボックスを使う

⚠ 警告

使用しないときや走行中は、コンソールボックスを必ず閉じてください。
コンソールボックスが開いたままにしておくと、急ブレーキや急旋回時などに、乗員に開いたコンソールボックスがあたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

室内の快適性をさらに向上させるための装備

充電用 USB 端子の機能と働き

⚠ 注意

■ 充電用 USB 端子の損傷を防ぐために
- 端子部に異物を入れないでください。
- 水や液体をかけないでください。
- 強い力や衝撃を加えないでください。
- 分解や改造、取りはずしをしないでください。

■ 外部機器の損傷を防ぐために
- 機器を車室内に放置しないでください。車室内が高温となり、故障の原因となります。
- 機器が接続されているときに、外部機器や外部機器のケーブルを押し下げたり、不要な力を加えたりしないでください。

■ 補機バッテリーあがりを防ぐために
EV システムが停止した状態で、充電用 USB 端子を長時間使用しないでください。

アクセサリーソケットの機能と働き

⚠ 注意

■ アクセサリーソケットの損傷を防ぐために
- 端子部に異物を入れないでください。
- 水や液体をかけないでください。
- アクセサリーソケットを使わないときはフタを必ず閉じてください。端子部に異物や液体が入ると故障やショートの原因になります。
- 強い力や衝撃を加えないでください。

■ 補機バッテリーあがりを防ぐために
EV システムが停止した状態で、アクセサリーソケットを長時間使用しないでください。

「おくだけ充電®」（ワイヤレス充電器）の機能と働き

⚠ 警告

■ 運転中の注意
携帯機器を充電する場合、安全のため、運転者は運転中に携帯機器本体の操作をしないでください。

■ 走行中の注意
コードレスヘッドフォンなど小型軽量の携帯機器は、走行中に充電しないでください。非常に軽量のため充電トレイから飛び出し、思わぬ事故の原因になるおそれがあり危険です。

■ 電波がおよぼす影響
植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器などの医療用電気機器を装着されている方は、ワイヤレス充電器のご使用にあたっては医師

とよくご相談ください。
ワイヤレス充電器の動作が医療用電気機器に影響を与えるおそれがあります。

■ **故障ややけどを防ぐために**

次のことをお守りください。
お守りいただかないと装置の故障や損傷、車両火災、発熱によるやけど、または感電につながるおそれがあります。

- 充電中に、充電エリアと携帯機器の間に金属物をはさまない
- 充電エリアにアルミなどのシールや金属製のものを貼り付けない
- 携帯機器本体および外付けのケースやカバーなどに対して、充電エリアと接触する側に、アルミなどのシールや金属製のものを貼り付けたまま充電しない
- 小物入れがわりにものを置かない
- 強い力や衝撃をかけない
- 分解や改造、取りはずしをしない
- 指定された携帯機器以外は充電しない
- 磁気を帯びたものを近付けない
- 充電エリアに、ほこりがかぶった状態で充電しない
- 布などをかぶせて充電しない

⚠ 注意

■ **故障やデータ破損の防止**

- 充電中に、充電エリアにクレジットカード／ ETC カードなどの磁気カードや磁気記録メディアなどを近付けると、磁気の影響によりデータが消えるおそれがあります。

また、腕時計などの精密機器を近付けると、こわれたりするおそれがありますので、近付けないでください。

- 携帯機器の充電面と充電エリアのあいだに、交通系 IC カードなど非接触型 IC カードを挟んだまま充電しないでください。IC チップが非常に高温になり、携帯機器や IC カードが破損するおそれがあります。

特に、非接触型 IC カードを取りつけられるケースやカバーを携帯機器に装着したまま充電しないようにご注意ください。

- 携帯機器は車室内に放置しないでください。炎天下など車室内が高温となり、故障の原因となります。

■ **補機バッテリーあがりの防止**

EV システムを停止した状態で、ワイヤレス充電器を長時間使用しないでください。

リヤアームレストを使う

⚠ 注意

アームレストに過度の負荷をかけないでください。破損の原因となります。

アシストグリップの機能と働き

⚠ 警告

乗降時やシートから立ち上がるときなどに、アシストグリップを使用しないでください。

⚠ 注意

破損を防ぐために、アシストグリップに過度の負荷をかけないでください。

コートフックの位置

⚠ 警告

ハンガーや他の硬いもの、鋭利なものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグがふくらんだときにそれらのものが飛び、重大な傷害または死亡につながるおそれがあります。

バニティミラーを使う

⚠ 注意

EV システムが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。補機バッテリーあがりの原因となります。

パノラマルーフ★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

車を直射日光のあたる場所に長時間駐車するとルーフの下側が熱くなるため、やけどをするおそれがあります。

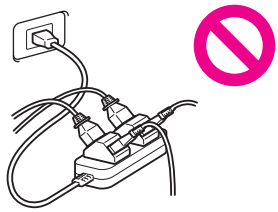
アクセサリーコンセント（AC100V 1500W）・非常時給電システム

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 非常時給電システムの使用中は、お子さまや介護を必要とする方、ペットを車内に残さないでください。エアコンを使用していても、システムの自動停止等により室内が高温、または低温になる場合があり、熱中症・脱水症状・低体温症になるおそれがあります。
- お子さまなど、不慣れな方だけで給電作業を行わないでください。
- ぬれた手で電気製品の電源プラグを抜き挿ししたり、ピンなどをコンセントに挿したりしないでください。また、コンセントに雨水・飲料水・雪などが付着した場合は乾燥させてから使用してください。
- コンセントの改造・分解・修理などはしないでください。修理についてはレクサス販売店にご相談ください。
- コンセントにほこりやゴミが付着しないようにしてください。また、定期的にコンセントを掃除してください。
- コンセントへは電源プラグ本体を持って抜き挿しをし、プラグの刃にふれないようにしてください。コードを引っ張って電源プラグを抜くと、電源プラグやコードが損傷するおそれがあります。
- コードやコンセントに異常な発熱を感じたらただちに使用を中止してください。また、コードやコンセントの発熱を防ぐために、次のことをお守りください。
  - ・ コンセントに、分岐用コンセントを複数接続しない
  - ・ コードリールを使用する場合、コードはリールからすべて引き出す



- アース線のある電気製品を使用するときは、アース端子付きのコンセントを使用し、アース線をアース端子に接続してください。また、接地極付プラグのある電気製品を使用するときは、市販の変換アダプターを使用してアース線をアース端子に接続してください。
- 電気製品の電源プラグをコンセントに挿し込んでもゆるいときは、コンセントを交換してください。交換についてはレクサス販売店にご相談ください。

■ アクセサリーコンセント、非常時給電システムがおよぼす影響について

ペースメーカー（植込み型心臓ペースメーカー／植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータ）装着のお客様は、給電の操作はご自身ではなさらず、ほかの方にお願いしてください。

- 給電中は車内にとどまらないでください。給電により、ペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。
- ものを取るときなどに、ラゲージルームなど含めた車内に入り込まないでください。給電により、ペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。

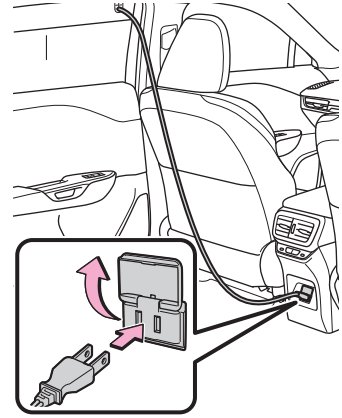
■ 接続する電気製品について

- 使用する電気製品に付属の取扱説明書や、製品に記載されている注意事項を必ずお守りください。
- 電源プラグや、電気製品が故障しているときは使用しないでください。
- 特に外気温が低いときや高いときは、故障や作動不良になる可

能性があります。
- 水平設置が必要な電気製品は、正常に作動しない可能性があります。
- 防水仕様の電気製品を除き、雨や水のかかる場所、湿気の多い場所では使用しないでください。
- 水没や浸水した、またそのおそれのある電気製品は使用しないでください。
- 車両の状態によっては、一時的に給電機能が停止することがあります。

■ 電源周波数について
- 工場出荷時、車両側の電源周波数は、50Hz に設定されています。コンセントと電源周波数が異なる電気製品を使用しないでください。誤作動や故障などの原因になるおそれがあります。電気製品によっては、電源周波数の切りかえ（50/60Hz）機能があるので、車両と電気製品の電源周波数を同じにしてください。車両側の電源周波数切りかえが必要な場合は、レクサス販売店にご相談ください。
- 特に電子レンジは使用中に発熱するおそれがあるため、必ずコンセントと電源周波数が合っていることを確認してください。

■ 駐車中または停車中に使用するとき
- コンセントは、照明器具などの電気製品と直接接続して使用するものです。家屋などへ電気を供給する発電機として使用しないでください。また、家屋などに設置されている非常時の給電システム（外部電源と接続ができる専用設備、外部電源からの供給回路が電力会社からの電気配線と分離されている設備など）に接続する場合は、当該システムの製造業者または販売業者にご相談ください。
- コンセントの使用中はパーキングブレーキをしっかりとかけて、シフトポジションを P から切りかえないでください。車両が動いて思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- コンセントの使用中は車両から離れないでください。
- 落雷の可能性がある天候のときは給電を行わないでください。給電中、雷に気付いたときは給電を停止してください。
- 車両をカーカバーなどで覆った状態で使用しないでください。
- 暖房器具などの電気製品を使用して車中に泊まる際は、十分注意してください。給電システムの自動停止などにより、電気製品が意図せず停止するおそれがあります。
- 傾いた場所や坂道などに停めて使用しないでください。使用中に車両を移動させたり、傾けたりしないでください。
- 車外にコードを引いて使用する場合は、次のことに注意してください。
  - 雨水の浸入などに注意する
    コンセントに雨水が付着した場合は、乾燥させてから使用してください。
  - コードを窓やドアで挟まない
  - たるみをもたせ、異常な張りが発生しないようにする
  - 誤って車両を発進させない



- 洗車は行わないでください。
- ボンネットが閉まっていることを確認してください。
- モータールーム内に顔や手を近付けないでください。ラジエーター冷却用のファンが急にまわりだすことがあります。ファンの回転部分にふれたり、近付いたりすると、手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）が巻き込まれるおそれがあります。
- 燃えやすいものの近くで停車しないでください。
- 腐食性のガスまたは溶液の発散する場所では使用しないでください。

■ 走行中に使用するとき
- 走行中、次のような場合は、電気製品を使用しないでください。また、電気製品を確実に固定できない状態で使用しないでください。
  - わき見運転など、安全運転のさまたげになる場合（テレビ・ビデオ・DVD など）
  - 急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、固定が不完全

で転倒のおそれがある場合
・落下による事故や、発熱により火災が発生するおそれがある場合
・やけどなどのおそれがある場合（トースター・電子レンジ・電熱器・ポット・コーヒーメーカーなど）
・ペダルの下に電気製品が入り込み、ブレーキペダルが踏めなくなるおそれがある場合（ドライヤー・AC アダプター・マウスなど）

- 窓を閉めたまま、蒸気が出る電気製品を使用しないでください。ガラスが曇って視界が悪化し、運転に支障が出るなどのおそれがあります。また、他の電装品に悪影響をおよぼすおそれがあります。やむを得ず使用するときは、車両を停車した状態で窓を開けて使用してください。

■ 車載充電器について

モータールームに車載充電器があります。車載充電器については、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、やけどや感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 給電時は高温になります。やけどをするおそれがあるため、ふれないでください。
- 分解・修理・改造しないでください。修理が必要な場合は、必ずレクサス販売店にご相談ください。

⚠ 注意

■ ショートや故障を防ぐために

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、正常に作動しなかったり、車両や電気製品が損傷したりするおそれがあります。

- 車内のトリムの近くやシートの上などで、トースターなどの熱気を出す電気製品を使用しないでください。熱により溶損や焼損のおそれがあります。
- 振動や熱などに弱い電気製品を車内で使用しないでください。車両の振動や、炎天下での駐車時の熱などにより、電気製品が故障するおそれがあります。
- コンセントを使用しないときは、フタを閉めてください。コンセントに異物が入ったり、飲料水などがかかったりすると、故障したり、ショートしたりするおそれがあります。

■ 非常時給電システムを使用したあと、走行させるとき

非常時給電システムを停止してから EV システムを始動してください。

デッキフックを使う

⚠ 警告

デッキフックを使用しないときは、けがをしないように、必ずもとの位置にもどしておいてください。

ネットフックを使う

⚠ 警告

ネットフックを使用しないときは、けがをしないように、必ずもとの位置にもどしておいてください。

買い物フックを使う

⚠ 注意

4kg 以上のものや大きいものを買い物フックに吊り下げないでください。
買い物フックが損傷するおそれがあります。

デッキボード

デッキボードを開ける

⚠ 警告

デッキボードを開けたり取りはずしたときは、走行前に必ずもとどおりに取り付けてください。そのまま走行すると、急ブレーキをかけたときなどにデッキボードや収納していたものが飛び出すおそれがあります。

トノカバーを収納する

⚠ 警告

- トノカバーの上には、荷物を積まないでください。トノカバーが破損したり、急ブレーキや旋回時に荷物が飛び出して乗員にあたったりするおそれがあります。
- トノカバーの上には、子どもが乗ったりしないようにしてくだ

さい。トノカバーが破損するおそれがあります。

メーター／ディスプレイの機能と表示される情報

警告灯／表示灯

警告灯一覧

⚠ 警告

ABS や SRS エアバッグなど安全装置の警告灯がパワースイッチを ON にしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

計器類の見方

⚠ 警告

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。
例えば回生ブレーキカインジケーターを使用した場合、シフト操作をしてもすぐに回生ブレーキカインジケーターが切りかわらないことで運転者がダウンシフトしなかったと誤解し、再度ダウンシフトすることによって急激に過度の回生ブレーキがかかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

マルチインフォメーションディスプレイの表示

⚠ 警告

■ 運転中の使用

- マルチインフォメーションディスプレイを操作する時は、周囲の安全に十分注意してください。
- マルチインフォメーションディスプレイを見続けないでください。前方の歩行者、障害物などを見落とすおそれがあり危険です。

■ 低温時の画面表示

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。
例えば回生ブレーキカインジケーターを使用した場合、シフト操作をしてもすぐに回生ブレーキカインジケーターが切りかわらないことで運転者がダウンシフトしなかったと誤解し、再度ダウンシフトすることによって急激に過度の回生ブレーキがかかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

ディスプレイの設定を変更するとき、補機バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実に EV システムが作動している状態で実施してください。

ヘッドアップディスプレイの表示

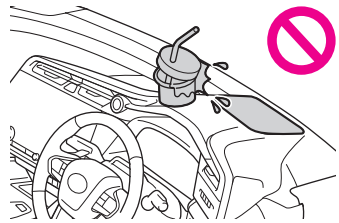
⚠ 警告

ヘッドアップディスプレイを見続けないでください。前方の歩行者、障害物などを見落とすおそれがあり危険です。

⚠ 注意

次のことをお守りください。

- 映写部の付近に飲み物を置かないでください。水やその他の液体が映写部にかかると、装置が故障する原因になります。



- 映写部の上にものを置いたり、シールなどを貼り付けたりしないでください。

ヘッドアップディスプレイの表示のさまたげとなります。

- 映写部の内部にふれたり、とがったものを押し付けたりしないでください。

装置が故障する原因となります。

ヘッドアップディスプレイの設定を変更する

⚠ 警告

映像の明るさ、および表示位置は、安全運転に支障がないよう適切な状態に調整してください。
調整が不適切だと運転者の視界のさまたげとなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

ヘッドアップディスプレイの設定を変更するときは、補機バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実に EV システムが始動している状態で実施してください。

安全運転を支援する機能

運転を補助する装置の一覧

運転を補助する装置について

⚠ 警告

■ ABS の効果を発揮できないとき

- タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき（雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど）
- 雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

- 泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 道路のつなぎ目など、段差をこえたとき
- 凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■ TRC や VSC の効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRC や VSC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■ アクティブコーナリングアシストの効果を発揮できないとき

- アクティブコーナリングアシストを過信しないでください。下り坂での加速中やすべりやすい路面などでは、アクティブコーナリングアシストが効かないことがあります。
- アクティブコーナリングアシストが頻繁に作動したときは、ブレーキ・TRC・VSC を正常に機能させるために、アクティブコーナリングアシストが一時的に作動しないことがあります。

■ ヒルスタートアシストコントロールの効果を発揮できないとき

- ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や凍った路面ではヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。
- ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間駐車するための機能ではありませんので、同機能を坂道での駐停車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ スリップ表示灯が点滅しているときは

TRC・VSC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

■ TRC や VSC を OFF にするときは

TRC や VSC は駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。そのため、必要なとき以外は TRC・VSC を作動停止状態にしないでください。TRC や VSC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

■ タイヤまたはホイールを交換するときは

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・ブランド・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。(→ ※) 異なったタイヤを装着すると、ABS・TRC・VSC など、運転を補助するシステムが正常に作動しません。タイヤ、またはホイールを交換するときは、レクサス販売店に相談してください。

■ タイヤとサスペンションの取り扱い

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

※：WEB 掲載のデジタル取扱説明書をご覧ください。

■ セカンダリーコリジョンブレーキについて
セカンダリーコリジョンブレーキを過信しないでください。本システムは、二次衝突による被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。システムを過信すると重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
■ 後側方レーダーセンサーの取り扱い
→ ※

ソフトウェアアップデートを確認する（Lexus Safety System + ／アドバンスト ドライブ [渋滞時支援]）

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために
Lexus Safety System + ／アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）は、ソフトウェアを更新することで各機能の取り扱い方法が変わることがあります。正しい取り扱い方法を知らずにシステムを使用すると、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
レクサス公式 Web サイトにある、システムのソフトウェアバージョンに合ったデジタル取扱説明書をお読みいただいた上でご使用ください。

Lexus Safety System +

⚠ 警告

■ Lexus Safety System + について
Lexus Safety System + は運転者の安全運転を前提としたシステムであり、事故被害や運転負荷の軽減に寄与することを目的としています。
本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。
■ 安全にお使いいただくために
- システムを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。本システムはあらゆる状況で動作するものではなく、支援には限界があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- お客様ご自身で作動テストを行わないでください。対象や状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。ディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。
- 外部の騒音やオーディオの音などにより、警報ブザーが聞きとりにくい場合があります。また、路面状況などにより、システムの作動を感じにくい場合があります。

■ システムを OFF にする必要があるとき
次のときは、システムを OFF にしてください。
システムが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 過積載やパンクで車両が傾いているとき
- 過度な高速走行をしているとき
- けん引時
- トラック／船舶／列車などに積載するとき
- 車両をリフトで上げ、タイヤを空転させるとき
- 点検でシャシーダイナモやフリーローラーなどを使用するとき
- オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- 洗車機を使用するとき
- センサーやセンサー周辺への衝撃などによりセンサーの向きがずれているとき、変形しているとき
- センサーやライトをさえぎるような装備品を装着しているとき
- 応急用タイヤ・タイヤチェーンなどを装着しているとき、タイヤパンク応急修理キットで修理したとき
- タイヤの残り溝が十分にないとき、または空気圧が不足しているとき
- メーカー指定のサイズ以外のタイヤを装着しているとき
- 事故や故障などにより走行不安定なとき

Lexus Safety System + で使用するセンサー

⚠ 警告

※：WEB 掲載のデジタル取扱説明書をご覧ください。

■ **レーダーの故障や誤作動を防ぐために**

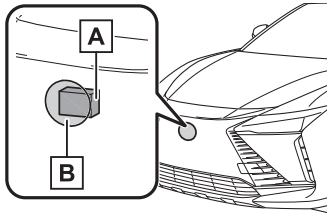
次のことをお守りください。お守りいただかないと、レーダーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● レーダーとレーダー専用カバーは常にきれいにしておく

レーダー前面やレーダー専用カバー前後面に汚れ・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。

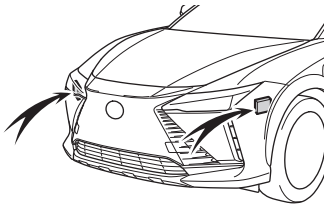
お手入れをする際は、レーダーやレーダー専用カバーを傷付けないよう、やわらかい布で汚れをふき取ってください。

A レーダー
B レーダー専用カバー



● 前側方レーダー周辺のフロントバンパーは常にきれいにしておく。

● フロントバンパーの塗装修理の際には、レクサス設定色以外への変更は行わないでください。センサーはフロントバンパー表面の塗装の影響を受けやすく、正しい修理をしないと警告表示とともにシステムが作動しなくなることがあります。塗装修理の際はレクサス販売店にご相談ください。



● レーダーやレーダー専用カバー周辺にアクセサリーを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしない

● レーダー周辺への衝撃を避ける

レーダー／フロントグリル／フロントバンパーに衝撃を受けた際は、必ずレクサス販売店で点検を受けてください。

● レーダーを分解しない

● レーダーやレーダー専用カバーを改造、塗装したりしない。純正部品以外に交換しない。

● 次のようなときは、レーダーの再調整が必要です。

詳しくはレクサス販売店にご相談ください。

・ レーダーを脱着や交換したとき
・ フロントバンパー／フロントグリルを交換したとき

■ **ヒーター機能付レーダー専用カバーについて**

レーダー専用カバーに雪が堆積する可能性があるとシステムが判断した場合、ヒーターが自動的に作動します。お手入れなどでレーダー専用カバー周辺にふれるときは、十分に冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

■ **前方カメラの故障や誤作動を防ぐために**

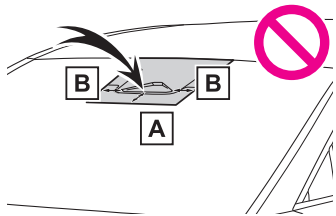
次のことをお守りください。お守りいただかないと、前方カメラが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● フロントウインドウガラスは常にきれいにしておく

・ フロントウインドウガラス外側に汚れ／油膜／水滴／雪などが付着した場合は、取り除いてください。
・ フロントウインドウガラスにガラスコーティング剤を使用していても、前方カメラ前部に水滴などが付着した場合は、ワイパーでふき取ってください。
・ フロントウインドウガラス内側の前方カメラ取り付け部が汚れた場合は、レクサス販売店にご相談ください。

● フロントウインドウガラスの前方カメラ前部（図に示す範囲内）にステッカー（透明なものを含む）などを貼り付けない

A 約 4cm
B 約 4cm



● 前方カメラ前部のフロントウインドウガラスが曇ったり、結露したり、凍結したりした場合は、エアコンの機能を使用する

● 前方カメラ前部のフロントウインドウガラスの水滴をワイパーが正しくふき取れないときは、ワイパーゴムまたはワイパーブ

レードを交換する
- フロントウインドウガラスにフィルムを貼らない
- フロントウインドウガラスに傷・ひびなどが生じた場合は、そのまま放置せずに交換する

フロントウインドウガラスの交換後は、前方カメラの再調整が必要です。詳しくはレクサス販売店にご相談ください。
- 前方カメラに液体をかけない
- 前方カメラに強い光を照射しない
- 前方カメラのレンズを汚したり、傷を付けたりしない

フロントウインドウガラス内側を掃除するときは、ガラスクリーナーがレンズに付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。
レンズに汚れ・傷がある場合は、レクサス販売店にご相談ください。
- 前方カメラに強い衝撃を加えない
- 前方カメラの取り付け位置や向きを変更したり、取りはずしたりしない
- 前方カメラを分解しない
- インナーミラーなどの前方カメラ周辺部品や天井を改造しない
- ボンネット・フロントグリル・フロントバンパーに、前方カメラの視界をさえぎる可能性のあるアクセサリーを取り付けない

詳しくはレクサス販売店にご相談ください。
- ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボードなど）を積むときは、前方カメラの視界をさえぎらないようにする
- ヘッドランプなどのランプ類を改造しない

■ フロントウィンドウガラスの前方カメラ取り付け部について

フロントウインドウガラスが曇る可能性があるとシステムが判断した場合、ヒーターにより前方カメラ周辺のフロントウインドウガラスの曇り取りが自動的に作動します。お手入れなどで前方カメラ周辺にふれるときは、十分にフロントガラスが冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

■ ドライバーモニターカメラの取り扱いについて

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、ドライバーモニターカメラの故障や誤作動によりシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ドライバーモニターカメラおよびその周辺に強い衝撃を与えない

強い衝撃を受けると、ドライバーモニターカメラの位置や向きがずれ、運転者を正しく検知できなくなるおそれがあります。必ずレクサス販売店で点検を受けてください。
- ドライバーモニターカメラを分解・改造しない
- ドライバーモニターカメラおよびその周辺にアクセサリーを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしない
- ドライバーモニターカメラおよびその周辺に液体をかけない
- ドライバーモニターカメラの前にものを置いたり、覆ったりしない
- ドライバーモニターカメラのレンズを傷付けない
- ドライバーモニターカメラのレンズをさわったり、汚したりしない

レンズに指紋や汚れが付着した場合は、レンズを傷付けないよう乾いたやわらかい布でふき取ってください。
- お手入れする際は、樹脂を腐食させるような洗剤・有機溶剤を使用しない

知識

■ レーダーの取り扱い

レーダーセンサーは電波法の基準に適合しています。センサーに印字されているマークはその証明ですので消さないでください。また、製品を分解・改造すると罰せられることがあります。必ず日本国内でご使用ください。

運転者の状態をカメラで検知して自動的に注意喚起する | ドライバーモニター

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために
- ドライバーモニターは運転者の不注意行動や姿勢崩れを未然に防ぐものではありません。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
- ドライバーモニターは運転者の眠気を解消するものではありません。集中力の低下や眠気を感じたら、適度に休憩や仮眠を取り、安全運転に努めてください。

衝突する前に注意を促してブレーキを掛ける
| PCS（プリクラッシュセーフティ）

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

プリクラッシュセーフティを日常のブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本システムはあらゆる状況で衝突を回避または衝突の被害を軽減するものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- プリクラッシュセーフティは衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

・ 安全にお使いいただくために：→ ※

■ プリクラッシュセーフティを OFF にするとき

- システムを OFF にする必要があるとき：→ ※

■ プリクラッシュブレーキについて

- プリクラッシュブレーキが作動したときは、強いブレーキがかかります。
- プリクラッシュブレーキは停止状態を保持する機能ではありません。プリクラッシュブレーキの作動により車両が停止したときは、必要に応じて速やかに運転者自らブレーキをかけてください。
- プリクラッシュブレーキは運転者の操作状態によっては作動しません。運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたり、ハンドルを操作したりしていると、運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキが作動しない、または作動が解除される場合があります。
- ブレーキペダルを踏んでいるときは、運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動開始タイミングが遅れる場合があります。

■ 低速時加速抑制について

運転者がハンドルを操作していると、回避操作とシステムが判断し、低速時加速抑制が作動しない、または作動が解除される場合があります。

■ 緊急時操舵支援について

- 緊急時操舵支援は車線逸脱抑制制御が完了したとシステムが判断した段階で作動を解除します。
- 緊急時操舵支援は運転者の操作状態によっては作動しない、または作動中に解除される場合があります。

・ 運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたり、ハンドルを大きく操作したり、ブレーキを踏んでいたり、方向指示レバーを操作すると、運転者の回避操作とシステムが判断し、緊急時操舵支援が作動しない場合があります。

・ 緊急時操舵支援作動中に、アクセルペダルを強く踏んだり、ハンドルを大きく操作したり、ブレーキを踏んでいると、運転者の回避操作とシステムが判断し、緊急時操舵支援の作動が解除される場合があります。

・ 緊急時操舵支援作動中に、ハンドルを保持したりシステムと逆方向にハンドル操作した場合には、緊急時操舵支援の作動が解除されます。

車線内中央の走行維持のハンドル操作を支援する
| LTA（レーントレーシングアシスト）

⚠ 警告

■ LTA をお使いになる前に

- LTA を過信しないでください。LTA は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。また、長時間の運転などによる疲労時は適切に休憩をとってください。
- 適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- LTA を使用しないときは、LTA スイッチでシステムを OFF にしてください。

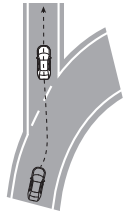
■ 機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、各機能が正しく作動せず車線から逸脱するおそれがあります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握

※：WEB 掲載のデジタル取扱説明書をご覧ください。

し、本機能を過信せずにハンドル操作で進路を修正してください。

- 先行車/周辺車が車線変更したとき（先行車 / 周辺車の動きに合わせて自車も車線変更するおそれがあります）



- 先行車 / 周辺車がふらついたとき（先行車 / 周辺車の動きに合わせて自車もふらついて走行しレーンをはみ出すおそれがあります）
- 先行車 / 周辺車が車線から逸脱したとき（先行車 / 周辺車の動きに合わせて自車も車線から逸脱するおそれがあります）
- 先行車 / 周辺車がレーン内を右、または左に片寄って走行したとき（先行車 / 周辺車の動きに合わせて自車も片寄って走行しレーンをはみ出すおそれがあります）
- 周囲に移動物、構造物があるとき （移動物、構造物と自車の位置によっては自車がふらついて走行するおそれがあります）
- 横風を受けているときなど、周辺車両の走行によって発生する風の影響を受けているとき
- センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→ ※
- 車線を検知できないおそれがあるとき：→ ※
- システムを OFF にする必要があるとき：→ ※

車線変更するときのハンドル操作を支援する
| LCA（レーンチェンジアシスト）

⚠ 警告

■ LCA をお使いになる前に

- LCA を過信しないでください。

LCA は自動で運転する装置でも車線変更先の並走車や急な接近車両等への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。

また、車線変更してはいけない車線（対向車線、路肩等）に対して LCA を使用しないでください。

- 適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ LCA を使用してはいけない状況

- 片側 1 車線の道路を走行しているとき
- 自車の走行車線と、車線変更先の車線の間が白線の破線でないとき

車線からのはみ出しを警告で防ぐ
| LDA（レーンディパーチャーアラート）

⚠ 警告

■ LDA をお使いになる前に

- LDA を過信しないでください。LDA は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。また、長時間の運転などによる疲労時は適切に休憩をとってください。
- 適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ 機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、各機能が正しく作動せず車線から逸脱するおそれがあります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、本機能を過信せずにハンドル操作で進路を修正してください。

- アスファルトと草・土などの境界や、縁石、ガードレールなどの構造体が不明瞭または直線的でないとき
- 横風を受けているときなど、周辺車両の走行によって発生する風の影響を受けているとき
- 車線を検知できないおそれがあるとき：→ ※
- センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→ ※
- システムの一部もしくは全てが作動しないとき：→ ※
- システムを OFF にする必要があるとき：→ ※

作動対象に近づきすぎないようにブレーキやハンドルの操作を支援する
| PDA（プロアクティブドライビングアシスト）

※：WEB 掲載のデジタル取扱説明書をご覧ください。

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。

- プロアクティブドライビングアシストは日常のブレーキ操作、ステアリング操作の一部を支援し、作動対象に近づきすぎないように支援することを目的としていますが、支援の範囲には限りがあります。

必要に応じて運転者自らブレーキやステアリング操作を行ってください。次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。(→ ※)

- プロアクティブドライビングアシストは前方への注意を軽減する装置ではありません。システムが正常に機能していても運転者が認識している周囲の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。注意義務は運転者にあり、危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡事故につながる恐れがあります。
- わき見運転やぼんやり運転などを許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

■ プロアクティブドライビングアシストを OFF にするとき

- センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→ ※
- システムを OFF にする必要があるとき：→ ※

■ システムが正常に作動しないおそれがあるとき

- 車線を検知できないおそれがあるとき：→ ※
- 作動対象などが自車進路内に入る手前で停止したとき
- ガードレールや柵などの奥にいる作動対象のすぐそばを通過するとき
- 車線を変更して作動対象などを追いこすとき
- 車線変更や右左折している作動対象などを追い抜くとき
- 物体（ガードレール・電柱・木・壁、柵、ポール、工事用コーン、ポストなど）が周囲に存在するとき
- 自車の前方に作動対象との区別がつきにくい模様・ペイントがあるとき
- 道路上方に構造物（天井の低いトンネル・道路標識・看板など）がある場所を走行するとき
- 雪道、轍のある道路や凍結路を走行するとき
- 自車に向かって作動対象が近づいてくるとき
- 自車や作動対象がふらついているとき
- 作動対象の動きが変化したとき（方向転換、急加速、急減速など）
- 作動対象に急接近したとき
- 先行車・自動二輪車が自車の中心軸からずれているとき
- 上方に構造物がある場所の下に作動対象がいるとき
- 作動対象の一部が他のもので隠れているとき（大きな荷物や傘、またはガードレールなど）
- 作動対象が複数重なっているとき
- 作動対象が太陽光や他車両からのヘッドランプなどの強い光を反射しているとき
- 作動対象の色合いが白系統で、極端に明るく見えるとき
- 作動対象の色合いや明るさが背景に溶け込んでいるとき
- 作動対象が割り込んできたり、飛び出してきたりしたとき
- 横向き、斜め、または自車方向を向いている前方車両に近付いたとき
- 駐車車両が横向き、斜め向きのとき
- 子供用自転車、大きい荷物を載せた自転車、2 人以上乗車している自転車、または特殊な形状の自転車（チャイルドシート装着車・タンデム自転車など）
- 歩行者・自転車運転者の大きさが約 1m 以下、または約 2m 以上のとき
- 歩行者・自転車運転者の全身の輪郭があいまいなとき（レインコート・ロングスカートを着用している場合など）
- 歩行者・自転車運転者が前かがみになっている、またはしゃがんでいるとき
- 歩行者・自転車運転者の移動速度が速いとき
- 歩行者がベビーカー・車いす・自転車などを押しているとき
- 周囲が薄暗い（朝方・夕方など）、および周囲が暗い（夜間やトンネル内など）ため、作動対象が周囲に溶け込んでいるとき
- 車線幅が約 4m 以上あるとき
- 車線幅が約 2.5m 以下のとき

※：WEB 掲載のデジタル取扱説明書をご覧ください。

- EV システムを始動したあと、走行を開始してしばらくのあいだ
- 右左折中および右左折後の数秒間
- 進路変更中および進路変更後の数秒間
- 作動対象がカーブ進入前、カーブ走行中およびカーブを曲がり切ってからの数秒間に存在するとき
- 信号機の灯色が黄色のとき
- 信号機が一灯式や二灯式のとき

低速時に交差点などで交差する車を検知して音と画面で知らせる
FCTA（フロントクロストラフィックアラート）

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。FCTA は前方を交差する車両の存在を運転者に知らせる補助的なシステムです。システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。注意喚起の表示内容は、実際の交通状況と異なる場合があります。一定時間経過後に注意喚起が消えますが、周囲に車両や歩行者がいないことを示すものではありません。

標識の見逃し防止をサポートする
RSA (ロードサインアシスト)

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
- RSA は、道路標識などの情報を知らせることで運転の支援を行いますが、支援の範囲には限りがあります。運転者は常に道路標識などに従い、ご自身で適切な運転操作をしてください。

■ RSA を使用してはいけない状況

- システムを OFF にする必要があるとき：→ ※

■ 機能が正常に作動しないおそれのある状況

- センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→ ※

最適な車間距離を保って追従走行する
レーダークルーズコントロール

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
- レーダークルーズコントロールは運転者の操作の一部を支援し、操作負担を軽減するためのシステムで、支援の範囲には限りがあります。

次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

・ システムが正しく作動しないおそれのある状況：→ ※

- 設定速度は、制限速度・交通の流れ・路面環境・天候などを考慮して適切に設定してください。設定速度の確認は、運転者が行う必要があります。
- システムが正常に機能していても、運転者が認識している先行車の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。従って注意義務・危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ システムの支援内容に関する注意点

システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 運転者が見る過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離を検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。走行中に限らず、運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

- 運転者が判断する過程での支援内容

※：WEB 掲載のデジタル取扱説明書をご覧ください。

レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離が適正かどうかを判断しており、それ以外の判断はしません。このため、危険性があるかどうかなど運転者は自ら安全の判断をする必要があります。

- 運転者が操作する過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、先行車への追突を防止する機能はありません。このため、危険性があれば運転者自らが安全を確保する必要があります。

■ レーダークルーズコントロールを使用してはいけない状況

次の状況では、レーダークルーズコントロールを使用しないでください。適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 歩行者や自転車等が混在している道
- 高速道路や自動車専用道路の出入り口
- 接近警報がひんぱんに鳴るとき
- センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→ ※
- システムを OFF にする必要があるとき：→ ※

一定の車速で走行する
クルーズコントロール

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
- 設定速度は、制限速度・交通の流れ・路面環境・天候などを考慮して適切に設定してください。設定速度の確認は、運転者が行う必要があります。

■ クルーズコントロールを使用してはいけない状況

次の状況では、クルーズコントロールを使用しないでください。適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 急カーブのある道
- 曲がりくねった道
- 雨天時や、凍結路・積雪路などのすべりやすい路面
- 急な下り坂や急で勾配の変化が激しい坂

急な下り坂では車速が設定速度以上になることがあります。

- システムを OFF にする必要があるとき：→ ※

運転者の異常時に自動的に車線内で自車を停車させる
ドライバー異常時対応システム

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。ドライバー異常時対応システムは、運転者が急病などにより運転の継続が困難になった場合を対象とするシステムであり、居眠り運転や注意散漫な運転、体調が悪い場合の運転を対象とするものではありません。
- ドライバー異常時対応システムは、システムが運転者による運転の継続が困難と判断した場合に、自車線内で減速、停車を行うことで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。また、作動には条件があり、作動条件を満たさない場合は作動しません。
- システム作動後、異常から復帰できた場合には、速やかに運転を再開するか、路肩へ避難し、三角表示板および発炎筒を設置して後続車両に停車していることをお知らせください。
- システム作動後、同乗者は運転者への救護措置をはじめとした必要な危険防止措置をとり、路側帯やガードレールの外側などの安全な場所にすみやかに退避してください。
- 本システムは運転者の異常をハンドルの操作状態などで判断しています。正常な運転者が意図的に無操作を続けた場合には、システムが作動することがあります。また、運転者が異常状態であっても、ハンドルにもたれかかるなどシステムが手放し運転と判断できない場合は、システムが作動しないことがあります。
- ドライバーモニター装着車：ドライバーモニターが正常に作動しないおそれがある状況：→ ※

ヘルプネット自動接続は、G-Link 通信エリア内、かつ G-Link 契約がされている場合にのみ行われます。G-Link 通信エリア外や G-Link 未契約、G-Link 契約が未更新の場合は接続が行われず、警察・救急への通報が行われません。あらかじめ通信エリアとご

※：WEB 掲載のデジタル取扱説明書をご覧ください。

自身の G-Link 契約をご確認の上、システムをご利用ください。

高速道路／自動車専用道路の渋滞時に運転をサポートする | アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
- 渋滞時支援機能は自動で運転するシステムではありません。本システムは道路の形状・状態・交通状況や運転者の状態に応じて、運転者への情報提供や運転支援を行います。常に周囲の状況を把握した上で、運転者の責任においてシステムを使用してください。
- 渋滞時支援機能は周囲の状況・道路の状態、運転者の状態によっては作動しない、または作動を中断することがあります。また、常に同じ性能を発揮できるものではありません。機能の作動条件をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。
- 渋滞時支援機能の認識性能・制御性能には限界があるため、システム作動中であっても運転者自身の操作で安全を確保する必要があります。また本システムの操舵アシストは、渋滞中の緩やかな操舵に限定した機能であり、本機能作動中は LDA の逸脱抑制機能は作動しません。何らかの理由で車線を逸脱しそうになった場合は運転者は自らの責任で運転操作してください。
- システムが正常に作動していたとしても、運転者が認識している周囲の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。従って注意義務・危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。システムに頼ったり安全を委ねる運転をしたりすると、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 渋滞時支援機能作動中でも運転者での操作が必要となる状況があるため、運転者自身で視界を確保する必要があります。
- 渋滞時支援機能は状況に応じてディスプレイ表示でハンドルの保持を促すことがあります。ハンドルを保持し、運転者自身の操作で安全を確保してください。
- 渋滞時支援機能は、次のものを検出しません。必要に応じて自らハンドル・アクセル・ブレーキなどの操作をし回避してください。思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  - 路上落下物
  - 車線外（路肩など）にいる車両
  - くぼみ・陥没・ひび割れなどの破損した道路
  - 工事区間
  - 隣接する並走車両や壁
  - 動物

■ 機能を使用してはいけない状況

次のような状況では渋滞時支援機能を使用しないでください。適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- システムを OFF にする必要があるとき

→ ※

- センサーが正しく作動しないおそれがあるとき

→ ※

- 車線を検知できないおそれがあるとき

→ ※

■ 機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では渋滞時支援機能が正常に作動しないおそれがあります。必要に応じて運転者自身で操作してください。

- 水しぶきがかかったとき
- 外気温が高温または低温のとき
- 自車の前方に割り込みがあったとき
- 合流してくる車線があるとき
- 見通しが悪い状況で走行しているとき
- 車両姿勢が変化しているとき
- タイヤの接地面の状態が、左右で著しく異なる場所を走行しているとき
- 中央分離帯がポール等で区切られている暫定供用区間や中央分離帯がない自動車専用道路を走行しているとき
- 自車と他車の速度差が大きいとき
- 地図情報が正常に更新されていないとき

■ レーダーの故障や誤作動を防ぐために

→ ※

※：WEB 掲載のデジタル取扱説明書をご覧ください。

■ 前方カメラの故障や誤作動を防ぐために
→ ※
■ フロントウィンドウガラスの前方カメラ取り付け部について
→ ※

後方にいる車両を検知して車線変更を支援する
| BSM（ブラインドスポットモニター）

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために
- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
- ブラインドスポットモニターは、ドアミラーの死角領域に入った車両の存在とその死角領域に急速に接近してくる車両の存在を運転者に提供する、補助的なシステムです。本システムだけで安全な車線変更の可否を判断できるものではないため、システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視とミラーによる安全確認をおこなう必要があります。

| システム構成部品

■ 後側方レーダーセンサーの取り扱いについて

本製品は各国の電波法に適合しています。製品表面の印字はその証明ですので、消さないでください。製品を改造しないでください。改造すると認証番号が無効となります。

R 202-LSF078

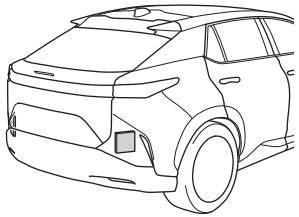
C5-001

⚠ 警告

■ システムを正しく作動させるために

ブラインドスポットモニターのセンサーは、車両リヤバンパー内側に左右ひとつずつ設置されています。システムを正しく作動させるために次のことをお守りください。

- センサー周辺のリヤバンパーは常にきれいにしておく



センサー周辺のリヤバンパーに汚れや着雪がある場合、警告表示とともにシステムが作動しなくなることがあります。その場合、汚れや雪を落としたあと、BSM 機能の作動条件（→ ※）でしばらく走行してください（目安：約 10 分）。それでも警告表示が消えない場合はレクサス販売店にて点検を受けてください。

- センサーやセンサー周辺のリヤバンパーにアクセサリーを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）やアルミテープなどを貼ったりしない
- センサー周辺のリヤバンパーを塗装しない
- センサー周辺のリヤバンパーへの強い衝撃を避ける

センサーの位置や向きが少しでもずれると、車両を正しく検知できなくなったり、装置が正常に動作しなくなるおそれがあります。次のような場合には、必ずレクサス販売店にて点検を受けてください。

・ センサーやセンサー周辺に強い衝撃を受けた
・ センサー周辺のリヤバンパーなどに傷や凹みがある、一部が外れている

- センサーを分解しない
- センサーやセンサー周辺のリヤバンパーを改造しない
- センサーやリヤバンパーの脱着や交換が必要な場合は、レクサス販売店にご相談ください。
- センサーはリヤバンパー表面の塗装の影響を受けやすく、正しい修理をしないと警告表示とともにシステムが作動しなくなることがあります。塗装修理の際はレクサス販売店にご相談ください。

※：WEB 掲載のデジタル取扱説明書をご覧ください。

後方にいる作動対象を検知して音や画面で知らせたりドアの開放をキャンセルしたりして安全な降車を支援する

安心降車アシスト

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
- 安心降車アシストは、停車中に接近してくる車両や自転車の存在を乗員に提供する補助的なシステムです。本システムだけで安全を判断できるものではないため、システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、乗員は自らの目視やミラーなどによる安全確認を行う必要があります。

安心降車アシストのシステム構成部品

⚠ 警告

■ システムを正しく作動させるために

→ ※

低速時に障害物との接近を検知して音と画面で知らせる

クリアランスソナーの ON ／ OFF を切りかえるには

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

本システムは認識性能／制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

■ システムを正しく作動させるために

必ず次のことをお守りください。正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。守れないときはシステムを OFF してください。

- センサーに傷を付けたりせずに、常にきれいにしておいてください。
- センサー付近に市販の部品（字光式ナンバープレート・フォグランプ・フェンダーポール・無線アンテナなど）を取り付けないでください。
- センサー周辺へ衝撃を与えないでください。衝撃を受けた際はレクサス販売店で点検を受けてください。前後のバンパーやグリルの脱着や交換が必要な場合はレクサス販売店にご相談ください。
- 改造・分解・塗装をしないでください。
- ライセンスプレートカバーを取り付けないでください。
- 適正なタイヤ空気圧を維持してください。
- 純正品以外のサスペンションを取り付けないでください。

■ 洗車時の注意

- 高圧洗車機を使用して洗車するときは、センサー部に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。
- スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをセンサー部に近付けすぎないようにしてください。スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。

巻き込み警報機能

⚠ 警告

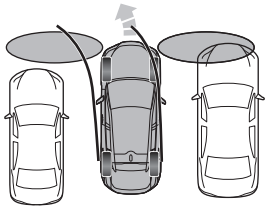
■ サイドセンサーまたはサイドカメラについて

次のとき、クリアランスソナーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。注意して運転してください。

- パワースイッチを ON にした直後の発進時、フロントサイドセンサーで検知できないような小さい車両や静止物が隣にあるとき

下図の場合、前進しても左側にある車両を検知できないため、巻き込み防止警報機能は作動しません。

※：WEB 掲載のデジタル取扱説明書をご覧ください。



- サイドセンサーまたはサイドカメラで検知できない位置に静止物がある場合や、人がいるとき
- サイドエリアのスキャン完了後に、車・人・動物などが車両の横からサイドエリアに侵入してきたとき
- ドアミラーが閉じられているとき
- 補機バッテリーを脱着したときやあがったときはドアミラーの開閉を実施してください。

低速時に後方の接近車両を検知して音と画面で知らせる
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

RCTA 機能は自車の右後方または左後方から接近してくる車両の存在を運転者に提供する補助的なシステムです。

RCTA 機能を使用していても状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視による安全確認をおこなう必要があります。

システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ システムを正しく作動させるために

→ ※

低速時に後方歩行者の接近を検知して音と画面で知らせる
RCD（リヤカメラディテクション）

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。

システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

■ システムを正しく作動させるために

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- カメラに傷を付けたりせずに、常にきれいにしておいてください。
- カメラ付近に市販の部品（字光式ナンバープレート、フォグランプなど）を取り付けないでください。
- カメラ周辺へ衝撃を与えないでください。衝撃を受けた際はレクサス販売店で点検を受けてください。
- カメラを分解・改造・塗装しないでください。
- カメラにアクセサリー・ステッカーを付けないでください。
- リヤバンパーに市販の保護パーツ（バンパートリムなど）を取り付けないでください。
- 適正なタイヤ空気圧を維持してください。
- バックドアを完全に閉めてください。

■ RCD の機能を OFF にするとき

次のときはシステムを OFF にしてください。RCD 機能が正常に作動しないことがあり思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 上記の内容が守られないとき
- 純正品以外のサスペンションを取り付けたとき

低速時に障害物との接近を検知してブレーキをかける
駐車支援機能

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

システムを過信しないでください。システムを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。道路状況、車両状態および天候など、状況によっては作動しない場合があります。センサー、レー

※：WEB 掲載のデジタル取扱説明書をご覧ください。

ダーでの検知には限界があります。必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。PKSB（パーキングサポートブレーキ）は作動対象への衝突を緩和し、衝突被害低減に寄与できる場合がありますが、状況によっては作動しない場合もあります。
- PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、完全に車両を停止させるシステムではありません。また、車両を停止させることができたとしても、ブレーキ制御は約2秒で解除されるため、すぐにブレーキペダルを踏んでください。
- 故意に車や壁に向かって走行するなど、システムの作動を確認する行為は大変危険です。絶対におやめください。

■ パーキングサポートブレーキを OFF にするとき

次のときは、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF にしてください。衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

- 点検などで、シャシーローラー・シャシーダイナモ・フリーローラーなどを使用するとき
- 船舶・トラックなどへ積載する際の進入時
- ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けた場合
- 積載状況などにより車高が著しく変化したとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）
- センサー付近にけん引フック・輸送用フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノープラウ）などを取り付けたとき
- 自走式洗車機を利用するとき
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- タイヤの空気圧が適正でないとき
- 著しく摩耗したタイヤを装着しているとき
- タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
- けん引しているとき

■ サスペンションの取り扱いについて

車高や車の傾きが変化すると、センサーが作動対象物を正しく検知できなくなり、システムが正しく作動しなくなるおそれがあり危険です。サスペンションの改造はしないでください。

パーキングサポートブレーキ（前後方静止物／周囲静止物）

⚠ 警告

■ システムを正しく作動させるために

→ ※

■ 万一、踏切などで PKSB（パーキングサポートブレーキ）が誤って作動したときは

→ ※

■ 洗車時の注意

→ ※

■ システムを正しく作動させるために

→ ※

■ 万一、踏切などで PKSB（パーキングサポートブレーキ）が誤って作動したときは

→ ※

■ 洗車時の注意

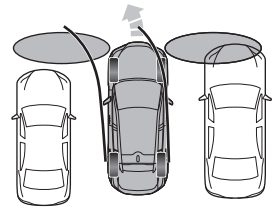
→ ※

■ サイドセンサーまたはサイドカメラについて

次のとき、パーキングサポートブレーキ（周囲静止物）が正常に作動しないことがあ

り、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。注意して運転してください。

- パワースイッチを ON にした直後の発進時、フロントサイドセンサーで検知できないような小さい車両や静止物が隣にあるとき。下図の場合、前進しても左側にある車両を検知できないため、パーキングサポートブレーキ（周囲静止物）は作動しません。



- サイドセンサーまたはサイドカメラで検知できない位置に静止

※：WEB 掲載のデジタル取扱説明書をご覧ください。

物がある場合や、人がいるとき
- サイドエリアのスキャン完了後に、車・人・動物などが車両の横からサイドエリアに侵入してきたとき
- ドアミラーが閉じられているとき
- 補機バッテリーを脱着したときやあがったときはドアミラーの格納・復帰を実施してください。

| パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）

⚠ 警告

■ システムを正しく作動させるために

→ ※

| パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）

⚠ 警告

■ 万一、パーキングサポートブレーキ (後方歩行者) が誤って作動したときは

パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）作動後はすぐにブレーキを踏んでください。（ブレーキを踏むとシステムは解除されます。）

■ パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）を正しくお使いいただくために

→ ※

Advanced Park メインスイッチを押して駐車操作を支援する

| 機能一覧

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

本システムは認識性能／制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。
- 一般の車と同様、必ず車両周辺の安全を直接確認しながら慎重に前進または後退してください。
- システムを使用するときは、必ず車両周辺の安全を直接確認してください。必要であれば、減速、停車のためにブレーキを踏んでください。

リモート機能を使用している場合は、リモート機能用のスマートフォン専用アプリ（以降、専用アプリ）の操作をやめて車両を停車させてください。
- 駐車するときは、必ず目標駐車位置に車を駐車できるかを確認してから操作を行ってください。
- 駐車時の路面や自車の状況、駐車スペースまでの距離などにより、駐車スペースを認識できなかったり、最後までアシストできないことがあります。
- 本システムは適切な経路で切り返し位置の案内を出しますが、隣接車両への接近など、運転者が不安に感じた場合は、任意のタイミングでブレーキを踏んでからシフトポジションを切りかえてください。ただし、切り返し回数が多くなったり、駐車精度が悪化することがあります。
- 次のようなもの／場合は検知できないことがあるため、周辺の安全を直接確認し、接触のおそれがある場合はブレーキを踏んで停車してください。

リモート機能を使用している場合は、専用アプリの操作をやめて車両を停車させてください。
- 細いもの（針金／フェンス／ロープ／ポールなど）や接近する角度によって細く見えるもの（看板／自転車など）
- 音波を吸収しやすいもの（綿／雪など）
- 鋭角的な形のもの（ブロック塀や柱、壁の角など）
- 背の低いもの（縁石やブロック、階段、車止めなど）
- 背が高く上部が張り出しているもの（梁など）
- 地面に対し垂直でないもの
- 障害物に対して斜めに接近するとき
- 駐車スペース内に障害物が存在しても、検出できずにアシストすることがあります。
- 周辺の車両や障害物、人などに接触しそうなときは、ブレーキペダルを踏んで停車し、Advanced Park メインスイッチを押してシステムを中止してください。

リモート機能を使用している場合は、専用アプリの操作をやめて車両を停車させてください。
- センターディスプレイだけを見ながら走行することは絶対にしないでください。画面に映っている映像と実際の状況は異なることがあり、画面だけを見て走行すると車をぶつけたり、思わ

※：WEB 掲載のデジタル取扱説明書をご覧ください。

ぬ事故を引き起こすおそれがあります。走行するときは、必ず目視やミラーなどで周囲の安全を直接確認してください。
● 外気温が低い場合、画面が暗くなったり、映像が薄れることがあります。とくに動いているものの映像が歪む、または画面から見えなくなることがあるため、必ず周辺の安全を直接目で確認しながら運転してください。
● 次のとき、Advanced Park による停車保持が解除され、車両が動き出すおそれがあります。思わぬ事故につながるおそれがあるため、ただちにブレーキペダルを踏んでください。
リモート機能を使用している場合は、専用アプリの操作をやめて車両を停車させてください。
・ 作動中に運転席のドアが開けられたとき
・ 作動中に一定時間システムの指示に従わなかったとき
・ 作動中に一定時間ブレーキペダルを踏んで停車しているとき
・ 作動中に故障が発生したとき
● 使用中はハンドルが回転するため、次の点に注意してください。
・ ネクタイ／スカーフ／腕などを巻き込むおそれがあります。上体をハンドルに近づけないでください。また、お子さまがハンドルに近づかないよう注意してください。
・ 爪が長いとハンドルが回転する際にけがをするおそれがあります。
・ 万一のときは、ブレーキペダルを踏んで停車し、Advanced Park メインスイッチを押してシステムを中止してください。
リモート機能を使用している場合は、専用アプリの操作をやめて車両を停車させてください。
● 使用中は窓から手を出さないでください。

■ Advanced Park を正しく作動させるために

必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
● 次のような状況では使用しないでください。
・ 駐車場以外の場所
・ 砂地／砂利地のような駐車スペースのない整備されていない駐車場
・ 傾斜／段差／穴／側溝のある平坦でない駐車場
・ 機械式駐車場
・ 車両下部に接触して固定する装置がある駐車場
・ 凍結したり、すべりやすい路面、または雪道
・ 真夏の炎天下でアスファルトがとけているようなとき
・ 車両周辺に障害物があるとき
・ 目標駐車位置（青色の枠の中）や自車と目標駐車位置とのあいだに障害物があるとき
・ 人や車両などの通行量が多いとき
・ 駐車スペースの確保が困難な場所（車両が入らないほど狭いなど）
・ カメラのレンズの汚れ／西日／影／雪などで画面が見にくいとき
・ タイヤチェーン／応急用タイヤを使用しているとき
・ ドアまたはバックドアが完全に閉まっていないとき
・ 窓から手を出しているとき
・ 降雪や豪雨のとき
● メーカー出荷時装着タイヤ以外のタイヤは使用しないでください。Advanced Park が正常に作動しないおそれがあります。また、タイヤを交換すると、画面に表示される線や枠の表示位置に誤差が生じることがあります。タイヤを交換するときはレクサス販売店にご相談ください。
● 次のような状況では、設定した位置にアシストできなかったり、システムが正常に作動しない場合があります。
・ タイヤが極端に摩耗していたり、空気圧が低いとき
・ 極端に重いものを積んでいるとき
・ 車両の片側にだけ荷物などを積んで車両が傾いているとき
・ 駐車場にロードヒーター（路面凍結防止用のヒーター）が設置されているとき
・ タイヤを縁石などに強く当てて、ホイールアライメントが正常でないとき
・ アシスト中に歩行者や通行車両を検知したとき
・ けん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノープラウ）などを取り付けたとき
・ 区画線と認識してしまうようなもの（光／建物の映り込み／段差／側溝／路面ペイント／引き直し線など）があるとき
上記以外で設定位置と車両の位置が大きくずれる場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■ リモート機能を使用するとき

● リモート機能は Advanced Park の関連機能です。リモート機能

を公道で使用する場合は、その地域の道路交通法及び規則に従ってください。
- 専用アプリの注意事項に同意いただいた方のみリモート機能がご利用いただけます。
- リモート機能は運転操作の一部です。必ず運転免許証を保有している運転者が操作してください。専用アプリ使用時は電子キーを必ず携帯してください。操作中は専用アプリ画面を注視せず、車両周辺を直接ご確認ください。緊急時には操作を中断し、車両を停止させてください。
- 一般の車と同様、必ず車両周辺の安全を直接確認しながら慎重に前進または後退してください。
- システムを使用するときは、必ず車両周辺の安全を直接確認してください。
- ボンネットが閉じていることをご確認の上、ご使用ください。
- リモート機能は、駐車や出庫の操作をスマートフォンによる遠隔操作でアシストするシステムです。リモート機能を使用するときは、運転者が電子キーとスマートフォンを保持した上で、車両周辺の安全確認を行ってください。
- リモート機能使用中はスマートフォンの操作をやめることで車両を停止することができます。また、専用アプリで停止操作を行うことや電子キーを使った解錠やドアを開けることでも車両を停止することができます。
- 障害物などに接触しそうなときは、スマートフォンの連続操作をやめて、必要に応じてリモート機能を中止してください。
- スマートフォンの操作方法によらずシステムで一定の速度となるように制御されます。
- スマートフォンの画面を注視して、車両を走行させることは絶対にしないでください。
- 走行時は必ず目視で周辺の安全を直接確認してください。
- 車内に人やペットが残っている状態でリモート機能を使用しないでください。
- 万一の時は電子キーのスイッチを操作するか、ドアを開けて車両を停止させてください。
- リモート機能を使用する際は、スマートフォンと最新の専用アプリが必要です。アプリストアから、専用アプリをダウンロードしてください。
- 専用アプリへの車両登録時は車両と接続している他のアプリを OFF にしてください。
- リモート機能を使用する場合は、Apple CarPlay/Android Auto ™の接続を OFF にしてください。

・ Apple CarPlay は、米国および他の国々で登録された Apple Inc. の商標です。
・ Android Auto ™は、Google LLC の商標です。

- 駐車するときは、必ず目標駐車位置に車を駐車できるかを確認してから操作を行ってください。
- リモート機能作動中は平坦で滑りにくい路面でのみ使用してください。駐車スペースが下り坂または上り坂にあるような場合では使わないでください。
- リモート機能使用中に故障またはシステムの限界が検知された場合は、以下の処理が自動的に行われます。

・ アシストを中止する
・ 車両を停止する
・ シフトポジションを P にし、パーキングブレーキをかける
・ パワースイッチを OFF にする（一部の故障ではパワースイッチを OFF にしない、またはできないことがあります。スマートフォン上のメッセージに従って乗車し、処置を実施してください。）
・ 車両が施錠されたままになる

- リモート機能開始時は電子キーのワイヤレス機能で解錠操作をしてください。
- リモート機能使用中は、運転者は車両から約 3m 以上離れて立たないでください。それ以上離れると、リモート機能が中断され、メッセージがスマートフォン上に表示されます。車両に近づくとリモート機能を再開できます。
- 周囲が暗い場合はヘッドライトを自動で点灯します。
- 異常終了時は非常点滅灯（ハザードランプ）が点滅します。非常点滅灯の消灯条件は以下項目です。

・ ドアを開く
・ 非常点滅灯（ハザードランプ）の点滅開始から 3 分が経過

- 以下の車両状態からのみリモート機能を開始できます。

・ EV システム始動中に、アシストモードを選択後
・ パワースイッチが OFF の時

⚠ 注意

■ Advanced Park をお使いいただくために
補機バッテリーを脱着したときやあがったときはドアミラーの開閉を実施してください。

■ リモート機能を使用するとき
- 使用前にスマートフォンの電池残量をご確認ください。リモート機能作動中にスマートフォンの電池が切れてしまうとアシストを中断します。また、開始時にスマートフォンの電池残量が20%以上ない場合、リモート機能をご利用いただけません。
- 使用前にスマートフォンの Bluetooth® を ON にしてください。Bluetooth® 接続機能 OFF の状態ではリモート機能をご利用いただけません。
- 使用中にスマートフォンの Bluetooth® を OFF にしたり、マルチメディアシステムとの接続を OFF にしないでください。車両と Bluetooth® 接続できていない状態ではリモート機能を使用できません。
- リモート機能使用中に電話がかかってきた場合など、他のアプリが起動した場合はリモート機能は中断します。3 分未満で専用アプリの利用を再開すればアシストを再開できます。3 分以上経過した場合はアシストを中止します。
- リモート機能使用中にスマートフォンのホームボタンや電源ボタンを押して、画面ロック状態になった場合はリモート機能を中断します。3 分未満で専用アプリの利用を再開すればアシストを再開できます。3 分以上経過した場合はアシストを中止します。
- リモート機能使用中に専用アプリを強制終了しないでください。強制終了した場合はアシストを中止します。
- 低温環境下では、補機バッテリー充電のため、システム開始までに時間がかかる場合があります。
- 補機バッテリーの電圧が低下した場合、アシストを中止します。
- 下り勾配では、平坦な道路に比べ、走行車速が遅くなり、障害物までの接近距離が遠くなります。
- システム異常時には、シフトポジションが P またはパーキングブレーキで車両を停車後、パワースイッチを OFF してシステムを中止することがあります。その場合は、レクサス販売店で点検を実施してください。
- システム不調時には、一時的にアシストを中断する場合があります。システムが復帰すれば再開できますので、スマートフォン画面の内容に従い再開操作をしてください。
- リモートスタートが作動している場合はリモート機能が正常に作動しない場合があります。
- リモート機能終了時は法規によりパーキングブレーキをロックします。凍結によりパーキングブレーキを解除できない場合がありますので、寒冷地でのご使用はお控えください。また、凍結した場合、パーキングブレーキ解除時に音がする場合がありますが性能に問題はありません。
- 電池切れの電子キーではリモート機能を使用しないでください。

Advanced Park で使用するカメラとセンサーの種類

⚠ 警告

■ カメラとセンサーの取り扱いについて
- カメラのレンズの特性により、画面に映る人や障害物は、実際の位置や距離と異なります。詳しくは、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。
- センサーが正常に作動しなくなり、思わぬ事故につながるおそれがありますので、クリアランスソナー使用時の注意を参照してください。(→ ※)
- 次のとき、センサーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。注意して運転してください。

・ 目標駐車位置の隣に駐車車両があるにもかかわらず、駐車枠が目標駐車位置から大きくずれた位置に表示されるときは、センサーの角度がずれているおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。
・ センサーが検知する範囲には、アクセサリー用品などを取り付けないでください。

Advanced Park の並列前向き／バック駐車機能を使う

⚠ 注意

■ 並列前向き／バック駐車機能を使用するときは
- 黄色のガイド線の中や自車と目標駐車位置とのあいだに障害物がないことを必ず確認してください。黄色のガイド線の中や自車と目標駐車位置のあいだに障害物がある場合は中止してください。
- 路面に段差や勾配があると正しい位置に目標駐車位置を設定で

※：WEB 掲載のデジタル取扱説明書をご覧ください。

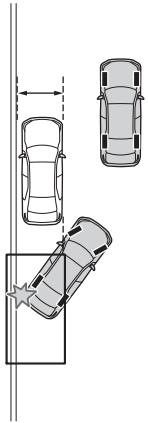
きないため、駐車位置がずれたり、車両が傾くことがあります。このような場所では使用しないでください。
- 狭いスペースに駐車するときは隣接車両に接近します。接触しそうなときは、ブレーキペダルを踏んで停車してください。
- 駐車車両の車幅が狭いときや駐車車両が路肩側に極端に近いときは、駐車をアシストする位置も路肩に接近します。接触、脱輪しそうなときはブレーキペダルを踏んで停車し、Advanced Park メインスイッチを押してシステムを解除してください。

Advanced Park の縦列駐車機能を使う

⚠ 注意

■ 縦列駐車機能を使用するときは

- 黄色のガイド線の中や自車と目標駐車位置とのあいだに障害物がないことを必ず確認してください。黄色のガイド線の中や自車と目標駐車位置のあいだに障害物がある場合は、縦列駐車機能は中断／中止されます。
- 路面に段差や勾配があると正しい位置に目標駐車位置を設定できないため、駐車位置がずれたり、車両が傾くことがあります。このような場所では、縦列駐車機能は使用しないでください。
- 隣接車両の車幅が狭いときや駐車車両が路肩側に極端に近いときは、駐車をアシストする位置も路肩に接近します。接触、脱輪しそうなときはブレーキペダルを踏んで停車し、メインスイッチを押してシステムを解除してください。



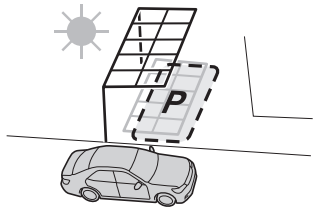
- 駐車スペースの奥側に壁などがある場合は、通路に少しはみ出した位置に目標駐車位置が設定されることがあります。

Advanced Park のメモリ機能を使う

⚠ 注意

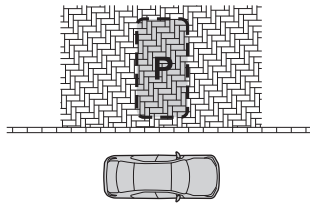
■ メモリ機能を使用するときは（→ ※）

- メモリ機能は、事前に登録した駐車スペースへアシストするシステムです。路面や自車の状況、周囲の環境が登録時と異なる場合、正しく駐車位置を認識できなかったり、最後までアシストできなかったりする場合があります。
- 次のような状況では、駐車スペースの登録を実施しないでください。設定した位置に登録できない、または次回以降のアシストができなくなる場合があります。
  - カメラのレンズが汚れたり、水滴が付着しているとき
  - 雨雪が降っているとき
  - 夜間（周囲が暗いとき）
- 次のような環境では、駐車スペースの登録を実施できない場合があります。
  - 道幅と駐車位置に十分なスペースがない駐車場
  - 駐車スペース周辺にシステムが認識できる路面模様がない駐車場
- 次のような環境で駐車スペースの登録をした場合、次回以降のアシストが開始できない、または設定した位置にアシストできない場合があります。
  - 駐車スペースに影が出ているとき（カーポートがある駐車場など）
  - 駐車スペースに落ち葉・ゴミ（次回以降なくなる、または移動する可能性があるもの）が落ちているとき



※：WEB 掲載のデジタル取扱説明書をご覧ください。

・駐車スペース周辺の路面が同一の模様で構成されているとき（レンガなど）



● 次のような状況では、設定した位置にアシストできない場合があります。
・自車の影や木陰などの影響を受けてしまったとき
・設定した駐車スペースに障害物があるとき
・システム作動中に歩行者や通行車両を検知したとき
・アシスト開始時の車両停車位置が登録したときと異なるとき
・輪止めなどにより、設定した駐車スペースに到達できないとき
・駐車スペース周辺の路面模様が変化したとき（路面の経年劣化、リフォームなど）
・日照条件が登録したときと異なるとき（天気／時間帯）
・朝日や夕日など、太陽の光がカメラに入るとき
・路面の色や明るさが一様でないとき
・駐車スペースに一時的な光（他車のライトや防犯用ライトなど）が差し込んでいるとき
・駐車スペース周辺の路面が同一の模様で構成されているとき
・駐車スペース周辺の路面に低い突起物のようなものがあるとき
・勾配がある駐車場
・カメラにお湯や水をかけたときなど、レンズが曇っているとき
・カメラのレンズが汚れたり、水滴が付着しているとき
・カメラの視界をさまたげるようなアクセサリーを取り付けたとき

登録中に制御終了した場合は、再度登録し直してください。
● メモリ機能を登録するとき、路面から模様を検出できない場所では、“登録に必要な 駐車目標が 見つかりません” と表示されることがあります。
● メモリ機能を使用するときは、停めたい駐車スペースの真横に停車してください。正しく駐車位置を認識できなかったり、最後までアシストできなかったりする場合があります。
● カメラ部をぶつけたときや、パノラミックビューモニター映像のつながりが著しくずれている場合、メモリ機能を使用しないでください。
● カメラ故障時／交換時は、カメラの取り付け角度が変わるため、メモリ機能の登録をやり直す必要があります。

Advanced Park のリモート機能を使う

⚠ 注意

■ リモート機能について
● 電子キーをポケットなどに携帯した状態で、リモート機能を使用してください。
● 電子キーとスマートフォンなどを重ねて持つと、電子キーが検知できない場合があります。
● デジタルキー装着車：デジタルキーのみの携帯では リモート機能は使用できません。必ず運転者が電子キーを携帯してください。
● 車に乗り込んで リモート機能を終了する際は、キーが車内にあり全てのドアが閉まっていることを確認してください。

車に乗り込んでリモート機能を終了した後は、シートベルトを着用するかブレーキを踏むとシートリターン制御が実施されます。
● リモート機能終了または中止によりパワースイッチを OFF した場合、自動でドアが施錠しますが、ドアが開いている場合など施錠できないことがあります。リモート機能終了後は車両の状態を確認してください。
● リモート機能終了または中止により自動でドアが施錠した際、車内に人がいた場合は警報が鳴る場合があります。

■ 機能が正常に働かないおそれのある状況
● スマートエントリー & スタートシステムの機能が正常に働かないおそれのあるとき：→ ※
● 近くにインバータ式蛍光灯があるとき

■ 電波が及ぼす影響について：
→ ※

■ 電子キーの電池の消耗について
● リモート機能使用中は、電子キーと電波の送受信をおこなうため、電池を消耗します。

※：WEB 掲載のデジタル取扱説明書をご覧ください。

● 電池が切れたとき：→ ※

■ センサーが正常に作動しないおそれのある状況

→ ※

● リモート機能使用中は車両周辺の視界が制限されることがあります。リモート機能使用時は以下の確認を行ってください。

・ 車両と車両の周囲が最もよく見えること
・ 車両の進路に人／動物、または物体がないこと
・ 車両との適切な距離を維持し、運転者も他の道路使用者も危険にさらされるおそれがないこと
・ 車両の周囲には常に注意をして、危険の可能性がないこと
・ 必要に応じて、リモート機能を中止すること

| Advanced Park の設定を変更する

⚠ 注意

● “駐車位置調整（前向き）”、“駐車位置調整（バック）”による調整により、車止めや縁石など低いものへ接触するおそれがあるため、注意して使用してください。
● 周辺の車両や障害物／車止め／縁石などに接触しそうなときは、ブレーキペダルを踏んで停車し、Advanced Park メインスイッチを押してシステムを中止してください。

後方にいる車両の接近を知らせる

| 後方車両接近告知

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。後方車両接近告知は自車の後方から接近してくる車両の存在を運転者に提供する補助的なシステムです。後方車両接近告知を使用していても状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視による安全確認をおこなう必要があります。システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ システムを正しく作動させるために

→ ※

至近距離の後方車両を検知して対処法を提案する

| 周辺車両接近時サポート（録画機能、通報提案機能）

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。周辺車両接近時サポートは後方車両が至近距離まで接近したときの対処方法を運転者に提案する補助的なシステムです。周辺車両接近時サポートを使用していても状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視による安全確認をおこなう必要があります。システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ システムを正しく作動させるために

→ ※

接近している後方車両へ注意をうながす

| 後方車両への接近警報

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。後方車両への接近警報は自車の後方から接近してくる車両に追突される可能性が高いと判断したときに、非常点滅灯を高速点滅させて後方車両に注意をうながす補助的なシステムです。後方車両への接近警報を使用していても状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視による安全確認をおこなう必要があります。システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ システムを正しく作動させるために

→ ※

停車中に追突の可能性が非常に高い場合にブレーキをかける

| セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）

⚠ 警告

※：WEB 掲載のデジタル取扱説明書をご覧ください。

■ 安全にお使いいただくために
安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）は停車中に同じ車線を走行する後方車両からの追突の可能性が非常に高いと判断したときに、自動的にブレーキを制御する補助的なシステムです。セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）を使用していても状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視による安全確認をおこなう必要があります。システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
■ システムを正しく作動させるために
→ ※

プラスサポートを使用する（販売店装着オプション）

プラスサポートを使用するには

⚠ 警告

■ プラスサポートを正しく使用するために
- 必ずサポキーを携帯していることを確認してください。標準装備の電子キーを携帯しているときは、プラスサポートが始動しません。
- サポキーと標準装備の電子キーを同時に携帯しないでください。プラスサポートが始動しない場合があります。
- EV システムの始動後は、プラスサポート表示灯が点灯していることを必ず確認してください（→ ※）。プラスサポート表示灯が点灯していないときは、プラスサポートが作動しません。また、プラスサポートが不要なときは、プラスサポート表示灯が消灯していることを必ず確認してください。

急アクセル時加速抑制

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために
システムを過信しないでください。システムを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。
- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。急アクセル時加速抑制は、状況によっては作動しない場合もあります。
- 急アクセル時加速抑制は衝突を防止するシステムではありません。車両を自動で停止させる機能はないため、加速抑制後も車両は惰性で動きます。周囲の交通状況を確認の上、必ずご自身でブレーキペダルを踏んでください。
- 急アクセル時加速抑制は意図せぬ急加速の防止を補助する機能ですが、走行状況によっては、加速が必要なときにも EV システムの出力が抑制される場合があります。安全、かつ環境に優しい運転をするためにも、日頃からアクセルペダルはゆっくり操作するように心がけてください。
- お客様ご自身で急アクセル時加速抑制の作動テストを行わないでください。状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ 急アクセル時加速抑制が作動したとき
急アクセル時加速抑制が作動すると、EV システムの出力を抑制します。すみやかにアクセルペダルから足を離して、ブレーキペダルを踏んでください。アクセルペダルを踏み込んだままでいると、しばらくしたあとに車両が加速し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
■ 右左折・車線変更するとき
必ず方向指示灯を点滅させてください。方向指示灯が点滅していないと、急アクセル時加速抑制により EV システムの出力が抑制され、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたとき、EV システム出力を抑制する

ブレーキオーバーライドシステムの役割

⚠ 警告

踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を十分把握した上で運転してください。
アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進するおそれがあります。

⚠ 注意

運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、EV シ

※：WEB 掲載のデジタル取扱説明書をご覧ください。

ステム出力を抑制する場合があります。

事故の衝撃から乗員を守る

シートベルトプリテンショナー（フロント席・リヤ外側席）

⚠ 警告

■ プリテンショナー付きシートベルトについて

シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合はシートベルトを再使用することができないため、必ずレクサス販売店で交換してください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

SRS エアバッグの役割

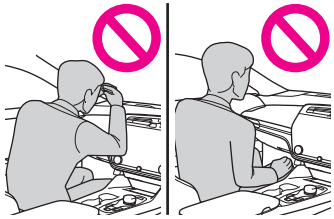
⚠ 警告

■ SRS エアバッグについて

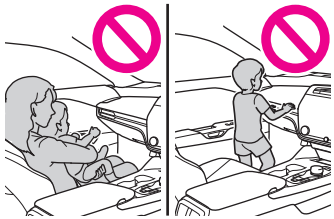
次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。
- 助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、特に乗員がエアバッグに近付きすぎると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。
- お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRS エアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。お子さまはリヤ席に乗せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。(→ ※)

- シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない



- お子さまを助手席 SRS エアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない
- 運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない

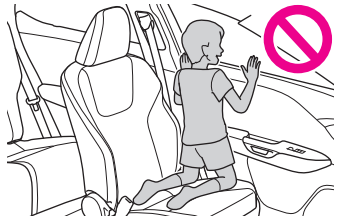


- ドアやフロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールへ寄りかからない

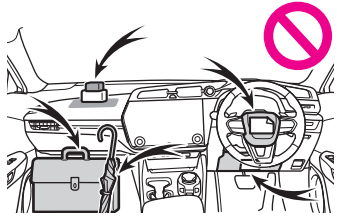


※：WEB 掲載のデジタル取扱説明書をご覧ください。

- ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない



- ダッシュボード・ハンドルのパッド部分・インストルメントパネル下部などには何も取り付けたり、置いたりしない



- ドア・フロントウインドウガラス・ドアガラス・フロントピラーおよびリヤピラー、ルーフサイドレール・アシストグリップなどには何も取り付けない（速度制限ラベルを除く：→ ※）



- コートフックにハンガーなどの硬いものをかけないでください。SRS カーテンシールドエアバッグが作動したときに投げ出されて重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- SRS ニーエアバッグがふくらむ場所にビニールカバーが付いている場合は、取り除いてください。
- エアバッグがふくらむ場所を覆うようなアクセサリーを使用しないでください。エアバッグが作動する際、アクセサリーが干渉するおそれがあります。そのようなアクセサリーがエアバッグが正常に作動するのをさまたげ、システムを不能にしたり、またはエアバッグが誤って作動したりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- SRS エアバッグシステム構成部品の周辺およびフロントドアの周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。
- SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。
- SRS エアバッグが収納されている部分に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずレクサス販売店で交換してください。

■ 改造・廃棄について

レクサス販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。

SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理
- 次の部品周辺の修理・取りはずし・改造

・ ハンドル
・ インストルメントパネル
・ ダッシュボード
・ シート
・ シート表皮
・ フロントピラー
・ センターピラー
・ リヤピラー
・ ルーフサイドレール
・ フロントドアパネル
・ フロントドアトリム
・ フロントドアスピーカー

- フロントドアパネルの穴あけなどの改造

※：WEB 掲載のデジタル取扱説明書をご覧ください。

● 次の部品やその周辺の修理・改造
・ フロントフェンダー
・ フロントバンパー
・ 車内側面部
● 次の部品、または装置の取り付け
・ グリルガード
・ 除雪装置
・ ウインチ
● サスペンションの改造
● CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

衝突時の急加速抑制

⚠ 警告

■ 衝突時の急加速抑制

● 衝突時の急加速抑制を過信しないでください。本システムは、二次衝突による被害軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。システムを過信すると重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
● 本システムは急加速を抑制するものであり、ブレーキを作動させるものではありません。必要に応じてブレーキペダルを操作してください。

通信で安心、快適、便利を支援するしくみ

ITS Connect の概要

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

● 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。ITS Connect はあらゆる状況で安全運転の支援をするものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
● ITS Connect は安全運転の支援を目的として設計していますが、その効果はさまざまな条件によりかわり、常に同じ性能を発揮できるものではありません。システムを過信せず安全運転に努めてください。

■ ITS Connect について

● 次のような状況では、ITS Connect は作動しません。
・ 交差点に DSSS *用路側装置が設置されていないとき
・ 先行車や接近してくる車両に通信機が搭載されていないとき

*:DSSS（Driving Safety Support Systems）とは、運転者の認知／判断の遅れや誤りによる交通事故を未然に防止することを目的とするシステムで、警察庁が推進しているプロジェクトです。

● 交差点に進入する方向によっては、作動する通知／案内／注意喚起が異なる場合があります。

■ 右折時注意喚起（DSSS 用路側装置との通信）について

DSSS 用路側装置が設置された交差点であっても、DSSS 用路側装置の種類や交差点に進入する方向によっては、対向車のみを検知し、歩行者に対する注意喚起をしない場合があります。
そのため、注意喚起の表示内容が実際の交通状況と異なる場合があります。「割り込み表示による通知／案内／注意喚起」をお読みいただき、必ず自らの目視による安全確認を行ってください。

■ 右折時注意喚起（通信機を搭載した車両との通信）／出会い頭注意喚起について

通信機を搭載した車両が接近してきても、地図データと実際の道路状況が異なるときは、交差点付近であることが判断できず、注意喚起をしなかったり、注意喚起の表示内容が実際の交通状況と異なる場合があります。

⚠ 注意

■ ITS Connect 機器取り扱いの注意

● ITS Connect 機器は電波法の基準に適合しています。ITS Connect 機器に貼り付けられているラベルはその証明ですのではがさないでください。
● ITS Connect 機器を分解・改造すると、法律により罰せられることがあります。

車のお手入れ

洗車

⚠ 警告

モータールーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■ 塗装の劣化や車体／部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために

- ● 次のような場合は、ただちに洗車してください。
- ・ 海岸地帯を走行したあと
- ・ 凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
- ・ コールタール／花粉／樹液が付着したとき
- ・ 鳥のふん／虫の死がいが付着したとき
- ・ ばい煙／油煙／粉じん／鉄粉／化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
- ・ ほこり／泥などで激しくよごれたとき
- ・ 塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき
- ● 塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。
- ● ホイール保管時は、腐食を防ぐためによごれを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ ワイパーアームの損傷を防ぐために

ワイパーアームを立てるときは、必ず運転席側を先に立ててから助手席側を立ててください。また、もとにもどすときは、必ず助手席側から先にもどしてください。

自動洗車機の使用（カーボン部品非装着車）

⚠ 注意

自動洗車機を使用するときは、ワイパースイッチを OFF にしてください。
AUTO モードになっていると、不意にワイパーが作動してワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。

高圧洗浄機を使った洗車

⚠ 注意

- ● 洗車時に高圧洗浄機でカメラやカメラ周辺に直接水を当てないでください。高い水圧により衝撃が加わり、装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。
- ● ノズルの先端を、下記部品の結合部やブーツ類（ゴムまたは樹脂製のカバー）、コネクタ類に近付けすぎないでください。

高い水圧がかかることにより、部品が損傷するおそれがあります。

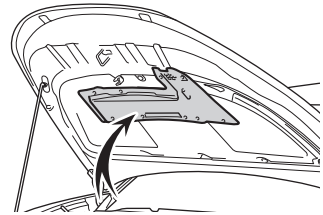
- ・ 駆動系部品
- ・ ステアリング部品
- ・ サスペンション部品
- ・ ブレーキ部品

- ● 洗浄ノズルと車体との距離を 30cm 以上離してください。モール、バンパーなど樹脂部分は変形、損傷するおそれがあります。また、同じ場所へ連続して水をあてないでください。
- ● フロントウインドウガラス下部へ連続して水をあてないでください。エアコンの空気取り入れ口があり、エアコンが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- ● 高圧洗浄機で車両の下まわりを洗浄しないでください。駆動用電池の中に水が侵入し、EV システムの不調や故障の原因になります。
- ● 充電リッド付近に使用しないでください。充電インレットに水が入り、車両故障につながるおそれがあります。

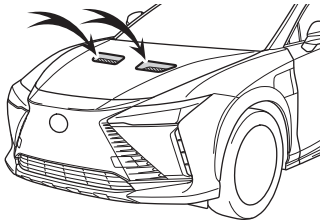
ボンネットエアアウトレットについて（カーボン部品装着車）

⚠ 注意

- ● ボンネットのエアアウトレットには、水やごみ（枯葉など）から EV システムを保護するためにカバーが装着されています。モータールーム内の熱気を逃がし外からの雨水などを適切な位置に排出する役割があるため、絶対にはずさないでください。



● 洗車時にボンネットのエアアウトレットにバケツなどで一度に大量の水をかけたり、高圧洗浄機で直接水を当てたりしないでください。
モータールーム内に水がかかり、EV システムなどに悪影響をおよぼすおそれがあります。



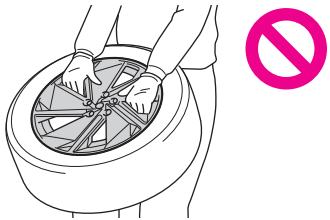
ホイール／ホイールキャップを清掃する（マット塗装ホイール非装着車）

⚠ 注意

■ 樹脂加飾部品★の取り扱いについて

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

● ホイールに装着されている樹脂加飾部品の取り扱いについては、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、樹脂加飾部品またはホイールが損傷するおそれがあります。



・ 樹脂加飾部品を取りはずさない
樹脂加飾部品の取りはずしが必要な場合は、レクサス販売店にご相談ください。
・ 樹脂加飾部品を持ってホイールを持ち上げたり、持ち運んだりしない

● 樹脂加飾部品にガタつきがあったり、走行中にホイール周辺から異音が聞こえたりするときは、レクサス販売店でホイールの点検を受けてください。

バンパーの清掃

⚠ 警告

リヤバンパーまたはフロントバンパーの塗装に傷がつくと、次のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。レクサス販売店にご相談ください。

- Lexus Safety System +
- BSM（ブラインドスポットモニター）
- 周辺車両接近時サポート（録画機能、通報提案機能）
- 後方車両への接近通報
- 後方車両接近告知
- 安心降車アシスト（ドアオープン制御付）
- クリアランスソナー
- RCTA（リヤクロストラフィックアラート）
- PKSB（パーキングサポートブレーキ）

ランプの清掃

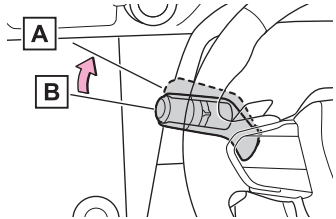
⚠ 注意

● 注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。
ランプを損傷させるおそれがあります。
● ランプにワックスがけを行わないでください。
レンズを損傷するおそれがあります。

フロントウインドウガラスの清掃

⚠ 警告

ワイパースイッチを OFF にしてください。
AUTO モードになっていると、次のようなときにワイパーが不意に作動し、指などを挟み重大な傷害を受けたり、ワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。
A OFF
B AUTO



● 雨滴センサー上部のフロントウインドウガラスに手でふれたと

き
- 水分を含んだ布などを雨滴センサーに近付けたとき
- フロントウインドウガラスに衝撃を与えたとき
- 車内から雨滴センサー本体にふれるなどして衝撃を与えたとき

アルミ部品の清掃

⚠ 注意

ボンネットを清掃するときは、強く押したり、体重をかけたりしないでください。アルミ部分がへこむおそれがあります。

マットクリア塗装の洗車のしかた（マットクリア塗装設定車）

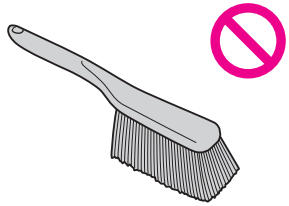
洗車のしかた

⚠ 注意

■ 塗装面の傷付きやマットな質感の低下を防ぐために

次の注意をお守りください。
お守りいただかないと、塗装面に傷が付いたり艶が出てマットな質感を損なったりするおそれがあります。

- 洗車ブラシを使用しない



- 塗装面を強くこすらない
- 電動ポリッシャーを使用しない
- コンパウンド（研磨剤）を使用しない
- アルカリ性（弱アルカリ性を含む）洗剤を使用しない
- 塗装面にステッカーやラッピングフィルムなどを貼り付けない
- マグネット式の標識などを塗装面に貼り付ける前に、貼り付け箇所の砂やほこりを十分に洗い流し、完全に水滴をふき取る

室内を清掃する

⚠ 警告

■ 車両への水の浸入

- 車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- SRS エアバッグの構成部品や配線をぬらさないでください。

電気の不具合により、エアバッグが展開したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- おくだけ充電®（ワイヤレス充電器）（→ ※）をぬらさないでください。発熱によるやけど、または感電により重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ やけどを防ぐために

車を直射日光のあたる場所に長時間駐車するとパノラマルーフガラス★の下側が熱くなるため、やけどをするおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 注意

■ 清掃するとき使用する溶剤

- 変色／しみ／塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。

・ シート以外の部分：ベンジン／ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤／染色剤／漂白剤
・ シート部分：シンナー／ベンジン／アルコール／その他のアルカリ性や酸性の溶剤

- 艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ／溶解／変形の原因になるおそれがあります。

■ 床に水がかかると

水で洗わないでください。

※：WEB 掲載のデジタル取扱説明書をご覧ください。

オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因になったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■ **フロントウインドウガラスの内側を掃除するときは**

前方カメラのレンズに、ガラスクリーナーが付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。(→ ※)

■ **リヤウインドウガラスの内側を掃除するときは**

- 熱線やアンテナを損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線やアンテナにそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。
- 熱線やアンテナを引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

■ **パノラマルーフガラス★を清掃するときは**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

パノラマルーフガラスを清掃するときは、コンパウンドまたは研磨剤入り用品（ガラスクリーナー／洗剤／ワックスなど）を使用しないでください。コーティングを損傷させるおそれがあります。

知識

■ **シートベルトの取扱い**

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。シートベルトのすり切れ／ほつれ／傷などを定期的に点検してください。

ボンネットを開ける

⚠ 警告

■ **走行前の確認**

ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開くおそれがあります。

■ **修理／車検／整備点検をする場合は**

整備モードに切り替える必要がありますので、必ずレクサス販売店にご相談ください。高電圧システムを使用しているため、取り扱いを誤るおそれがあります。

■ **ボンネットを開けるときは**

ボンネットを開ける前にパワースイッチを OFF にしてください。作動中の部品に巻き込まれて重大な傷害を受けるおそれがあります。特に電動ファンは、パワースイッチを OFF にしたあとも作動する場合がありますので注意してください。

■ **モータールーム点検後の確認**

モータールーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。

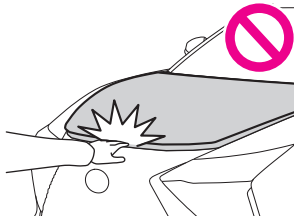
点検や清掃に使用した工具や布などをモータールーム内に置き忘れていると、故障の原因になったり、また、モータールーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ **ボンネットステーをステー穴に挿し込んだあとは**

ボンネットが頭や体の上に落ちてこないように、正しく挿し込まれているか確認してください。

■ **ボンネットを閉めるときは**

ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。



⚠ 注意

■ **ボンネットへの損傷を防ぐために**

ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。ボンネットがへこむおそれがあります。

■ **ボンネットを閉めるときは**

ボンネットステーをステー穴から取りはずし、クリップに正しくもどしてください。ステーを正しくもどさない状態でボンネットを閉めると、ボンネットやステーが損傷するおそれがあります。

ウォッシャー液を補充する

⚠ 警告

EV システムが熱いときや EV システム作動中は、ウォッシャー液を補充しないでください。

ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、EV シス

※：WEB 掲載のデジタル取扱説明書をご覧ください。

テムなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■ ウォッシャー液

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水や不凍液などを入れないでください。塗装にしみが付くことや、ポンプが故障してウォッシャー液が出なくなるおそれがあります。

■ ウォッシャー液のうすめ方

必要に応じて水でうすめてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

エアコンフィルターのお手入れ

⚠ 警告

次のことをお守りください。お守りいただかないと、作業中にエアコンが作動し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 充電コネクターが接続されていないことを確認する
- リモートエアコンシステムを使用しない

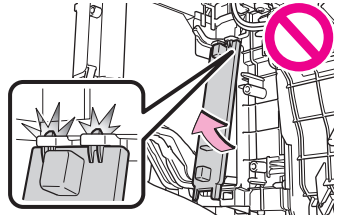
⚠ 注意

■ エアコンを使用するときの注意

- フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因になることがあります。必ずフィルターを装着してください。
- フィルターは、交換するタイプです。水洗いやエアブローによる清掃はしないでください。

■ エアコンを使用するときの注意

フィルターカバーのロックをはずすときに、フィルターカバーを矢印の方向に動かす際は、ツメに無理な力がかからないように注意してください。ツメが破損するおそれがあります。



タイヤのメンテナンス

⚠ 注意

段差や凹凸のある悪路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ／ホイール／車体などの部品も損傷するおそれがあります。

タイヤの点検項目

⚠ 警告

■ 点検／交換時

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦になるおそれがあります。

- タイヤはすべて同一メーカー／同一銘柄／同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない
- ラジアルタイヤ／バイアスベルテッドタイヤ／バイアスプライタイヤを混在使用しない
- サマータイヤ／オールシーズンタイヤ（マット＆スノータイヤ）／冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を混在使用しない
- 他の車両で使用していたタイヤを使用しない

以前どのように使用されていたか不明のタイヤは使用しない

■ 異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルをとられたり、異常な振動を感じることがあります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 破裂などの修理できない損傷を与える
- 車両が横すべりする
- 車両の本来の性能（電費／車両の安定性／制動距離など）が発揮されない

■ 異常があるホイールの使用禁止

亀裂や変形などがあるホイールは使用しないでください。
走行中にタイヤの空気が抜けて、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■ 走行中に空気もれが起こったら

走行を続けないでください。タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

タイヤ空気圧警報システムのはたらき

空気圧バルブ／送信機の装着

⚠ 注意

■ タイヤ、ホイール、空気圧バルブ／送信機、バルブキャップの修理／交換

- タイヤをホイールから脱着する際は、空気圧バルブ／送信機が損傷しないよう注意してください。脱着手順の詳細は、レクサス販売店へご相談ください。
- レクサス指定の純正ホイールを使用してください。

レクサス指定の純正ホイール以外を使用すると、空気圧警報システムが正しく作動しないおそれがあります。

- ホイールを交換したときは、空気圧バルブ／送信機を装着してください。空気圧バルブ／送信機が装着されていないと、タイヤ空気圧警告灯が消灯しません。
- バルブキャップを必ず取り付けてください。バルブキャップをはずしていると、水が浸入してバルブが腐食し、固着やエアー漏れの原因となります。
- バルブキャップを交換するときは、指定以外のバルブキャップを使用しないでください。バルブキャップが固着するおそれがあります。

■ タイヤパンク応急修理キットを使用したときは

空気圧が正確に計測できなくなることがあります。できるだけ早くレクサス販売店で点検を受け、空気圧バルブ／送信機を交換してください。

タイヤの空気圧を設定する

⚠ 警告

必ず空気圧を適切な値に調整してから設定操作をしてください。お守りいただかないと、タイヤ空気圧が低下してもタイヤ空気圧警告灯が点灯しない、または適切な空気圧でもタイヤ空気圧警告灯が点灯してしまうことがあります。

タイヤ空気圧の点検

⚠ 警告

タイヤの性能を発揮するために適正なタイヤ空気圧を維持してください。

タイヤ空気圧が適正に保たれていないと、次のようなことが起こるおそれがあります。

- 過度の摩耗
- 偏摩耗
- 操縦安定性の低下
- タイヤの過熱による破裂
- タイヤとホイールのあいだからの空気漏れ
- ホイールの変形、タイヤの損傷
- 走行時にタイヤが損傷する可能性の増大（路上障害物、道路のつなぎ目や段差など）

⚠ 注意

タイヤ空気圧の点検／調整をしたあとは、タイヤのバルブキャップを確実に取り付けてください。

バルブキャップをはずしていると、ほこりや水分がバルブに入り空気が漏れ、タイヤの空気圧が低下するおそれがあります。

タイヤの交換

工具／ジャッキの搭載位置

⚠ 警告

ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下するおそれがあります。次のことをお守りください。

- ジャッキはタイヤ交換／タイヤチェーン取り付け／取りはずし以外の目的で使用しない
- 備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため、他の車に使ったり他の車のジャッキをお客様の車に使用したりしない

タイヤを取りはずす

⚠ 警告

■ タイヤ交換時の注意

走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。

走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているため、タイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。

■ タイヤ交換時のパワーバックドアの設定

タイヤ交換をする際は、パワーバックドアの作動を停止してください。停止しないと、誤ってパワーバックドアを作動させたときにバックドアが動き、指や手を挟んでけがをするおそれがあります。(→ ※)

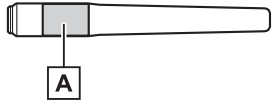
ジャッキはジャッキセット位置に正しくかけてください。

ジャッキを使用するときは、次のことをお守りください。

- ジャッキで支えられている車の下に体を入れない
- 車がジャッキで支えられている状態で、EV システムを始動したり車を走らせない
- 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを置かない
- 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- 車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する

タイヤを交換するときは、ガイドピンを使用してください。

また、ガイドピンは樹脂製のため A 部以外にホイールを載せたり、大きな負荷をかけると破損するおそれがあります。

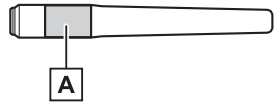


タイヤを取り付ける

⚠ 警告

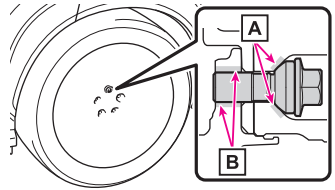
タイヤを交換するときは、ガイドピンを使用してください。

また、ガイドピンは樹脂製のため A 部以外にホイールを載せたり、大きな負荷をかけると破損するおそれがあります。



次のことをお守りいただかないとホイールボルトがゆるみ、ホイールがはずれ落ちるおそれがあります。

- ホイールとホイールボルトの接触面は、嵌合するように設計されています。工場出荷時に装着されたホイールを使用する場合は、専用のレクサス純正ホイールボルトを使用してください。なおレクサス純正品であっても、他車種および異なる年式／型式のホイールボルトは使用しないでください。また、工場出荷時に装着されたホイールボルトがすべてのホイールに適合するわけではありません。工場出荷時に装着されたホイール以外を取り付けるときは、ホイールの購入先にお問い合わせください。
- ホイールボルトとホイールの球面座部 A にオイルやグリースを塗らないでください。



ホイールボルトを締めるときに必要以上に締め付けられ、ホイールボルトやホイールハブのめねじ B が破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。

ホイールボルトを取り付けるときに、オイルやグリースが付いている場合はふき取ってください。

- ホイールボルトのねじ部やホイールハブのめねじ、ホイールのボルト穴につぶれ、亀裂や錆びなどの異常がある場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

車を下げるときは、周囲に人がいないことを確認し、人がいると

※：WEB 掲載のデジタル取扱説明書をご覧ください。

きは声をかけてから下げてください。
ホイールボルトを締め付けるときは、ホイールボルトは過度に締め付けすぎないでください。ホイールボルトやホイールハブのめねじが破損したり、ディスクホイールが損傷する恐れがあります。

- ジャッキや工具を使用したあとは走行前に正しい位置に格納されているか確認してください。正しく格納されていないと、事故や急ブレーキの際、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。
- タイヤを交換したあとは、速やかに締め付けトルクを確認してください。

お客様ご自身で締め付けトルクの確認ができない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

⚠ 注意

タイヤをホイールから脱着する際は、空気圧バルブ／送信機が損傷しないよう注意してください。脱着手順の詳細は、レクサス販売店へご相談ください。

困ったときの対処方法

走行中にトラブルが発生したときの対応

発炎筒で他の運転手に知らせる

⚠ 警告

■ 発炎筒を使用してはいけない場所

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■ 発炎筒の取り扱い

次のことを必ずお守りください。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさわらせない

車を緊急停止する

⚠ 警告

■ 走行中にやむを得ず EV システムを停止するときは

ハンドル操作が重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。EV システムを停止する前に、十分に減速するようにしてください。
走行中に EV システムの緊急停止したあと、走行中に EV システムを再始動させる場合は、パワースイッチを押してください。

水没／冠水したときの対処

⚠ 警告

■ 走行中の警告

冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が故障して動かなくなり、水没や漂流から死亡につながるおそれがあります。

警告灯が点灯／点滅した

ブレーキ警告灯（警告ブザー）

⚠ 警告

ABS 警告灯とブレーキ警告灯が同時に点灯したときは、ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店にご連絡ください。
ABS またはブレーキアシストシステムに異常が発生しているだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ブレーキ警告灯（警告ブザー）

⚠ 警告

ABS 警告灯とブレーキ警告灯が同時に点灯したときは、ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店にご連絡ください。
ABS またはブレーキアシストシステムに異常が発生しているだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ABS ＆ブレーキアシスト警告灯（警告ブザー）

⚠ 警告

ABS 警告灯とブレーキ警告灯が同時に点灯したときは、ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店にご連絡ください。
ABS またはブレーキアシストシステムに異常が発生しているだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

パワーステアリング警告灯（警告ブザー）

⚠ 警告

■ パワーステアリング警告灯が赤色に点灯した場合

異形ステアリング非装着車：

操作力補助がなくなるため、ハンドル操作が非常に重くなることがあります。

ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

異形ステアリング装着車：

- ハンドル操作が非常に重くなることがあります。ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。
- 故障により段階的に車速に制限がかかる場合があります。速やかに停止し、レクサス販売店へ連絡してください。

■ パワーステアリング警告灯が黄色に点灯した場合

異形ステアリング非装着車：

操作力補助が制限されます。

ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

異形ステアリング装着車：

- ハンドル操作が通常より重くなることがあります。ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。
- 故障により段階的に車速に制限がかかる場合があります。速やかに最寄りのレクサス販売店で点検を受けてください。
- パワーステアリング警告灯が黄色に点灯した状態で走行を続けるとパワーステアリング警告灯が赤色に変化する場合があります。速やかに停止し、レクサス販売店へ連絡してください。

タイヤ空気圧警告灯（警告ブザー）

⚠ 警告

■ タイヤ空気圧警告灯が点灯した場合

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- できる限り速やかに安全な場所に停車し、タイヤ空気圧を調整してください。
- タイヤ空気圧を調整したあとも警告灯が点灯する場合は、タイヤがパンクしている可能性があります。タイヤを確認し、パンクしている場合はタイヤパンク応急修理キットで応急修理し、最寄りのレクサス販売店でタイヤを修理してください。
- 急ハンドル／急ブレーキを避けてください。タイヤの状態が悪化すると、ハンドル操作やブレーキが効かなくなるおそれがあります。

■ タイヤの破裂、突然の空気もれが発生した場合

急激にタイヤ空気圧が低下した場合は、タイヤ空気圧警報システムによる警報ができない場合があります。

⚠ 注意

■ タイヤ空気圧警報システムについての注意

- 純正ホイール以外を使用した場合、バルブ／送信機から発信する電波の飛び方がかわり、システムが正常に作動しないことがあります。
- 構造／メーカー／銘柄／トレッドパターンが異なるタイヤを使用しないでください。タイヤ空気圧警報システムが正常に作動しないことがあります。
- タイヤ空気圧警告灯の点灯および点滅は、空気圧設定では解除できません。

ディスプレイに警告メッセージが表示された

“補機バッテリー（始動用）充電不足 取扱書確認ください。”

⚠ 注意

“補機バッテリー（始動用）充電不足 取扱書確認ください。”がひんぱんに表示されるときは、補機バッテリーが劣化している可能性があります。

その状態で放置しておくと、補機バッテリーあがりを起こすおそれがあるため、レクサス販売店で補機バッテリーの点検を受けてください。

“バッテリ充電不足”

⚠ 注意

■ “バッテリ充電不足” がひんぱんに表示されるときは

補機バッテリーが劣化している可能性があります。その状態で放置しておくと、補機バッテリーのバッテリーあがりを起こすおそれがあるため、レクサス販売店で補機バッテリーの点検を受けてください。

室内灯やヘッドランプが暗く EV システムが始動できない

補機バッテリーあがり

⚠ 警告

■ 補機バッテリーを交換するときは

- 液栓やインジケーターがステーに近いと、バッテリー液（硫酸）がもれだすおそれがあります。
- 補機バッテリーの交換については、レクサス販売店にご相談ください。

補機バッテリー端子をはずすときは

⚠ 警告

■ 補機バッテリー端子をはずすときは

必ず－端子を先にはずしてください。＋端子を先にはずすと、＋端子が周辺の金属部分にふれた場合、火花が発生し火災につながるおそれがある他、感電し重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 補機バッテリーの引火または爆発を防ぐために

補機バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

- ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に接続しない
- ＋端子に接続したブースターケーブルの先を付近のブラケットや未塗装の金属部に接触させない
- ブースターケーブルは＋側と－側の端子を絶対に接触させない
- 補機バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■ 補機バッテリーの取り扱いについて

補機バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

- 補機バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、バッテリー液（酸）が皮膚／衣服／車体に付着しないようにする
- 必要以上、顔や頭などを補機バッテリーに近付けない
- 誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける

また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく

- 誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける
- 補機バッテリーや周辺部品の取り扱い後は手を洗う
- お子さまを補機バッテリーに近付けない

タイヤパンク応急修理キットでの補修方法

⚠ 警告

タイヤがパンクしたまま走行しないでください。
短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
パンクした状態で走行を続けると、タイヤ側面に円周状の溝ができる場合があります。この状態で応急修理キットを使用すると、タイヤが破裂する危険があります。

タイヤパンク応急修理キット／工具の搭載位置

⚠ 警告

応急修理キットは指定の位置に収納してください。
急ブレーキ時などに応急修理キットが飛び出したりして破損したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

タイヤパンク応急修理キットの内容／各部の名称

⚠ 警告

■ 応急修理キットの取り扱いの注意

- 応急修理キットはお客様の車専用です。他の車には使わないで

ください。他の車に使うと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。

パンク修理が完全に行われず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ パンク補修液の取り扱い
- 誤って飲み込むと健康に害があります。その場合はできるだけたくさんの水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。
- もし目に入ったり、皮膚に付着したりした場合には、水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

パンクしたタイヤを応急修理する

⚠ 警告

応急修理するときは、次のことをお守りください。
- 車両を安全で平坦な場所に停止させてください。
- 走行直後、ホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。

走行直後のホイールやブレーキまわりは高温になっている可能性があるため手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。
- 作業手順に従って応急修理を行ってください。

手順どおりに行わないとパンク補修液が噴出する場合があります。

⚠ 注意

■ 応急修理をするときの注意
- タイヤに刺さった釘やネジを取り除かずに応急修理を行ってください。取り除いてしまうと、応急修理キットでは応急修理ができなくなる場合があります。
- 応急修理キットに防水機能はありません。降雨時などは、水がかからないようにして使用してください。
- 砂地などの砂ぼこりの多い場所に直接置いて使用しないでください。砂ぼこりなどを吸い込むと、故障の原因になります。
- 応急修理キットは倒れた状態では正常に作動しません。必ず立ててご使用ください。

■ 応急修理キット
- 応急修理キットは DC12V 専用です。他の電源での使用はできません。
- ガソリンがかからないようにしてください。応急修理キットにガソリンがかかると、劣化するおそれがあります。
- 応急修理キットは砂埃や水を避けて収納してください。
- 応急修理キットは指定の位置に収納し、お子さまが誤って手をふれないようご注意ください。
- 分解／改造などは絶対にしないでください。また、圧力計などに衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

⚠ 警告

次のことを確認ください。
- タイヤを車両に取り付けた状態で、バルブとホースをしっかりと接続してください。
- 接続が不十分な場合、空気がもれたり、パンク補修液が飛散したりするおそれがあります。
- 充填中にホースがはずれると、圧力でホースが急に動くおそれがあり危険です。

速度制限シールは指定位置以外に貼らないでください。ハンドルのパッド部分などの SRS エアバッグ展開部に貼ると、SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

次のことをお守りください。
- 破裂の危険があるので、応急修理キットの作動中は補修中のタイヤから離れてください。タイヤに亀裂や変形が発生している場合、ただちにコンプレッサーのスイッチを OFF にし、修理を中止してください。
- 40 分以上連続で作動させないでください。応急修理キットは、長時間作動させると過熱する可能性があります。
- 応急修理キットの作動中は、部分的に熱くなります。使用中、または使用後の取り扱いには注意してください。
- ボトルとコンプレッサー接続箇所の金属部分は特に熱くなるため、使用中、または使用直後はふれないでください。

充填後、ホースを取りはずすときや空気を抜くときにパンク補修液が飛散する場合があります。

補修液を均等に広げるための運転中は、次のことに注意してください。

- 低速で慎重に運転してください。特にカーブや旋回時には注意してください。
- 車がまっすぐ走行しなかったり、ハンドルをとられたりする場合は、停車し、次のことを確認してください。
・ タイヤを確認してください。タイヤがホイールからはずれている可能性があります。
・ 空気圧を確認してください。130kPa 未満の場合は、タイヤが大きなダメージを受けている可能性があります。

キーをなくした

⚠ 注意

電子キーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。車両に付属している残りの電子キーとカードキーをすべてお持ちの上、ただちにレクサス販売店にご相談ください。

電子キーを使ってドア／窓を操作できない

⚠ 注意

スマートエントリー＆スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくときは、付属しているすべての電子キー（カードキー含む）をお持ちください。

電子キーの電池を交換する

⚠ 警告

■ 電子キーの電池について

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 誤って電池を飲み込まないように注意してください。化学熱傷のおそれがあります。
- 電子キーにはコイン電池もしくはボタン電池が使われています。電池を飲み込むと、わずか 2 時間で重度の化学熱傷を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 新しい電池および取りはずした電池は、お子さまにさわらせないでください。
- カバーがしっかり閉まらない場合はそのまま使用せず、お子さまの手の届かない場所に保管し、レクサス販売店で点検を受けてください。
- 誤って電池を飲み込んだ、または体の一部に入れてしまった場合は、すぐに医師の診察を受けてください。

■ 電池の爆発や可燃性の液体またはガスの漏れを防ぐために

- 同じタイプの電池と交換してください。異なったタイプの電池を使用すると、電池が爆発するおそれがあります。
- 極端に温度の高いところや、高度が高く極端に気圧が低いところに電池を持ち込まないでください。
- 電池を燃やしたり、つぶしたり、切ったりしないでください。

⚠ 注意

■ 電池を交換するときは

適切なサイズのマイナスドライバーを使用してください。無理な力がかかると、カバーが変形したり破損したりするおそれがあります。

■ 交換後、正常に機能させるために

次のことを必ずお守りください。

- ぬれた手で電池を交換しない

錆の原因になります。

- 電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしない
- 電極を曲げない

メカニカルキーを使って操作する

⚠ 注意

メカニカルキーをカードキーに挿し込むときは、無理な力を与えないでください。カードキーが破損するおそれがあります。

⚠ 警告

メカニカルキーを使ってドアガラスを操作するときは、ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、メカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

補機バッテリーがあがったときに EV システムを再始動する

⚠ 警告

■ 補機バッテリーの引火または爆発を防ぐために

補機バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

- ブースターケーブルは正しい端子以外に接続しない
- ＋端子に接続したブースターケーブルの先を付近のブラケットや未塗装の金属部に接触させない
- ブースターケーブルは＋側と－側の端子を絶対に接触させない
- 補機バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■ 補機バッテリーの取り扱い

補機バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

- 補機バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液（酸）が皮膚／衣服／車体に付着しないようにする
- 必要以上、顔や頭などを補機バッテリーに近付けない
- 誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受けるまた、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく
- 誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける
- 補機バッテリーの支柱／ターミナル／その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う
- お子さまを補機バッテリーに近付けない

⚠ 注意

■ ブースターケーブルの取り扱い

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

■ ブースターケーブルを接続するときは

指定の端子および接続箇所以外にブースターケーブルを接続しないでください。電子機器に悪影響をおよぼしたり、破損につながったりするおそれがあります。

ドア開スイッチでドアを開けることができない

手動リリースハンドルを操作するには

⚠ 注意

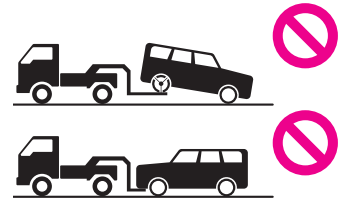
通常、手動リリースハンドルを用いてドアを開けることはできません。手動リリースハンドルの作動を有効にするためには以下の操作を行ってください。以下の操作を行わずに手動リリースハンドルを強い力で操作すると、破損／変形する恐れがあります。

レッカー車を使用したけん引

FF（前輪駆動）をレッカー車でけん引してもらう

⚠ 警告

必ず前輪を持ち上げるか、4輪とも持ち上げた状態で運搬してください。前輪が地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損したり、モーターが回転することにより発電され、故障や破損の状態によっては火災が発生するおそれがあります。



⚠ 注意

■ 長い下り坂でけん引するとき

レッカー車または、車両運搬車でけん引してください。他車にけん引してもらうと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

■ レッカー車でけん引するとき
車両の損傷を防ぐために図のようなレッカー車ではけん引しないでください。



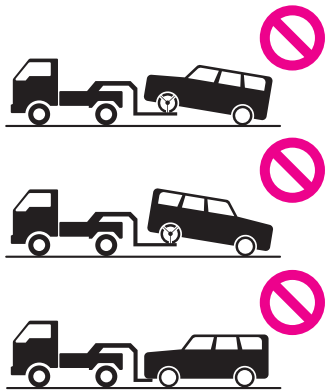
■ レッカー車でけん引するとき
車両の損傷を防ぐために図のようなレッカー車ではけん引しないでください。



| AWD（4 輪駆動）をレッカー車でけん引してもらう

⚠ 警告

4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。タイヤが地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品の破損や、車が台車から飛び出したり、モーターが回転することにより発電され、故障や破損の状態によっては火災が発生するおそれがあります。



⚠ 注意

■ 長い下り坂でけん引するとき
レッカー車または、車両運搬車でけん引してください。他車にけん引してもらうと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

車両運搬車を使用する

⚠ 注意

車両運搬車に車を固縛するときは、ケーブル等を過度に締め付け過ぎないでください。車両の損傷につながるおそれがあります。

他車を使用したけん引

| 他車にけん引してもらう

⚠ 警告

パーキングロックにより前輪が固定され、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。次のことをしないでください
- 運転席シートベルトを外し、運転席のドアを開ける
- パワースイッチを OFF にする

⚠ 注意

車両の損傷を防ぐために、次のことを必ずお守りください。
- 他車にけん引してもらうときは、必ず前進方向でけん引してもらってください。
- この車両で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。

⚠ 警告

- やむを得ない場合以外は使用しないでください。
- 緊急用フックで他車をけん引しないでください。

けん引フックを車両に取り付けるときは、指定の位置にしっかりと取り付けてください。

指定の位置にしっかり取り付けないとけん引時にフックがはずれるおそれがあります。

⚠ 注意

車両の損傷を防ぐために、他車にけん引してもらうときは次のことを必ずお守りください。

- ワイヤーロープは使用しない
- サスペンション部などにロープをかけない

⚠ 警告

パーキングロックにより前輪が固定され、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。次のことをしないでください。

- 運転席シートベルトを外し、運転席のドアを開ける
- パワースイッチを OFF にする

けん引してもらうときは、けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進などを避けてください。けん引フックやロープが破損し、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあります。

⚠ 注意

他車にけん引してもらうときは、速度は 30km/h 以下、距離は車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめてください。車両が損傷するおそれがあります。

ぬかるみや砂地、雪道から抜け出す

⚠ 警告

■ 脱出するときは

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車、ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何もないことを確認してください。スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■ ダイヤル式シフトを操作するときは

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。車が急発進するおそれや、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

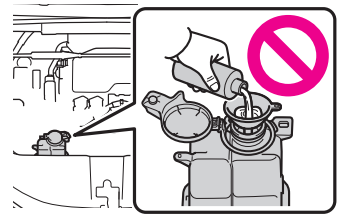
⚠ 注意

- タイヤが空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。
- 上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

オーバーヒートした

⚠ 注意

ラジエーターの冷却水は、ラジエーター専用品です。水や他の種類の冷却水を入れると、故障の原因になりますので、絶対に入れないでください。トヨタ純正駆動用バッテリークーラントがない場合は、ただちにレクサス販売店にご連絡ください。



高水温警告灯が点灯したり、マルチインフォメーションディスプレイに “EV システム高温出力制限中です ” が表示された

⚠ 警告

■ モータールームを点検しているとき

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

- モータールームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。モータールーム内が高温になっています。
- 手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）をファンやベルトから離してください。手や着衣が巻き込まれ、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- EV システムおよびラジエーターが熱い場合は、冷却水リザーバータンクのキャップを開けないでください。高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出すおそれがあります。

⚠ 注意

■ 冷却水を入れるとき

EV システムが十分に冷えてからゆっくり入れてください。EV シ

ステムが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、EV システムが損傷するおそれがあります。

■ **冷却系統の故障を防ぐために**

次のことをお守りください。

- 異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない
- 冷却水には、水や他の冷却水を補充しないでください。また、冷却水用添加剤は使用しないでください。

点灯しないライトがある

ヒューズの点検／交換をする

⚠ 警告

次のことをお守りください。お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

- 規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。
- 必ずレクサス純正ヒューズか同等品を使用してください。
- ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

⚠ 注意

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、レクサス販売店で点検を受けてください。

車中泊が必要なときは

⚠ 警告

車中泊としてお車をご利用になる場合は、エコノミークラス症候群や熱中症、一酸化炭素中毒などのリスクを伴うため十分注意してください。

- 詳しい注意事項などを以下の URL で確認することができます。
  https://lexus.jp/news/bousai/#help_book

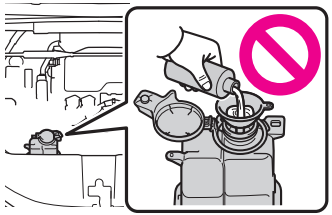
車の仕様、諸元、装備

メンテナンスデータ（オイル量など）

クーリングシステム

⚠ 注意

クーリングシステムへは、弊社純正駆動用バッテリークーラント（以下、純正品）もしくは純正品と同等性能の冷却液をご使用ください。なお、純正品以外を注入した場合、レクサスは駆動用電池の安全性を保証することができません。最悪の場合、電池の短絡や損傷につながる恐れがあります。また、車両から抜き取った冷却液（純正品を含む）は、再使用しないでください。



フロント eAxle（イーアクスル）

⚠ 注意

指定銘柄以外のフルードを使用すると、振動／異音の発生や、故障などの原因になるおそれがあります。

リヤ eAxle（イーアクスル）（AWD 車）

⚠ 注意

指定銘柄以外のフルードを使用すると、振動／異音の発生や、故障などの原因になるおそれがあります。

タイヤ／ホイール

■ サイズ／空気圧

▶ RZ350e（18 インチタイヤ装着車）

タイヤサイズ	ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa（kg/cm²）	
		前輪	後輪
235/60R18 103H	18×7 1/2 J	290 (2.9)	290 (2.9)

▶ RZ350e（20 インチタイヤ装着車）

タイヤサイズ	ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa（kg/cm²）	
		前輪	後輪
235/50R20 104V	20×8 J	260 (2.6)	-
255/45R20 105W	20×9 1/2 J	-	240 (2.4)

▶ RZ500e（18 インチタイヤ装着車）

タイヤサイズ	ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa（kg/cm²）	
		前輪	後輪
235/60R18 103H	18×7 1/2 J	260 (2.6)	-
255/55R18 105V	18×8 J	-	260 (2.6)

▶ RZ500e（20 インチタイヤ装着車）

タイヤサイズ	ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa（kg/cm²）	
		前輪	後輪
235/50R20 104V	20×8 J	260 (2.6)	-
255/45R20 105W	20×9 1/2 J	-	240 (2.4)

▶ RZ550e

タイヤサイズ	ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa（kg/cm²）	
		前輪	後輪
235/50R20 104V	20×8 J	260 (2.6)	-
255/45R20 105W	20 × 9 1/2 J	-	240 (2.4)

ユーザーカスタマイズ機能概要

⚠ 注意

カスタマイズを行うときは、補機バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実に EV システムが作動している状態で実施してください。

はじめに

知っておいていただきたいこと

安全にお使いいただくため

⚠ 警告

- 安全のため、運転中は運転者がシステムを操作しないでください。道路や交通への注意が不十分な場合、事故を引き起こす可能性があります。
- 運転中は、必ず交通規制を遵守し道路状況に注意してください。

道路の交通標識が変更された場合、一方通行指示などの情報がルート案内に反映されない場合があります。

基本操作

ディスプレイと操作スイッチ

⚠ 警告

安全のため、運転者は走行中に極力操作をせず、停車させてから操作をしてください。走行中の操作はハンドル操作を誤るなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。なお、走行中に画面を見るときは、必要最小限の時間にしてください。

⚠ 注意

EV システムが停止した状態で長時間使用しないでください。補機バッテリーがあがるおそれがあります。

タッチスクリーンの操作

| タッチスクリーン操作上の留意事項

⚠ 注意

- 画面保護のため、指を軽く画面にふれてタッチスクリーンを操作してください。
- 指以外のものでタッチスクリーンを操作しないでください。
- 画面の汚れは、メガネ用クリーニングクロスなどのやわらかく乾いた布で軽くふき取ってください。手で強く押したり、かたい布などでこすったりすると表面に傷がつくことがあります。
- ベンジンやアルカリ性溶液などを使用して画面を清掃しないでください。画面が損傷するおそれがあります。
- 条件によって画面表面が熱くなることがあります。長時間ふれ続けると低温やけどを起こす可能性があります。

オーディオシステムの ON/OFF と音量を調整する

⚠ 注意

- EV システムが停止した状態でマルチメディアシステムを長時間使用しないでください。補機バッテリーがあがるおそれがあります。
- 安全運転に支障がないように適度な音量でお聞きください。

USB 機器を接続する

⚠ 注意

- 接続する機器の形状によっては、周辺部品と干渉し、本体もしくは接続機器が破損するおそれがあります。
- 接続中に機器を押さえたり、不必要な圧力を加えたりしないでください。機器や端子が破損するおそれがあります。
- 端子に異物を入れないでください。機器や端子が破損するおそれがあります。

HDMI 機器を接続する *1

⚠ 注意

- 接続中に外部機器を押さえたり、不必要な圧力を加えたりしないでください。外部機器や端子が破損するおそれがあります。
- 端子に異物を入れないでください。外部機器や端子が破損するおそれがあります。

*1: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ソフトウェア情報の確認や更新をする

| ソフトウェアを更新する

⚠ 注意

- ソフトウェア更新はお客様の責任において実行してください。
- ソフトウェア更新を行うと、前のバージョンにもどすことはできません。
- ソフトウェア更新の内容によっては一部の設定が初期化されることがあります。その場合はソフトウェア更新後、再度設定を行ってください。
- ソフトウェア更新中もマルチメディアシステムの操作は可能ですが、動作の遅延が発生する可能性があります。できるだけ操作しないようにしてください。
- ソフトウェア更新後、自動的にトヨタ自動車の配信サーバーに更新が完了したことを通知します。なお、トヨタ自動車は送信された情報をソフトウェア更新以外の目的には使用いたしません。また、お客様のご契約形態によっては通信料が発生する場合があります。

各種設定および登録

走行支援の設定

⚠ 警告

走行支援設定の案内は、あくまでも補助機能です。案内を過信せず、常に道路標識／標示や道路状況に注意し、安全運転に心がけてください。

スマートフォンや通信機器の接続

Bluetooth® 機器使用上の留意事項

⚠ 警告

- 携帯電話をハンズフリー電話で使用する場合、安全のため、運転者は運転中に携帯電話本体を操作しないでください。
- 安全な場所に停車して電話をかけてください。運転中に電話がかかってきたときは、安全運転に留意し、通話は手短にしてください。

⚠ 注意

- Bluetooth® 機器をマルチメディアシステムに近づけて使用しないでください。近づけすぎると、音質が劣化したり、接続状態が悪化することがあります。
- 携帯電話は車室内に放置しないでください。車室内が高温のときに携帯電話が故障するおそれがあります。

⚠ 警告

電波がおよぼす影響について

植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医師や医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

Wi-Fi® 機器使用上の留意事項

⚠ 警告

電波がおよぼす影響について

植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医師や医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

Apple CarPlay/Android Auto 使用上の留意事項

⚠ 警告

安全のため、運転者は運転中にスマートフォン本体を操作しないでください。

⚠ 注意

- スマートフォンを車室内に放置しないでください。車室内が高温のときにスマートフォンが故障するおそれがあります。
- スマートフォンが接続されているときには、スマートフォンを押さえたり、不必要な圧力を加えたりしないでください。スマートフォンまたは端子が損傷する可能性があります。
- USB 端子に異物を入れないでください。スマートフォンや端子が破損するおそれがあります。

ナビゲーション

施設記号を表示する

⚠ 注意

一部の駐車場では、利用する際に事前に専用サイトにて予約が必要になります。

TSPS サービスについて

TSPS（Traffi c Signal Prediction Systems）を使用する

⚠ 警告

TSPS 運転支援機能はあくまでも補助機能です。案内を過信せず、常に道路標識・信号表示や道路状況に注意し、安全運転に心がけてください。

光ビーコン走行情報のアップリンクの設定をする

⚠ 注意

- 初期状態では [ON] に設定されています。
- 本設定が [OFF] の場合、TSPS サービスは受けられません。

地図を更新する
| パソコン（USB メモリー）で更新

⚠ 注意

- ダウンロードした地図データのファイル名および拡張子を変更しないでください。
- 地図データの入っているフォルダー（diff）には、地図データ以外の情報を入れないでください。

オーディオシステム

ラジオ用アンテナの取り扱い

⚠ 注意

- アンテナ入りガラス（室内側）の清掃は湿った布で線にそって軽くふいてください。ガラスクリーナーなどは、アンテナをいためるため使用しないでください。
- フロントウインドウガラスおよびリヤウインドウガラスのアンテナ線部に次のものを貼りつけないでください。受信感度が低下したり、ノイズ（雑音）が発生するおそれがあります。

・ 金属を含有するウインドウフィルム
・ その他の金属物（レクサス純正品以外のアンテナなど）

地上デジタルテレビ用アンテナの取り扱い

⚠ 注意

- アンテナ入りガラス（室内側）の清掃は湿った布で線にそって軽くふいてください。ガラスクリーナーなどは、アンテナをいためますので使用しないでください。
- フロントウインドウガラスおよびリヤウインドウガラスのアンテナ線部に以下のものを貼りつけないでください。受信感度が低下したり、ノイズ（雑音）が発生するおそれがあります。

・ 金属を含有するウインドウフィルム
・ その他の金属物（レクサス純正品以外のアンテナなど）

USB メモリーの再生についての留意事項

⚠ 警告

安全のため、運転者は運転中に USB メモリーを操作しないでください。

- パーキングブレーキがかかっていなくても、ブレーキホールドの作動中、またはクルーズコントロール機能による完全停車状態になっていれば動画を視聴できるように設定できます。

⚠ 注意

- USB メモリーを車室内に放置しないでください。車室内が高温のときに USB メモリーが故障するおそれがあります。
- 接続中に USB メモリーを押さえたり、不必要な圧力を加えたりしないでください。USB メモリーや端子が破損するおそれがあります。
- 端子に異物を入れないでください。USB メモリーや端子が破損するおそれがあります。

⚠ 注意

ファイルに間違った拡張子をつけないでください。ファイルの中身と一致しない拡張子をファイルにつけると、誤認識して再生してしまい、大きな雑音が出てスピーカーを破損する場合があります。

間違いの例：

- MP3 ではないファイルに、「.mp3」の拡張子をつける
- WMA ではないファイルに、「.wma」の拡張子をつける

iPod/iPhone の再生についての留意事項

⚠ 警告

安全のため、運転者は運転中に iPod/iPhone を操作しないでください。

⚠ 注意

- iPod/iPhone を車室内に放置しないでください。車室内が高温のときに iPod/iPhone が故障するおそれがあります。
- 接続中に iPod/iPhone を押さえたり、不必要な圧力を加えたりしないでください。iPod/iPhone や端子が破損するおそれがあります。

- 端子に異物を入れないでください。iPod/iPhone や端子が破損するおそれがあります。

Apple CarPlay の再生についての留意事項

⚠ 警告

安全のため、運転者は運転中に iPhone を操作しないでください。

⚠ 注意

- iPhone を車室内に放置しないでください。車室内が高温のときに iPhone が故障するおそれがあります。
- 接続中に iPhone を押さえたり、不必要な圧力を加えたりしないでください。iPhone や端子が破損するおそれがあります。
- 端子に異物を入れないでください。iPhone や端子が破損するおそれがあります。

Android Auto の再生についての留意事項

⚠ 警告

安全のため、運転者は運転中に Android 機器を操作しないでください。

⚠ 注意

- Android 機器を車室内に放置しないでください。車室内が高温のときに Android 機器が故障するおそれがあります。
- 接続中に Android 機器を押さえたり、不必要な圧力を加えたりしないでください。Android 機器や端子が破損するおそれがあります。
- 端子に異物を入れないでください。Android 機器や端子が破損するおそれがあります。

Bluetooth® オーディオの再生についての留意事項

⚠ 警告

- 安全のため、運転者は運転中にポータブル機本体の操作をしないでください。
- 電波がおよぼす影響について
  植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医師や医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。

⚠ 注意

- ポータブル機を車室内に放置しないでください。車室内が高温のときにポータブル機が故障するおそれがあります。
- ポータブル機をマルチメディアシステムに近づけて使用しないでください。近づけすぎると、音質が劣化したり、接続状態が悪化する場合があります。

HDMI の再生についての留意事項

⚠ 警告

安全のため、運転者は運転中に接続した機器を操作しないでください。

⚠ 注意

- 外部機器を車室内に放置しないでください。車室内が高温のときに外部機器が故障するおそれがあります。
- 接続中に外部機器を押さえたり、不必要な圧力を加えたりしないでください。外部機器や端子が破損するおそれがあります。
- 端子に異物を入れないでください。外部機器や端子が破損するおそれがあります。

Miracast® の再生についての留意事項

⚠ 警告

運転中はスマートフォンやタブレットを接続したり、操作をしないでください。

⚠ 注意

スマートフォンまたはタブレットを車室内に放置しないでください。車室内が高温のときにスマートフォンまたはタブレットが故障するおそれがあります。

ハンズフリー電話

ハンズフリー電話についての留意事項

⚠ 警告

安全のため、運転者は運転中に携帯電話本体を操作しないでください。
植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医師や医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

⚠ 注意

携帯電話は車室内に放置しないでください。車室内が高温のときに携帯電話が故障するおそれがあります。

通話音声の留意事項

⚠ 注意

マイクにふれたり、先の尖ったものを入れないでください。故障の原因となります。

G-Link

データ通信に関する留意事項

安全にご利用するため注意すること

⚠ 警告

安全のため、運転者は走行中に極力操作（音声操作も含む）をしないでください。走行中の操作はハンドル操作を誤るなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。車を停車させてから操作をしてください。なお、走行中に画面を見るときは、必要最小限の時間にしてください。

通信モジュール（DCM）について

⚠ 警告

植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器以外の医療用電気機器をお使いの方は、G-Link をお使いになる前に、医師や医療用電気機器の製造事業者などに個別にご相談ください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

G-Link を解約する

マルチメディアシステムから解約する

⚠ 注意

- マルチメディアシステムに保存した情報は、マルチメディアシステムで解約したときのみ消去できます。
- お客様の大切な情報を保護するため、お車を手放すときは、マルチメディアシステムで解約手続きおよび初期化を必ず行ってください。

ヘルプネットについて

⚠ 注意

- ヘルプネットスイッチパネルなどに液体をかけたり、強い衝撃を与えたりしないでください。ヘルプネットスイッチパネルなどが故障すると、緊急通報ができなくなったり、システム状態を正確にお知らせすることができなくなります。ヘルプネットスイッチパネルなどが故障したときは、必ずレクサス販売店にご相談ください。
- 緊急通報および手動保守点検時は、スピーカーまたはマイクに故障不具合などがあると、ヘルプネットセンターのオペレーターと通話できません。これらの機器が故障したときは、必ずレクサス販売店にご相談ください。

安全のために

⚠ 警告

- 安全運転を心がけてください。ヘルプネットは、交通事故や急病時などの救援通報を補助するものであり、乗員保護の機能を持つものではありません。乗員保護のために、乗員はシートベルトを着用し、安全運転を心がけてください。
- 緊急事態が発生したときは、人命救助とけが人の対処を最優先にしてください。
- 緊急事態発生により燃料の匂いや異臭を感じるときは、車内にとどまらずにただちに安全な場所に避難してください。
- 手動保守点検は契約者本人が行い、ヘルプネットスイッチパネルの緑の表示灯が点灯していることを必ず確認してください。
- マルチメディアシステムは衝撃などによって、作動しなくなる

ことがあります。このようなときには、最寄りの公衆電話などから通報してください。
- 補機バッテリーの電圧低下または接続が断たれたとき、ヘルプネットセンターと通信できないことがあります。
- 携帯電話サービスエリア内であっても電波状態または回線混雑のために、緊急通報や通話が困難になることがあります。この場合は、ヘルプネットセンターと回線接続しても、ヘルプネットセンターと通信できず、救援要請の通報および通話ができません。緊急通報できないときには、最寄りの公衆電話などから通報してください。
- 事故発生時、エアバッグが作動せず、車両へ強い衝撃が加わっていないときは自動通報されません。また、エアバッグが作動しても通報されないことがあります。このようなときにはボタン操作による手動通報をしてください。
- 以下のときは緊急通報できません。緊急通報できないときには、最寄りの公衆電話などから通報してください。

・ 携帯電話サービスエリア外で使用している
・ 関連機器（ヘルプネットスイッチパネル、ディスプレイ、マイク、スピーカー、通信モジュール、アンテナ、およびこれらを接続する電気配線など）に異常または損傷があり、故障している
・ G-Link 利用契約が未契約、または契約期限が切れている
・ 手動保守点検を実施していないため、緊急通報可能状態になっていない

- 緊急通報時に、電波状態などの理由で回線接続ができないときは、緊急通報は終了せず電話接続できるまでヘルプネットセンターへの回線接続をくり返し行います。電波状態の良好な場所に移動するか、携帯電話 / 公衆電話などから直接通報してください。
- 緊急通報後に救援を待つ間は、後続車の追突などの二次災害を防ぐ手段をとり、乗員は安全な場所へ避難してください。基本的には車内にとどまらず、窓を開け、ヘルプネットセンターのオペレーターの声が聞こえる車外で、安全な場所を確保してください。
- 安全のため、走行中は緊急通報をしないでください。走行中の通報はハンドル操作を誤るなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。緊急通報は、停車して安全を確認してから行ってください。
- G-Link 利用契約を解約してもヘルプネットスイッチパネルの緑の表示灯が点灯しているときは、レクサス販売店にご相談ください。
- ヒューズ交換は、必ず表示された規格のヒューズをご使用ください。規定以外のヒューズを使用すると、発煙、発火の原因となり、火災につながるおそれがあり危険です。
- 煙が出る、異臭がするなど異常な状態で使用すると、発火の原因になります。ただちに使用を中止してレクサス販売店にご相談ください。

⚠ 注意

- マルチメディアシステム内部は精密な構造になっています。無理に分解しようとすると、故障の原因になります。万一、異常などがあるときには、すぐにレクサス販売店にご相談ください。
- 関連機器などの取りはずしをすると、接触不良や機器の故障などを引き起こし、緊急通報ができなくなることがあります。取りはずしが必要なときには、レクサス販売店にご相談ください。
- 緊急通報および手動保守点検時は、スピーカーまたはマイクに故障などがあると、ヘルプネットセンターのオペレーターと通話ができません。これらの機器が故障したときは、必ずレクサス販売店にご相談ください。
- 以下の温度範囲以外では、緊急通報が正常に動作しないことがあります。そのときは、最寄りの公衆電話などを使用してください。動作温度範囲：-20 ℃～+ 60 ℃
- 実際の通報地点とヘルプネットセンターに通報される位置には、誤差が発生することがあります。通報地点や目標物は、ヘルプネットセンターのオペレーターと通話で相互確認してください。
- 呼び返し待機状態で火災発生などの危険がある場合、および車外に避難するときは、パーキングブレーキをしっかりかけて、パワースイッチを OFF にしてください。

ヘルプネットをお使いになる前に

⚠ 警告

- 以下のように、関連機器が正常に動作しないとき、緊急時にヘルプネットセンターへ正しい情報が伝わらず、救援困難となる可能性があります。

・ 通信が始まらない。

・ 通報位置とヘルプネットセンターの位置表示が違う。
・ 通話できない。
● 手動保守点検後、ヘルプネットスイッチパネルの緑の表示灯が点灯しないとき、緊急通報は動作しません。表示灯が正常に点灯しないときは、レクサス販売店にご相談ください。

緊急通報をする

エアバッグ作動による自動通報

⚠ 警告

● 呼び返し待機状態のあいだは、後続車の追突などの二次災害を防ぐ手段をとり、乗員は安全な場所へ避難してください。基本的には車内にとどまらず、窓を開け、ヘルプネットセンターのオペレーターの声が聞こえる車外で、安全な場所を確保してください。
● 呼び返し待機中は、緊急通報に関係のない着信も自動的にハンズフリー通話でつながります。通話中は救援活動に関わる着信であっても、着信できません。

⚠ 警告

緊急通報できなかったときは、最寄りの公衆電話などから通報してください。
● 携帯電話サービスエリア外では緊急通報できません。緊急通報できなかったときには、最寄りの公衆電話などから通報してください。
● 携帯電話サービスエリア内であっても、電波状態または回線混雑のために、緊急通報や通話することが困難になることがあります。このときは、ヘルプネットセンターと回線接続しても通信できず、救援要請の通報および通話ができません。
● 緊急通報時に、電波状態などの理由で回線接続ができないときは、緊急通報は終了せず電話接続できるまでヘルプネットセンターへの回線接続をくり返し行います。電波状態の良好な場所に移動するか、携帯電話 / 公衆電話などから直接通報してください。

ボタン操作による手動通報

⚠ 警告

● 呼び返し待機状態のあいだは、後続車の追突などの二次災害を防ぐ手段をとり、乗員は安全な場所へ避難してください。基本的には車内にとどまらず、窓を開け、ヘルプネットセンターのオペレーターの声が聞こえる車外で、安全な場所を確保してください。
● 呼び返し待機中は、緊急通報に関係のない着信も自動的にハンズフリー通話でつながります。通話中は救援活動に関わる着信であっても、着信できません。

⚠ 警告

● 緊急通報できなかったときは、最寄りの公衆電話などから通報してください。
・ 携帯電話サービスエリア外では緊急通報できません。緊急通報できなかったときには、最寄りの公衆電話などから通報してください。
・ 携帯電話サービスエリア内であっても、電波状態または回線混雑のために、緊急通報や通話することが困難になることがあります。このときは、ヘルプネットセンターと回線接続しても通信できず、救援要請の通報および通話ができません。
・ 緊急通報時に、電波状態などの理由で回線接続ができないときは、緊急通報は終了せず電話接続できるまでヘルプネットセンターへの回線接続をくり返し行います。電波状態の良好な場所に移動するか、携帯電話 / 公衆電話などから直接通報してください。

保守点検をする

自動保守点検について

⚠ 注意

自動保守点検開始後、何らかの理由で通信が中断されてしまったときは、次にパワースイッチを OFF から ACC または ON にしたときに、再び自動保守点検を開始します。
何度も正常に終了しないときは、レクサス販売店にご相談ください。

手動保守点検を実施する

⚠ 警告

手動保守点検の途中で、パワースイッチを OFF にしないでください。手動保守点検が正しく終了しません。

スイッチを OFF にしてしまったときは、再度手動保守点検をやり直してください。

⚠ 警告

手動保守点検を実施するときは、途中で中断せず、最後まで完了してください。手動保守点検が正常に終了しても緑の表示灯が点灯しない場合、緊急通報できない可能性があるため、レクサス販売店にご相談ください。

⚠ 注意

手動保守点検は見晴らしのよい場所で行ってください。

- 手動保守点検は、正確に位置情報を送ることができることを確認しています。手動保守点検はビルの谷間や工場などの屋内は避け、GPS を受信できる見晴らしのよい場所で行ってください。
- 手動保守点検開始後、何らかの理由でヘルプネットセンターとの接続ができなかったときは、ヘルプネットスイッチパネルの赤の表示灯が点滅します。このときはパワースイッチを一度 OFF にして、赤の表示灯の点滅が終了してから手動保守点検をやり直してください。携帯電話サービスエリア内でやり直しても接続されないときには、レクサス販売店にご相談ください。

表示灯について

⚠ 警告

- 表示灯が以下のときには、ヘルプネットシステムに異常があることをお知らせしています。これらの異常表示がされたとき、システムが正常作動せず緊急通報できないことがあります。ただちにレクサス販売店にご相談ください。

・ EV システム始動後にヘルプネットスイッチパネルの赤と緑の表示灯が約 5 秒間点灯したあと、赤の表示灯が点滅し続ける。
・ EV システム始動後、赤と緑の表示灯の点灯がいつまでも続く。
・ 携帯電話サービス圏内にもかかわらず赤の表示灯がいつまでも続く。
・ EV システム始動後に赤と緑の表示灯が点灯しない。

- 表示灯は、緊急通報可能または不可能状態を正しく表示しないことがあります。たとえば、解約時の処理をしていない中古車などに搭載された関連機器を使用するときは、サービスの利用契約を結んでいない状態においても緊急通報可能状態として表示することがあります。

故障とお考えになる前に

⚠ 警告

- 緊急事態発生時に緊急通報できないときは、最寄りの公衆電話などから通報してください。

駐車支援システム

パノラミックビューモニターの機能とはたらき

⚠ 警告

- パノラミックビューモニターは、車両周囲確認を補助する装置です。必ず周囲の安全を直接確認しながら運転してください。
- カメラのレンズの特性により、画面に映る人や障害物は、実際の位置や距離と異なります。

シフトポジションが D、N のときの表示モード

⚠ 警告

- 乗車人数、積載量、路面の勾配などにより、画面のガイド線の示す位置はかわります。必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら運転してください。
- クリアランスソナー、FCTA（フロントクロストラフィックアラート）、移動物警報の表示は、カメラ映像に重畳して表示しているため、周囲の明るさや色などによっては見えにくい場合があります。

シフトポジションが R のときの表示モード

⚠ 警告

- 乗車人数、積載量、路面の勾配などにより、画面のガイド線の示す位置はかわります。必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら運転してください。
- クリアランスソナー、RCTA（リヤクロストラフィックアラート）、RCD（リヤカメラディテクション）、移動物警報の表示は、カメラ映像に重畳して表示しているため、周囲の明るさや色などによっては見えにくい場合があります。

ガイド線表示モードの切りかえ

⚠ 警告

- 後方車幅延長線は、実際の車幅より広く表示されます。後退するときは、必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら運転してください。

床下透過映像を表示する

⚠ 警告

- 乗車人数、積載量、路面の勾配、路面状況、周囲の明るさ、オプションの装備、タイヤの履きかえなどにより、タイヤ形状線や車両形状目安線と実際の車両位置がずれる場合があります。必ず周囲の安全を確認しながら運転してください。
- 表示される映像は、過去に撮影された映像です。そのため、撮影後に障害物が動くなど、床下透過映像表示と実際の状況とが必ずしも一致しない場合があります。

GPS 連動 View 表示機能

登録した地点を消去する

⚠ 注意

登録した地点のデータを完全に消去する場合は、レクサス販売店へお問い合わせください。

パノラミックビューモニターの注意点

⚠ 警告

- パノラミックビューモニターを過信しないでください。一般の車と同様、必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら慎重に運転してください。特に周辺に駐車している車や障害物などに接触しないようにしてください。
- 運転操作時は、必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら運転してください。
- 画面だけを見ながら運転操作することは絶対にしないでください。画面に映し出されている映像と実際の状況は異なることがあります。また、カメラの映し出す範囲はかぎられています。画面だけを見て右左折、後退することは絶対にしないでください。車をぶつけたり、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。必ず目視やインナーミラー、ドアミラーなどで周囲の安全を確認し、十分注意した上で運転してください。
- 乗車人数、積載量、路面の勾配などにより、画面のガイド線の示す位置はかわります。必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら運転してください。
- 次のような状況では、使用しないでください。
・凍結、すべりやすい路面、または雪道
・タイヤチェーン、応急用タイヤを使用しているとき
・フロントドア、バックドアが完全に閉まっていないとき
・坂道など平坦でない道路
・タイヤをメーカー指定のものから交換しているとき
・サスペンションを改造しているとき
・画面に映るエリアに社外品を装着しているとき
- 外気温が低い場合、画面が暗くなったり、映像がうすれることがあります。特に動いているものの映像が歪む、または画面から見えなくなることがあるため、必ず周囲の安全を直接目で確認しながら運転してください。
- タイヤを交換すると、画面に表示されるガイド線の示す位置に誤差が生じることがあります。

⚠ 注意

- シースルービュー、ムービングビュー、パノラミックビュー、サイドクリアランスビュー、コーナリングビューは、フロントカメラとバックカメラ、左右サイドカメラが撮影した映像を合成処理した映像です。表示可能な範囲や表示内容には限界があるため、パノラミックビューモニターの特性を十分理解した上で使用してください。
- シースルービュー、ムービングビュー、パノラミックビュー、サイドクリアランスビュー、コーナリングビューの四隅には、それぞれのカメラ映像境界位置を中心に映像合成処理領域が存在し、映像の鮮明度が低下することがありますが、故障ではありません。
- それぞれのカメラ付近の照度条件により、シースルービュー、ムービングビュー、パノラミックビュー、サイドクリアランスビュー、コーナリングビューに明暗ができる場合があります。
- シースルービュー、ムービングビュー、パノラミックビュー、サイドクリアランスビュー、コーナリングビューでは、それぞれのカメラの取り付け位置や撮像範囲より上部は表示されませ

ん。
- 車両付近には死角があり、パノラミックビューモニターには表示されない領域があります。
- ワイドフロントビューまたはバックビュー、ワイドバックビュー、サイドビューに表示されている立体物が、シースルービュー、ムービングビュー、パノラミックビュー、サイドクリアランスビュー、コーナリングビューでは表示されない場合があります。
- パノラミックビューモニターは、人物や障害物などの立体物が実際と異なって表示される場合があります。（倒れているように表示される場合や、映像合成処理領域付近で消えてしまう場合、映像合成処理領域付近から現れるように表示される場合、表示位置の距離感が実際と異なるなど）
- バックカメラが取り付けられたバックドア、サイドカメラを内蔵したドアミラーが取り付けられたフロントドアが開いている場合、パノラミックビューモニターは正しく表示されません。
- シースルービュー、ムービングビュー、パノラミックビュー、サイドクリアランスビュー、コーナリングビューに表示される車両アイコンは、コンピューターグラフィックによる画像を表示しているため、実際の車両とは色や形状、大きさなどが異なります。このため、車両付近の立体物が車両と接触しているように見える場合や、立体物との位置関係が実際の位置関係と異なる場合があります。
- カメラが正しく作動せず、画面が次のように表示されることがあります。

・ シフトポジションを R にしたときに、画面の一部、もしくはすべてが黒映像で表示される
・ シフトポジションを R にしたときに、カメラ映像に切りかわらない
・ シフトポジションを R 以外にしたときに、カメラ映像が表示されたままになる
・ カメラ映像にガイド線などが表示されず、着目マークや注意文が表示される

カメラのお手入れ方法

⚠ 注意

- パノラミックビューモニターが正常に作動しなくなるおそれがあります。次のことにご注意ください。

・ カメラ部を強くたたいたり、ものをぶつけるなど、強い衝撃を与えないでください。カメラの位置、取り付け角度がずれるおそれがあります。
・ カメラ部は防水構造となっています。取りはずし、分解、改造をしないでください。
・ カメラレンズを洗うときは、大量の水でカメラの汚れを流したあと、水で湿らせたやわらかい布でカメラレンズをふき取ってください。カメラレンズを強くこするとカメラレンズが傷付いて、鮮明な画像を見ることができなくなるおそれがあります。
・ カメラのカバーは樹脂です。有機溶剤・ボデーワックス、油膜取り剤、ガラスコート剤などを付着させないでください。付着したときは、すぐにふき取ってください。
・ 寒いときにお湯をかけるなどして急激な温度変化を与えないでください。
・ 洗車時に高圧洗浄機でカメラやカメラ周辺に直接水を当てないでください。強い水圧により衝撃が加わり、装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。

- カメラ部をぶつけたときは、カメラの故障などのおそれがあります。早めにレクサス販売店で点検を受けてください。

⚠ 注意

ノズル部を強くたたいたり、物をぶつけるなど、強い衝撃を与えないでください。ノズルの位置、取り付け角度がずれるおそれがあります。

パーキングアシストライト

⚠ 注意

- パノラミックビューモニターが正常に作動しなくなるおそれがありますので、以下のことにご注意ください。

・ ライト部を強くたたいたり、物をぶつけるなど、強い衝撃を与えないでください。ライトの位置、取り付け角度がずれるおそれがあります。
・ ライト部は防水構造となっていますので、取りはずし・分解・改造をしないでください。
・ ライト部を洗うときは、大量の水でライトの汚れを流したあと、水で湿らせた柔らかい布でライト部をふき取ってください。

・ライトのカバーは樹脂ですので、有機溶剤・ボディワックス・油膜取り剤・ガラスコート剤などを付着させないでください。付着したときは、すぐにふき取ってください。
・寒いときにお湯をかけるなどして急激な温度変化を与えないでください。
・洗車時に高圧洗浄機でライトやライト周辺に直接水を当てないでください。強い水圧により衝撃が加わり、装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。
● ライト部をぶつけたときは、ライトの故障などのおそれがあります。早めにレクサス販売店で点検を受けてください。

画面と実際の立体物との誤差

⚠ 警告

クリアランスソナーの表示が赤色のときは、必ず直接確認して、それ以上進まないでください。車をぶつけるなど、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

ETC の利用

ETC サービスについて

ETC を利用する前に

⚠ 警告

安全のため、運転者は走行中に ETC カードの抜き差し、および ETC2.0 ユニットの操作を極力しないでください。走行中の操作はハンドル操作を誤るなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。車を停車させてから操作をしてください。

⚠ 注意

● ETC2.0 ユニットを用いたサービスには、さまざまな制約があります。サービス提供者が案内する利用方法をご確認ください。
● 路側無線装置との通信の妨げにならないよう、ETC アンテナ（インストルメントパネル中央付近に内蔵されています。）の上方には物を置かないでください。
● ETC アンテナの近くに電波を発する電子機器を設置しないでください。電波干渉により、無線通信が正常に行われず、開閉バーが開かない、料金決済サービスが正しく受けられないなどの原因となる可能性があります。

＜干渉の可能性がある主な機器＞
・Wi-Fi® を搭載した機器（モバイルルーター、携帯電話など）
・レクサス純正品以外の無線機器
＜干渉が発生した場合の対処＞
・ETC アンテナからできるだけ距離を離し設置するか、干渉する機器を取りはずしてください。
・Wi-Fi® を搭載した機器は、2.4GHz ワイヤレスネットワークを選択してください。（可能であれば）
● フロントガラスのよごれや積雪がひどい場合は、それらを取り除いてください。
● 車両 1 台に対して複数の ETC ユニットまたは ETC2.0 ユニットを取り付けると、ゲートの開閉バーが開かないことがあります。

⚠ 注意

● ETC カードの取り扱いについては、ETC カード発行会社の提示する注意事項に従ってください。
● 変形、または破損した ETC カードは使用しないでください。
● セロハンテープ・シールなどが貼ってある ETC カードは使用しないでください。
● ETC カードの金属接点部に手で触ったり汚れた財布などに保管しないでください。
● 金属端子（IC チップ）が汚れている ETC カードは使用しないでください。

⚠ 注意

● ETC カードに記載された有効期限を、あらかじめ確認してください。ETC カードの有効期限が切れていると、開閉バーが開かず、思わぬ事故につながるおそれがあります。
● ETC カードの有効期限案内は、補助手段として使用してください。ETC を使用する前は、ETC カードに記載されている有効期限を確認してください。
● ETC カード接点に汚れが付着していないかを確認してください。汚れが付着していると、エラーが発生したり、開閉バーが開かなくなる恐れがあります。ETC カードは汚れの付きにくい場所に保管するとともに、ETC 接点部を定期的にクリーニングしてください。
● ETC カードは EV システム始動後に挿入してください。EV システム始動前に挿入されていると ETC カード内のデータが破損す

るおそれがあります。

⚠ 注意

- ETC を利用する際は、あらかじめ ETC カードが確実に ETC2.0 ユニットに挿入されていることと、ETC2.0 ユニットが正常に作動していることを確認してください。
- ETC2.0 ユニットが ETC カードを認証するまでには数秒かかりますので、料金所手前で ETC カードを挿入すると、開閉バーが開かず、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ETC ゲート手前、ETC ゲート、高速道路を走行中、ETC カードを抜いたり挿したりしないでください。ETC カード内のデータが破損したり、正しく料金清算が行われなくなる恐れがあります。

ETC2.0 ユニットの使い方

ETC2.0 ユニットについて

⚠ 注意

- ETC2.0 ユニットの内部に異物などを入れないでください。ETC2.0 ユニットが故障するおそれがあります。
- ETC2.0 ユニットに衝撃を与えないでください。ETC2.0 ユニットが、故障・破損するおそれがあります。
- ぬれた手で ETC2.0 ユニットにふれたり、水（液体など）を付着させないでください。ETC2.0 ユニット内部に水が入り、故障・破損するおそれがあります。また、付着した液体の成分によっては、ETC2.0 ユニットが変形・変色・故障する場合があります。
- 汚れたときは、柔らかい乾いた布でよごれをふき取ってください。ワックス、シンナー、アルコールなどの薬品は絶対に使用しないでください。ETC2.0 ユニットが変形・変色・故障する場合があります。

ETC カードを挿入する

⚠ 注意

- 緑ランプが点灯した場合でも、解約済み、または有効期限が切れている、またはカード会社が使用無効とした ETC カードを使用した場合、ETC 車線に設置されている開閉バーが開かないことがあります。
- 料金所のカードリーダでは正しく認証されないのに緑ランプが点灯する場合がありますが、ETC2.0 ユニットの故障ではありません。このようなときは、カード会社にカードの再発行を申し出てください。
- 緑ランプが点滅中は ETC カードを抜かないでください。ETC カード内のデータが破損するおそれがあります。

⚠ 注意

- GPS の受信状態により、ごく稀に誤って有効期限切れ通知をすることがありますが、ETC2.0 ユニットの故障ではありません。誤った通知が継続する場合は、レクサス販売店で点検を受けて相談してください。
- ナビゲーションシステムを補機バッテリーターミナルから脱着したあとに起動した場合、GPS 情報受信後、数分間は有効期限切れ通知されないことがあります。

ETC カードを抜く

⚠ 注意

ETC カードが取り出せなくなった場合。無理に取り出さず、レクサス販売店にお問い合わせください。

⚠ 注意

高速道路をご利用中の場合は、出口料金所での通行料金のお支払いは、係員のいる車線（「一般」、「ETC/ 一般」、「ETC/ サポート」または「サポート」）で、いったん停車して、ETC カードを係員にお渡しください。料金精算機のある車線では、「係員呼出ボタン」を押して係員を呼び出してください。

ETC ゲート（入口・出口／精算用）の通過について

⚠ 警告

運転者は走行中にランプ表示を見ないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

ETC ゲート通過時は、ETC ゲート付近に表示されている案内に従って走行してください。ETC2.0 ユニットやナビゲーションシステムでは、エラーが案内されない場合があります。

利用履歴を確認する

⚠ 警告

ETC ゲート付近では、利用履歴の確認を行わないでください。路側無線装置と通信ができなくなるなど、ETC 車線に設置されている開閉バーが開かず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

付録

認証・商標についての情報

通信モジュール（DCM）についての情報

- 通信モジュール（DCM）は、電波法および電気通信事業法の基準に適合しています。製品本体のネームプレートはその証明ですので、ネームプレートの記載を削除しないでください。
- 通信モジュール（DCM）を分解・改造すると、法律により罰せられることがあります。

ETC2.0 ユニットについての情報

ETC2.0 ユニットは電波法の基準に適合しています。製品上の記載を削除しないでください。また、ETC2.0 ユニットを分解・改造すると、法律により罰せられることがあります。

アクセサリーパーツ取扱説明書掲載サイト

アクセサリーパーツの取扱方法、安全に関する情報などを記載しております。
安全・安心にご使用いただくために、お持ちのアクセサリーパーツについて、必ずお読みください。
本サイトは、お持ちのスマートフォンやタブレット、
携帯電話等にて QR コードを読み取りいただくか、下記 URL より閲覧してください。
なお、紙面で必要な場合はサイトより印刷いただくか、レクサス販売店にご相談ください。

https://manual-accessories.toyota/CAWeb/index.html

「個人情報保護方針」については、https://lexus.jp にて掲載しております。

ネJ-9

M46139
01999-46139
Printed in Japan 01-2611 I

RZ550e / RZ500e / RZ350e
ユーザーガイド